

※ポリシーとの関連性 介護は、社会福祉の重要な援助技術と位置づけ、技術と同時に人間に対する姿勢や考え方に考え対応力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護概論	前期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳、他	2年	質問はクラスで受け付ける。	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、専門職としての倫理等について理解する	メッセージ 受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術と同時に、社会の行動や介護に関する政策面についても情報を収集し理解を深めるよう努めること
	到達目標 クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解することを目標とする	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション 講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など
	2	高齢者の理解1 (動向、介護問題の論点)
	3	高齢者の理解2 (介護の内容・意味、現場の実情など)
	4	日常生活基本動作・障害の概念
	5	食事介助 (食事と嚥下)
	6	移動・移乗の介護
	7	認知症の理解とケア
	8	入浴・着脱介助
学びの実践	9	排泄のケア
	10	日常生活基本動作
	11	コミュニケーション
	12	レクリエーション・余暇活動の進め方
	13	リスクマネジメント・虐待の構造・防止の手立て
	14	介護と看護の連携
	15	介護者の身体面・精神面の管理、まとめ
	16	
テキスト・参考文献・資料など クラスの中で指定する 必要に応じて、資料を配付する		
学びの手立て 多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する		
評価 必要に応じて詳論を課し、学期末に、まとめのレポートを課す		

学びの継続	次のステージ・関連科目 介護技術の履修を希望する
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	未定	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	未定	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションという視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	現代の家族	初回から講義します
	2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
	3	日本における近代家族の生成 (1)	配布資料を熟読すること
	4	日本における近代家族の生成 (2)	配布資料を熟読すること
	5	戦後の社会変動と家族 (1)	配布資料を熟読すること
	6	戦後の社会変動と家族 (2)	配布資料を熟読すること
	7	沖縄の家族 (1)	配布資料を熟読すること
8	沖縄の家族 (2)	配布資料を熟読すること	
9	家族とケア	配布資料を熟読すること	
10	子どもという存在	配布資料を熟読すること	
11	ヴィクトリア朝と家族	配布資料を熟読すること	
12	母親の社会史	配布資料を熟読すること	
13	家族システムとダブルバインド	配布資料を熟読すること	
14	近代家族とアディクション	配布資料を熟読すること	
15	家族と暴力	配布資料を熟読すること	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思案社）		
学びの手立て	現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。近代という夢から醒めた後に、どういうビジョンがもてるのかという問いを共有できることがのぞましい。毎回の受講の積み重ねが力になる。		
評価	毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出する。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価を毎回する。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課す。出席、リアクション・ペーパー、テストで総合的に勘案して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
到達目標	現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションという視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	現代家族	初回から講義します
	2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
	3	日本における近代家族の生成 (1)	配布資料を熟読すること
	4	日本における近代家族の生成 (2)	配布資料を熟読すること
	5	戦後の社会変動と家族 (1)	配布資料を熟読すること
	6	戦後の社会変動と家族 (2)	配布資料を熟読すること
	7	沖縄の家族 (1)	配布資料を熟読すること
8	沖縄の家族 (2)	配布資料を熟読すること	
9	家族とケア	配布資料を熟読すること	
10	子どもという存在	配布資料を熟読すること	
11	ヴィクトリア朝と家族	配布資料を熟読すること	
12	母親の社会史	配布資料を熟読すること	
13	家族システムとダブルバインド	配布資料を熟読すること	
14	近代家族とアディクション	配布資料を熟読すること	
15	家族と暴力	配布資料を熟読すること	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思案社）</p>		
学びの手立て	<p>現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。近代という夢から醒めた後に、どういうビジョンがもてるのかという問いを共有できることがのぞましい。毎回の受講の積み重ねが力になる。</p>		
評価	<p>毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出する。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価を毎回する。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課す。出席、リアクション・ペーパー、テストで総合的に勘案する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	2年	shogo@oc.jc.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語でふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、かなりハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	外国語演習のオリエンテーション。米国と日本でのカウンセリングの価値観の違い	配布資料を読む。
	2	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	The Role and Responsibility of Psychologists	配布資料を読む。単語テスト
	5	Projective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	6	Objective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	7	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	8	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	9	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	10	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	13	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	14	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
	15	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。
-------	--

学びの実践	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年		

学びの準備	ねらい 学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。	メッセージ 現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。
	到達目標 心理学でよく使用される英語を知ることで、専門用語（英語）の語彙力が高まります。英語で書かれた心理学文献をスムーズに訳することが出来るようになります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録、オリエンテーション	配布資料の予習
	2	発達障がい（英語の文献を読み解く）	配布資料の英単語を調べる
	3	発達障がい（英語の文献を読み解く）	発達障がいの英語の文献を和訳する
	4	発達障がい（英語の文献を読み解く）小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
	5	小テスト（発達障がい）・心理アセスメント（英語圏の心理アセスメントを理解する）	配布資料の英単語を調べる
	6	心理アセスメント（英語圏の心理アセスメントを理解する）、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習
	7	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）、課題提出	配布資料の単語を調べる
	8	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）	配布資料を和訳する
	9	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）・小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
	10	小テスト（カウンセリング）・集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料の英単語を調べる
	11	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料を和訳する
	12	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）、小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
	13	小テスト（集団心理療法）虐待・ドメスティックバイオレンス・神話	配布資料の単語を調べる
	14	虐待・ドメスティックバイオレンス・神話、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習
15	課題提出、全体のまとめ	復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。原書を読む楽しさを学び、理解を深める。 Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher. その他、参考文献は講義の中で紹介する。		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書OK。スマホアプリ辞書OK）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。 意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。		
	評価 各単元終了後、小テスト（3回）、課題（2回）。小テスト（60%）、課題（30%）、平常点10%。欠席（-2点）、遅刻（-1点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習 II
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。	メッセージ 英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できるように授業にしたいと思います。
	到達目標 この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっていても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	Carl Jung(133頁1行目～135頁9行まで)	授業の範囲を予習しておく
	3	Carl Jung (135頁10行目～137頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
	4	John Bowlby (158頁1行目～160頁15行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
	5	John Bowlby (160頁16行目～162頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
	6	Attribution Theory (163頁1行目～166頁5行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
	7	Attribution Theory (166頁6行目～168頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
	8	Albert Ellis (195頁1行目～197頁8行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
9	Albert Ellis (197頁9行目～199頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
10	Cognitive Behavior Therapy (200頁1行目～202頁12行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
11	Cognitive Behavior Therapy (202頁13行目～204頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
12	Personality Disorder (227頁1行目～229頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
13	Personality Disorder (230頁1行目～232頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
14	The Rosenhan Experiment (237頁1行目～239頁17行まで)	前回の復習とその日の授業の予習	
15	The Rosenhan Experiment (239頁18行目～240頁最後の行まで) 、まとめ	前回の復習とその日の授業の予習	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは、A Crash Course in the Science of the Mind, PaulKleinman, 2012, AdamsMedia。授業はプリントを配布して行う。		
	学びの手立て 語学は、頑張れば頑張るほど必ず力がついてきます。才能よりも努力です。単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手になっている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は、日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。		
	評価 期末試験 (50%)、小テスト (30%)、課題(20%)、出席状況等を総合的に考慮して行います。毎回、授業開始前に10分程度の小テスト(前回授業の振り返り)は、3点満点で10回程度行う予定です。合計で30点満点になります。5回以上欠席した場合は、単位は与えられません。20分以上遅刻した場合は、遅刻ではなく、欠席扱いとなります。遅刻3回で1回欠席となりますので、注意してください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。	英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できるように授業にしたいと思います。

到達目標	この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっていても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	Chapter 8, p289～p290、35行まで	授業の範囲を予習しておく
	3	Chapter 8, p290、36行～p291、最後の行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	4	Chapter 8, p292、1行～p293の29行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	5	Chapter 8, p293、30行～p294の34行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	6	Chapter 8, p294、35～p296の17行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	7	Chapter 8, p296、18行～p297の30行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	8	Chapter 8, p297、31行～p298の42行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	9	Chapter 8, p298、43行～p300、11行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	10	Chapter 8, p300、12行～p301、30行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	11	Chapter 8, p301、31行～p303、14行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	12	Chapter 8, p303、15行～p304、32行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	13	Chapter 8, p304、33行～p306、12行まで	前回の復習とその日の授業の予習
	14	Chapter 8, p306、13行～p307、33行まで	前回の復習とその日の授業の予習
15	Chapter 8, p307、34行～p308、34行まで	前回の復習とその日の授業の予習	
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは、The Social Animal Ninth Edition, Elliot Aronson, Worth Publisher を用いる。この本は、心理学の紹介本で、英文の文章が美しいという点で評判の本です。主に、社会心理学の観点から心理学を紹介している書で、心理学専攻の学生には、是非読んでほしい一冊です。今回は、この書の中から、Liking, Loving, and Interpersonal Sensitivityのchapterを扱う。

学びの手立て	語学は、単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手になっている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は、日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。
--------	---

評価	小テスト (30%) 毎回、授業開始前に10分程度の小テスト (前回授業の振り返り) を行います。 期末試験 (70%)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 外国語演習Ⅰで学んだものを元に、英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。 さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。	メッセージ 現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。
	到達目標 英語で書かれた文献を通して、外国（主に米国）での心理学の現状や心の病についてなど学習することが出来ます。 大学で現在学んでいる心理学と外国（主に米国）での心理学トピックを交差させることができ、学びが深くなります。 さらに、英語で心理学文献を読むストレスが低くなります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション	配布資料の予習
	2	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の単語を調べる
	3	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の和訳
	4	心理学関連トピック 原書講読	配布資料の和訳
	5	心理学関連トピック 原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
	6	小テスト、心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の単語を調べる
	7	心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の和訳
	8	心理学関連時事英語 原書講読	配布資料の和訳
	9	心理学関連時事英語 原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
	10	小テスト、心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の単語を調べる
	11	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
	12	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
	13	心理学関連研究論文 原書購読	配布資料の和訳
14	心理学関連研究論文 原書購読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習	
15	小テスト、全体のまとめ	復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。参考文献は講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書OK。スマホアプリ辞書OK）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。 意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。		
	評価 各単元終了後、小テスト（3回）。小テスト（90%）、平常点10%。欠席（-2点）、遅刻（-1点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	2年	shogo@oc.jc.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語にふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、ハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。 2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かすことができる。 3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	外国語演習オリエンテーション。子どもに見られる精神障害について。	配布資料を読む。
	2	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	5	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	6	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	7	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	8	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	9	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	10	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	13	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	14	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	15	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。		
	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。		
	評価 単語テスト・・・30% 課題・・・20% 期末テスト・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習心理学 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎課程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても取り上げる。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。	メッセージ 学習というと、イコール勉強と考えがちですが、それだけではありません。レモンを見て唾が出るのも、小遣いが欲しくてせっせと手伝いをするのも、兄弟が叱られているのを見て自分はそれを真似しなくなるのも、すべて学習です。生活の様々な場面に学習原理を当てはめることができます。日常的な例もたくさん挙げながら、楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 学習の基本原理や関連する概念について十分に理解し、説明できるようにする。その上で、学習研究の現在の動向や臨床への応用、日常生活との関連性について興味や理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、学習心理学とは	資料の見直し、豆テストの復習
	2	学習心理学の歴史と心理学の中での位置付け	〃
	3	〃	〃
	4	記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）	〃
	5	〃	〃
	6	記憶の定着（リハーサルと符号化）	〃
	7	記憶の忘却	〃
	8	生得的行動パターン	〃
9	馴化の基本原則	〃	
10	古典的条件づけの基本原則	〃	
11	〃	〃	
12	高次条件づけ	〃	
13	古典的条件づけの臨床への応用	〃	
14	〃	〃	
15	古典的条件づけにおける生物学的制約	〃	
16	テスト	〃	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。講義毎に資料を配布する。指定図書「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社		
	学びの手立て 学習心理学 I・II の順で履修することが望ましい。ほぼ毎回、講義終了時にその日の内容についての豆テストを行う。質問等は随時受け付けますので、積極的に参加し、理解を積み重ねていくように心がけてください。		
	評価 期末試験（1回）の結果によって評価する。試験は持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「学習心理学 II」では、I で取り上げなかったオペラント条件づけ、観察学習等について学びます。
-------	---

※ポリシーとの関連性 人間の学習行動を論理的に考え、説明するための知識を習得する。
(カリキュラムポリシーの1に該当)

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学習心理学Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけ及び、より洗練された学習形態である観察学習について概説する。それぞれにおいて基本原理や関連する概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても取り上げる。また、全ての学習行動の基礎となる運動技能の学習についても概説する。	学習というと、イコール勉強と考えがちですが、それだけではありません。レモンを見て唾が出るのも、小遣いが欲しくてせっせと手伝いをするのも、兄弟が叱られているのを見て自分はそれを真似しなくなるのも、すべて学習です。生活の様々な場面に学習原理を当てはめることができます。日常的な例もたくさん挙げながら、楽しく学んでいきましょう。
到達目標	学習の基本原理や関連する概念について十分に理解し、説明できるようにする。その上で、学習研究の現在の動向や臨床への応用、日常生活との関連性について興味や理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、4タイプの学習形態（学習心理学Ⅰの復習を含む）	資料の見直し
	2	オペラント条件づけの基本原理	資料の見直し、豆テストの復習
	3	〃	〃
	4	オペラント条件づけの生物学的制約	〃
	5	強化スケジュール	〃
	6	〃	〃
	7	回避と罰	〃
8	〃	〃	
9	行動療法への応用	〃	
10	オペラント条件づけの理論と研究	〃	
11	模倣理論	〃	
12	パーソナリティ形成や認知的発達における観察学習	〃	
13	観察学習の臨床への応用	〃	
14	運動技能の学習	〃	
15	〃	〃	
16	テスト	〃	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。講義毎に資料を配布する。指定図書「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社		
	学びの手立て		
	学習心理学Ⅰ・Ⅱの順で履修することが望ましいが、Ⅱから履修した場合も理解できるよう、随時、Ⅰのおさらいをしながら講義を進めていきます。ほぼ毎回、講義終了時にその日の内容についての豆テストを行います。質問等は随時受け付けますので、積極的に参加し、理解を積み重ねていくように心がけてください。		
	評価		
	期末試験（1回）の結果によって評価する。試験は持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日常生活の中で、我々の行動や思考が変化していく様を、学習原理に当てはめて考察してみる態度をさらに磨いていってください。講義内では取り上げることのできなかったテーマ（概念形成など）についても自分で調べてみるとよい。

※ポリシーとの関連性 臨床心理学の知見を、学校臨床での実践と関連付けて学んでいきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校臨床心理学	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	3年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や、学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していきます。	メッセージ 講義は真剣に、しかし（学校）臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。
	到達目標 現在の小・中学校の現状を知り、不登校、いじめ、緊急支援など問題行動に対する臨床心理学的解決手段を知る。また、同時にストレスマネジメントなどのプロアクティブな支援のあり方についても学ぶことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは	シラバスを確認すること
	2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）	同上
	4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学	同上
	5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコロジストとスクールカウンセラー	同上
	6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）	同上
	7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）	同上
	8	学校臨床最前線から（1）いじめ	同上
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場	同上	
10	学校臨床最前線から（1）不登校	同上	
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為	同上	
12	学校での今日的課題（1）：発達障害	同上	
13	学校での今日的課題（2）：選択性緘黙	同上	
14	学校での今日的課題（3）：ストレスマネジメント	同上	
15	まとめ：学校臨床心理学とは	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義のなかで適宜資料を配布する。 講義のなかで適宜紹介する。また、特に指定はないが臨床心理学の入門書、あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧めます。		
	学びの手立て 履修の心構え： ・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。 ・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。		
	評価 基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学校臨床での心理学的知見の実践のための科目であるため、「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」、「教育心理学」「心理面接法」などの履修と理解が望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1 年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	メッセージ 前期「フレッシュマンセミナー」（知名孝担当）の学生が後期履修することになります。夏期休暇中に障害児通所施設で行ったボランティア実習の振り返りを通して学習を進めていきます。
	到達目標 大学教育の中で必要とされるディスカッションやディベート力、レポートやプレゼンテーションの作成能力を高めていきます。ボランティア実習を通して、現場で働くことを体験的に学ぶ機会にもしていきます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。
	テキスト・参考文献・資料など それぞれの授業のなかで紹介していく。 それぞれの授業のなかで紹介していく。
	学びの手立て
	評価 ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	2年次以降、専門科目を学ぶ上で身につけておくべき知識や技術、姿勢を学びます。主に、発表をする時に行うこと（文献検索、資料収集、レジュメやパワーポイントの作成、資料の印刷、PCやスクリーンの設置方法など）を体験しながら学びます。	大学では自分の考えを深めたりそれを発表する機会がたくさんあります。本科目では発表に関わることを体験しながら学びます。また、発表するだけでなく、質問する力も身につけていきましょう。
到達目標	①個別に研究したことをまとめることができる。 ②発表のスキルを高めることができる。 ③質問のスキルを高めることができる ④その他、卒論発表会に出席して他の学生の発表の様子を見ることで2年次以降の専門分野の学びを具体化することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要説明	
	2	講義：個別研究の意義と研究方法	
	3	講義：レジュメとパワーポイントの作成方法	
	4	面談：個別研究のテーマ設定①	
	5	面談：個別研究のテーマ設定②	
	6	専門演習について理解する～上級生との交流	
	7	個別発表①	
	8	個別発表②	
	9	個別発表③	
	10	個別発表④	
	11	個別発表⑤	
	12	個別発表⑥	
	13	個別発表⑦	
14	個別発表⑧		
15	まとめ①		
16	まとめ②		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。 ②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、講演会や研修に積極的に参加しましょう。		
	評価		
	個別研究発表内容（50%）、演習参加状況（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきましょう。 ②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
	3	レポートを書く技術	配付資料の精読
	4	社会人講師による講演（予定）	
	5	合同ゼミ（予定）	
	6	国際理解と国際福祉の紹介	
	7	JICAについて	
	8	専門演習について	
9	研究論文の読み方1	配付資料の精読	
10	研究論文の読み方2	配付資料の精読	
11	グループ発表	配付資料の精読	
12	グループ発表	配付資料の精読	
13	グループ発表	配付資料の精読	
14	グループ発表についての振り返り		
15	講義全体の振り返り		
16			
	テキスト・参考文献・資料など よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年 その他、必要に応じて、資料を紹介・配付する。		
	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定している所以他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。 遅刻や欠席をしないこと。		
	評価 出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。 日々の講義態度も評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。	

学びの準備	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
	3	レポートを書く技術	配付資料の精読
	4	社会人講師による講演（予定）	
	5	合同ゼミ（予定）	
	6	国際理解と国際福祉の紹介	
	7	JICAについて	
	8	専門演習について	
	9	研究論文の読み方1	配付資料の精読
	10	研究論文の読み方2	配付資料の精読
	11	グループ発表	配付資料の精読
	12	グループ発表	配付資料の精読
	13	グループ発表	配付資料の精読
	14	グループ発表についての振り返り	
15	講義全体の振り返り		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定している所以他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。
-------	---

学びの実践	評価 出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」に続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。	1年次の後期は、前期で身につけたコミュニケーション技能とグループでの学習・討論の姿勢をいかして、社会福祉に関する基礎的な学習を行います。2年次の専門的な学習や大学生にとっての基本的なスキル（レポートの書き方など）にも関わるので、頑張ってください。
到達目標	学士力（ジェネリックスキル）としての「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）を身につける。聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。 ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。 ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。 ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。 ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。 ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。 ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。 <p>また、基礎演習では10月下旬～11月上旬ごろ、2年次の専門演習に向けたオリエンテーションを予定している。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミは前期の「フレッシュマンセミナー」と同じクラスに登録すること。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。</p> <p>個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること（とくに2年次の専門演習に向けたオリエンテーションなどのスケジュールには注意すること）。</p> <p>必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。</p> <p>与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
<p>評価</p> <p>以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表への取り組み姿勢が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a</p> <p>次のステージ：</p> <p>1年次では社会福祉や周辺関連分野の学問について基礎的なことを学ぶ。その中から、自己の関心領域を絞り込み、2年次以降の専門領域を確立する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、大学生活への適応を支援しながら、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらで得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。4月末の日曜日に1日研修会を行います。</p>
到達目標	<p>次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要かつ適確な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジュメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	コミュニケーションスキルのグループワーク	ライティング課題1
	3	グループディスカッションの進め方	ライティング課題2
	4	キャンパス相談室の紹介と臨床心理士の仕事	ライティング課題3
	5	Eメールの使い方とマナー	ライティング課題4
	6	図書館オリエンテーション	ライティング課題5
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1
	8	キャリア形成について考えるー1年次からのキャリア形成ー	ライティング課題6
	9	レポートの書き方②	ミニレポート2
	10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7
	11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索
	12	職業調べ①	グループミーティング・資料作成
	13	職業調べ②	グループミーティング・資料作成
	14	職業調べ学習発表会	グループミーティング振り返り
15	心理学と職業オリエンテーション(合同ゼミ)	ミニレポート3	
16	※4月末の日曜日に1年次合同1日研修会を行う		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。 藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房 溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ
----	---

学びの手立て	<p>まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人攻撃ではなく、共通の課題解決のために建設的な意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすことが大事。傍観者にならず、関与すること。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。</p>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出欠状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 ・発表点…30点 ・ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点 <p>以上を総合して評価する。ただし、演習科目なので、出欠状況を重視する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させてほしい。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつなげてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	コミュニケーションスキルグループワーク	ライティング課題1
	3	グループディスカッションの進め方	ライティング課題2
	4	キャンパス相談室の紹介と臨床心理士の仕事	ライティング課題3
	5	Eメールの使い方とマナー	ライティング課題4
	6	図書館オリエンテーション	ライティング課題5
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1
8	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題6	
9	レポートの書き方②	ミニレポート2	
10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7	
11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索	
12	調べ学習①	グループミーティング・資料作成	
13	調べ学習②	グループミーティング・資料作成	
14	職業調べ発表会	グループミーティング・振り返り	
15	心理学と職業オリエンテーション	ミニレポート3・振り返り課題	
16	*4月末の日曜日に1日研修会を行う		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはとくに指定しない 参考図書は適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。</p>		
評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	1年	研究室：9号館 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。4月末の日曜日に1日研修会を行います。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	コミュニケーションスキルグループワーク	ライティング課題1
3	グループディスカッションの進め方	ライティング課題2	
4	キャンパス相談室の紹介と臨床心理士の仕事	ライティング課題3	
5	Eメールの使い方とマナー	ライティング課題4	
6	図書館オリエンテーション	ライティング課題5	
7	レポートの書き方①	ミニレポート1	
8	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題6	
9	レポートの書き方②	ミニレポート2	
10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7	
11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索	
12	調べ学習①	グループミーティング・資料作成	
13	調べ学習②	グループミーティング・資料作成	
14	職業調べ発表会	グループミーティング振り返り	
15	心理学と職業オリエンテーション	ミニレポート3	
16	*4月末の日曜日に1日研修会を行う		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。4月末の日曜日に1日研修会を行います。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	コミュニケーションスキルグループワーク	ライティング課題1
	3	グループディスカッションの進め方	ライティング課題2
	4	キャンパス相談室の紹介と臨床心理士の仕事	ライティング課題3
	5	Eメールの使い方とマナー	ライティング課題4
	6	図書館オリエンテーション	ライティング課題5
	7	レポートの書き方①	ミニレポート1
	8	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成～	ライティング課題6
9	レポートの書き方②	ミニレポート2	
10	心理学実験室見学ツアー	ライティング課題7	
11	調べ学習オリエンテーション	グループミーティング・文献検索	
12	調べ学習①	グループミーティング・資料作成	
13	調べ学習②	グループミーティング・資料作成	
14	職業調べ発表会	グループミーティング振り返り	
15	心理学と職業オリエンテーション	ミニレポート3	
16	*4月末の日曜日に1日研修会を行う		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらで得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むということではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく方法を考え、それを実践する力を養うことが、大学での「学び」においては特に重要です。この能力は、どのような社会のどのような領域においても求められる大事な能力です。本演習では、その基礎を学びます。
到達目標	次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要かつ適確な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジュメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	キャリア形成について考える②～キャリア形成につなげる大学生活の過ごし方～	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
	14	キャリア形成について考える③	ミニレポート
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の3冊をあげておきます。</p> <p>藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房 溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房</p>
----------------	--

学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人攻撃ではなく、共通の課題解決のために建設的な意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすことが大事。傍観者にならず、関与すること。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。</p>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習への参加態度、課題の提出状況）…40点 ・発表点…30点 ・ミニレポート・課題の提出状況と出来栄…30点 <p>以上について、総合的に判断し、評価します。 出欠状況は、特に重視されます。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させてほしい。 ・共通科目・心理学の各専門科目での学びにつなげてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	1年	研究室：9号館618 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	キャリア形成について考える②～キャリア形成につなげる大学生活の過ごし方～	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り	
9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り	
10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート	
11	レポートの書き方①	予習課題	
12	レポートの書き方②	復習課題	
13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート	
14	キャリア形成について考える③	ミニレポート	
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	適宜、紹介する。参考図書は適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。</p>		
評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習A・Bで学んだことを「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	1年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	キャリア形成について考える②～キャリア形成につなげる大学生活の過ごし方～	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
14	キャリア形成について考える③	ミニレポート	
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、特に指定しない。 参考文献は、講義時に適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。</p>		
評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>
到達目標	<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	2	心理学用語調べPart I：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	3	心理学用語調べPart I：発表会①	グループミーティング・振り返り
	4	心理学用語調べPart I：発表会②	グループミーティング・振り返り
	5	キャリア形成について考える②～キャリア形成につなげる大学生活の過ごし方～	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：課題の説明など	グループミーティング・文献検索
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習	グループミーティング・資料作成
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	グループミーティング・振り返り
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	グループミーティング・振り返り
	10	グループディスカッションのワーク②	ミニレポート
	11	レポートの書き方①	予習課題
	12	レポートの書き方②	復習課題
	13	対人交流促進のためのグループワーク体験	ミニレポート
14	キャリア形成について考える③	ミニレポート	
15	心理学基礎演習（2年ゼミ）についてのオリエンテーション	紹介された文献の入手・読む	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜、紹介する。 参考図書は適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。</p>		
評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、課題の提出状況）…40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア・カウンセリング	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。	メッセージ 臨床心理士として働いている講師がキャリア・カウンセリングについて講義します。キャリア・カウンセリングの理論家を一人ずつ紹介するとともに、厚生労働省の施策や現状についても説明します。産業・組織心理臨床の話も織り交ぜながら講義します。
	到達目標 理論や実践を学ぶだけでなく、自己理解にもつながります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション	教科書の予習
	2	キャリア発達の各アプローチ	1章復習（再読）
	3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン／ライフ・スペース理論的アプローチ」	2章復習（再読）
	4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」	3章復習（再読）
	5	ジョン・クンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」	4章復習（再読）
	6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」	5章復習（再読）
	7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」	6章復習（再読）
	8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジション」	7章復習（再読）
	9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」	8章復習（再読）
	10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」	9章復習（再読）
	11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」	10章復習（再読）
	12	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
	13	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
14	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング	配布資料復習	
15	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング、課題（ワーク）提出	配布資料復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】※要購入 渡辺 三枝子（2007）「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」 ナカニシヤ出版 【参考文献】配布資料となります Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers		
	学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯・スマホ等の利用不可。意欲的な授業参加を求める。		
	評価 課題の提出必須。課題（ワーク）90%、平常点10%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

教育界に対する理解を深めることは、人間福祉学科の幅広い人材を育てるというポリシーとも一致すると思われま

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	以下のアドレスへお問い合わせください。 kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業を通して、教育心理学の基礎知識を習得することを第一の目的としますが、同時に、教育心理学的な視点から『授業』や「教育活動」を分析して効果的な指導方法を創意工夫できるようになることもねらいとしたいと思います。加えて、学級経営や生徒指導等に知識を活用できるようになればと思います。	受講者の数にもよりますが、可能な限り、様々のテーマについて、グループ、あるいは、全体での議論や活動が活発に行われるような授業としたいと思います。
到達目標	将来、教育現場の教師らと関わったときに、教育場面での情報を得ることは役立つと思われま	
備	この授業では、学校の実情や教育現場のニーズを紹介し、教育現場については理解を深めさせたいと思われま	
	このような体験は、将来、教育分野に進んだ場合に、幅広い対応が可能になると思われま	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	本授業の説明、教育心理学とは何か	教育心理学の定義について調べる
	2	教育心理学の研究法	教育心理学の研究法の復習
	3	学習と記憶	記憶と忘却についての復習
	4	動機づけ（欲求、マズローの欲求階層説、内発的動機づけと外発的動機づけ、など）	自らの学習への動機づけの確認
	5	学力と学習の最適化（プログラム学習、発見学習、有意味受容学習、適正処遇交互作用など）	教授—学習理論を考えよう
	6	自己理解とパーソナリティ（類型論、特性論等）	性格をどうとらえるか考えよう
	7	教育評価（妥当性と信頼性、絶対評価と相対評価など）	教育の効果はどう評価するか考える
	8	発達の原理（環境閾値説、輻輳説、など）	発達とは何か考えてみよう
	9	発達段階の特徴（乳幼児期、児童期、青年期は発達の特徴）	各発達課題の振り返り
	10	学校不適応行動の理解（いじめ、不登校など）	いじめ問題を解決するか考えよう
	11	開発的学級経営（教師のリーダーシップ、PM理論など）	子どもの社会性をどう育てるか
	12	学級集団の心理学と教育（学級集団の構造—フォーマルとインフォーマルなど）	学級集団をどう理解するか考えよう
	13	発達障害と心理学的支援（広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など）	発達障害の特性に応じた支援とは？
	14	キャリア教育	キャリア教育とはどんな教育か
15	教育相談、まとめ	児童・生徒をどう指導すればよいか	
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	『教育心理学』米澤富士雄・足立正常・倉盛一郎編著 2006 北王路書房 『生徒支援の教育心理学』前原竹子編著 2007 北王路書房 『新・教育心理学』伊藤隆二編著 2003 八千代書房 『ベーシック現代心理学 教育心理学』子安増生他編 2009 有斐閣 『教職をめざす人のための発達と教育の心理学』富永大介・平田幹夫・竹村明子・金武郁子編 2016 ナカニシヤ出版

学びの手立て	教育心理学は教育場面での心理学と考えればよいでしょう。教育現場での児童・生徒のことが話題に上ることが多いので、学校教育についての参考書等に目をおしておくといいいでしょう。また、教育現場とのかかわりをさらに深めたい人は、学校現場での学習支援等を行うと、学校の実態がよくわかるようになるでしょう。将来、臨床心理に進む学生にとっては、教育現場からのニーズを知っておくと、子どもたちの面接の面でも役立つでしょう。
--------	--

評価	評価は、期末試験、課題、授業への参加状況や授業への意欲・関心などを総合的に判断して行います。課題については、授業の際に説明します。授業に20分以上遅れた場合は、遅刻ではなく欠席扱いとしますので、注意してください。また、3分の一以上欠席した場合は、単位の取得はできませんので注意してください。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育心理学Ⅱ、心理学特講C
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシー1. および、3. 4. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 グループアプローチ	期別 後期	曜日・時限 月5	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶ	メッセージ 様々なグループ活動を実際に体験しながら学ぶ講義です。参加者それぞれにとって学びのある講義です。初対面の人とかかわりが苦手な人、人見知りを改善したい人はもちろんのこと、自分らしさとは何か考えたい人、グループを動かす工夫や技法を学びたい人も大歓迎です。
	到達目標 ①集団中での‘自分らしい自分’について考える。②自分の‘新しい引き出し’を見つける。 ③コミュニケーション能力が高まる。④人見知り、シャイ、対人緊張が和らぐ。 ⑤参加メンバーとの交流が深まる。⑥集団に関わる支援の技法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/グループアプローチとは	配布資料の復習
	2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
	3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
	4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
	5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
	6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
	7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
	8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
	9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
	10	ロールプレイングを用いた技法①	リフレクションシートの作成
	11	ロールプレイングを用いた技法②	リフレクションシートの作成
	12	ロールプレイングを用いた技法③	リフレクションシートの作成
	13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①	リフレクションシートの作成
	14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②	リフレクションシートの作成
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③	リフレクションシートの作成	
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）	最終レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では使用しない。 適宜、プリント資料を配布する。 参考文献；サイコドラマの技法 高良聖 岩崎学術出版		
	学びの手立て 実習が中心となるため、毎回出席することが受講の条件です。 急激に自分を変化させる必要はありません。常に明るく、元気に、活動的にふるまう必要もありません。自分のペースで人とかわりながら、自分自身を見つめながら参加することが大切です。 自分の気持ちに湧き上がってきたことに対し、良い悪いで評価せず、それはそれとして受け入れることが大切です。		
	評価 体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのある方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシートおよび、講義終了後の感想レポートを総合して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 それぞれのゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動、オープンキャンパスや、専攻の一日研修会などグループ活動を企画・運営に参加し、学んだことを実践に生かせる。自己理解を深めるため就活に活かせる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 福祉以外の他専門職と協働していく専門性を培うために重要な科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ケアマネジメント論	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富郁哉 (2)、屋良利枝 (14)	2年	講義終了後に、教室にて質問を受けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国の人口構造・超高齢社会の現状と今後の動向について学ぶ。さらに社会から必要とされているニーズを理解し、対応するための知識とケアマネジメントの多様性を学ぶ。	現在の医療・福祉の状況から将来起きてくるであろう課題を予測しましょう。対象とする人々は、私たちが経験をしていない時間を生きてきた人たちです。人に、高齢者に関心を寄せましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の現状を知り、将来起こることが予測される課題について説明できる。 2. 現在、あるいは予測されるニーズについて説明でき、その対応策について説明できる。 3. ケアマネジメントの多様性と多職種連携の必要性について説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・はじめに	
	2	I. ケアマネジメントとは	
	3	II. 社会的背景の理解 ①人口構造からみた少子高齢社会	超高齢社会とは
	4	社会的背景の理解 ②医療現場の変化	医療施設の種類・医療制度の理解
	5	社会的背景の理解 ③福祉現場の変化	福祉制度の理解
	6	III. 対象者の理解 ①高齢者の理解と支援	
	7	対象者の理解 ②認知症を持つ高齢者の理解と支援	福祉制度の理解
8	対象者の理解 ③家族の理解と支援		
9	IV. 生活（治療）の場の理解とケアマネジメントの違い ①医療機関	医療保険制度の理解	
10	生活（治療）の場の理解とケアマネジメントの違い ②施設	介護保険制度の理解	
11	生活（治療）の場の理解とケアマネジメントの違い ③在宅		
12	V. 地域包括ケアシステムについて		
13	VI. 関わる職種の理解と連携 多職種連携について	医療従事者の種類	
14	VII. 事例検討（医療機関・施設）		
15	事例検討（在宅）		
16	総括 期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。資料を配布します。 「保健医療政策論」（前期）及び「社会保障Ⅰ」（前期）「保健医療サービス」（後期）「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」（後期）で学んだこと、学んでいることが基礎になります。</p>	
	学びの手立て	医療保険、介護保険改定の話や高齢者、認知症に関することについて、新聞など関心を持って読む。	
	評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席回数が16回の3分の2以上であること。 2. 期末試験の結果が60点以上であること。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目 学びの実践で示した関連科目を同時履修することが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名 健康スポーツ科学論	期別 前期	曜日・時限 水1	単位 2
	担当者 笹澤 吉明	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ sasazawa@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。	メッセージ 本講義は、スポーツ科学や健康科学を学び、健康増進や自己実現に向けた準備に繋がる講義内容である。特に社会福祉を学ぶ学生や学校の教員を目指す学生にとって、利用者や児童生徒の健康管理に直結する内容であるため、非常に意義深い講義である。また、運動生理学やトレーニング論にも触れるので、トップアスリートを目指す学生にとっても有益な知見が学べる講義でもある。
	到達目標 健康の概念、健康管理、生活習慣病の予防、肥満、栄養学、体力、トレーニング、スポーツ障害、熱中症、女性や高齢者の運動など、幅広いスポーツ科学や健康科学の学習内容が身に付く。医学入門的な知識も身に付くことから、自身の健康管理や、スポーツ指導者、教員、社会福祉実践者にとって必要な基礎的内容の習得ができる。健康問題やスポーツ事象について時事にあった内容も取り上げるので、新聞やその他の情報を考察しながら学ぶことによって、より実践的な健康スポーツ科学の知識と知恵が獲得できるであろう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学の必要性と意義）	テキストの復習
	2	健康とは①（健康の背景）	テキストの予習・復習
	3	健康とは②（新健康フロンティア戦略、健康日本21）	テキストの予習・復習
	4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏）	テキストの予習・復習
	5	適切な生活習慣②（メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）	テキストの予習・復習
	6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）	テキストの予習・復習
	7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価）	テキストの予習・復習
	8	健康・体力の維持増進②（運動の仕組み、トレーニング）	テキストの予習・復習
	9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類）	テキストの予習・復習
	10	競技スポーツのトレーニング②（専門的トレーニングの要素及び方法）	テキストの予習・復習
	11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し）	テキストの予習・復習
	12	栄養と健康・スポーツ②（健康のための食事と健康）	テキストの予習・復習
	13	運動・スポーツの安全性	テキストの予習・復習
	14	運動・スポーツによる外傷、障害	テキストの予習・復習
	15	女性・高齢者の健康とスポーツ	テキストの予習・復習
16	期末テスト	テスト勉強	

テキスト・参考文献・資料など
健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院。参考文献は・鈴木正成、スポーツの栄養・食事学、同文書院・鈴木正成、勝利への新スポーツ栄養学、チクマ秀版社・McArdle, W.D.ら著、田口貞善ら訳、運動生理学-エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス、杏林書院・日本睡眠学会編、睡眠学ハンドブック、朝倉書店・その他は授業で適宜紹介

学びの手立て
出席を講義の初めに口頭でとるので遅れないように。返事は挙手とハイというはっきりした声をお願いします。スポーツや健康に関わる講義なので関連した書籍等は読んでおくこと。また、学んだ内容を自身の生活や練習・トレーニングに結び付け良く考察すること。過去問題集をテスト前には配布しますが、大事な知見がその内容です。テストのためだけでなく、自身の生活のためにしっかりと身に付けてください。必ず役立つ知見ばかりです。

評価
出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する。期末試験70%、レポート20%、授業態度10%で評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
「スポーツ演習（笹澤担当）」とは深く関連しています。この講義はスポーツ科学の応用、運動生理学・生化学、健康の三本柱である運動・栄養・休養の詳細な科学も学べますので関連付けて学ぶことをお勧めします。また、「サッカーI」「サッカーII」の体育実技では、講義で学んだ理論を背景に、サッカーを通して楽しく実践し、体力の向上や健康増進の実践に役立てます。合わせてお勧めします。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	権利擁護と成年後見制度	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島田 考人	2年	s.naruto1028@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者に対する権利擁護のための各種制度の理解。 ・具体的事例における各種制度の利用。 	<p>超高齢社会の進展に伴い、高齢者に対する権利擁護の必要性は年々増加しています。そこで、高齢者に対する権利擁護のための具体的法制度及びその利用方法等について学びます。具体的制度の中には、今後、保健・福祉の道へ進むか否かにかかわらず、社会人として身に付けておくべき知識が多く含まれています。弁護士としての実務経験を踏まえながら、抽象論ではなく具体的な授業を行います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者に対する権利擁護のための各種制度の概要が説明できる。 ・具体的事例を通して、高齢者、障害者の権利擁護の方法を説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	憲法の基本原理の理解	
	3	民法の理解 1	
	4	民法の理解 2	
	5	民法の理解 3	
	6	行政法の理解	
	7	成年後見制度の理解	
8	虐待防止法の理解		
9	生活保護法の理解		
10	財産管理・身上監護の理解		
11	知的・精神障害者と成年後見		
12	社会保険制度の理解		
13	家庭裁判所の実務		
14	社会福祉士・精神保健福祉士と成年後見制度		
15	まとめ		
16	期末試験		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	特に指定なし。毎回レジメを用意する。	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・既履修科目及び社会生活との関連性を意識すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠及び期末試験で評価する。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術療法	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習 レポート作成
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
	15	まとめ	復習
	16	期末試験	テスト勉強
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	芸術療法	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習 レポート作成
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
	15	まとめ	復習
	16	期末試験	テスト勉強
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会と福祉Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義後又はオフィスアワーに受け付ける	

学びの準備	ねらい 歴史のながれの中で現代社会を理解し、社会を支える社会福祉の位置づけについて理解する。また、社会福祉の法律や政策、サービス供給主体や運営の概要について理解する	メッセージ 受講生は、テキストの内容に関心を持つと同時に、日頃マスコミを通して見聞きする社会福祉の問題や政策の動向、身近な場所での福祉活動に関心を持つことが望ましい
	到達目標 記憶すべき重要キーワードや概念、法律、理論等について、講義の中で具体的に示し、その修得を目標とする	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	大学で社会福祉を学ぶ意義
	2	社会福祉の意味（関連用語との比較による理解）
3	日本国憲法と社会福祉	
4	西欧における貧困への対応、古代～19世紀）	
5	市民社会と福祉社会の形成、20世紀～現在）	
6	仏教・儒教思想による取り組み、江戸期の救済活動）	
7	日本の近代化と国民の生活、社会事業のうごき、～大戦まで）	
8	GHQ・高度経済成長時代の社会福祉施策のうごき、～1973年）	
9	社会福祉改革と現在の動き	
10	社会福祉行政の仕組みの変遷と新しい動き	
11	日本の社会福祉政策と海外の比較	
12	社会福祉の財源と社会保障制度改革の動き	
13	利用者の立場からみた福祉政策	
14	福祉の多元化とコラボレーション	
15	福祉サービス供給主体の多様化と地域包括システム	
16	期末試験	
実践	テキスト・参考文献・資料など 1. 『現代社会と福祉』中央法規 2. 『日本の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会 3. 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 以上、推薦する	
	学びの手立て 重要事項については、講義の中で示すので、示された事項は完全習得を目指すこと 推薦された図書の内容のほかに、マスコミから流れる福祉の情報にも関心を持つことが望ましい	
	評価 出欠は毎回とり、評価の際は重視する テストの得点を中心にレポート等を重視する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 修了生は、続く「現代社会と福祉Ⅱ」を履修することが望ましい
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代社会と福祉Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義後又はオフィスアワーに受け付ける	

学びの準備	ねらい 常に、歴史のながれの中で現代社会の実情を理解すると同時に、社会福祉の理念・考え方を理解する。また、社会福祉の理論、実践・援助の理論についても理解を深める	メッセージ 受講生は、テキストの内容に関心を持つと同時に、日頃マスコミを通して見聞きする社会福祉の問題や政策の動向、身近な場所での福祉活動に関心を持つことが望ましい
	到達目標 福祉の施策・実践において重要なキーワードを、講義の中で具体的に示し、その意味させる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション、講義の概要、注意事項など
	2	明治憲法・日本国憲法・GHQ覚書に見る福祉の政策理念
	3	新生活保護法の基本的視点・目標・限界
	4	社会福祉事業法・者会福祉法に見る現代の社会福祉の考え方
	5	世界宣言と日本の法律の関係
	6	社会福祉の代表的なプラン・大綱・意見等が示す福祉の未来像
	7	日本における主な社会福祉理論の現状と課題
	8	人権・人間の尊厳・命等をどのように捉えるか、他の領域との比較で考える
	9	法律・科学・援助の理論に見る人間観
	10	代表的な援助論・実践の原則
	11	援助の現場における課題・問題点
	12	対人援助の代表的人物とその実践理念
	13	社会福祉・ソーシャルワークの倫理綱領を読む
	14	現代社会と福祉の未来像（個人のあり方・地域連携のあり方を考える）
15	まとめ	
16	期末試験	
テキスト・参考文献・資料など 推薦図書 1. 『現代社会と福祉』中央法規 2. 『日本の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会 3. 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ※その他、必要に応じて資料を配付する		
学びの手立て 重要事項については、講義の中で示された重要キーワードの完全習得を目指すとともに、者会福祉実践の現場にも関心を持ち、現実に応じた理解をすることが望ましい		
評価 出欠は毎回とり、評価の際は重視する テストの得点を中心にレポート等を重視する		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 福祉関連分野および異業種異分野との連携がいつそう求められる中、他の専門職と協働していくための知識と技術を学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代の市民社会	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田直子(2)、宮道喜一(12)、社会人講師(2)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これからの地域社会においては、様々な分野で一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題が益々増えてくる。一方、行政サービスや制度による課題解決のしくみは、限られた財源、資源によって縮小傾向にある。そのような中、地域社会にある課題に対して、市民がどのように向き合い、行動していくのか、について理解と実践を深めることを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>地域社会を取り巻く現状と現代社会における市民の役割と力、「協働による地域づくり」のプロセスについて理解することができる。特定の地区の地域課題について仮説を持ち、チームでの課題解決のための提案を通じて、①地域の現状を捉え、問題設定し、②チームの意見や力を引き出しながら、話し合い、③課題解決のために多様な資源を把握し、つなぎ合わしながら企画提案する、ことについて学びを深め、理解することができる。</p>	<p>地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくり出す「協働による地域づくり」のプロセスについて学ぶ。本校が位置する宜野湾市をフィールドとし、行政職員や自治会関係者など現場を担う方々から直接学ぶ機会を設け、特定の地域でのフィールドワークを通じた実践的な学びを目指す。</p>

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション・講義予定・受講上の注意とルールづくり	講義の中で提示する	
	2	市民社会とは何か・地域課題とは	同上	
	3	宜野湾市における協働推進の実践(外部講師)	同上	
	4	自治会活動の実践(外部講師)	同上	
	5	地域の現状の捉え方・現象と原因	同上	
	6	ファシリテーション①(話し合いの場の作り方)	同上	
	7	ファシリテーション②(話し合いの場の進め方)	同上	
8	地域調査手法	同上		
9	フィールドワーク	同上		
10	中間発表(調査結果)	同上		
11	企画とは、企画づくり実践	同上		
12	市民の活動を支えるしくみと環境整備	同上		
13	市民社会とNPO・NGO	同上		
14	市民社会と地域社会	同上		
15	最終発表(地域課題解決の提案)	同上		
16	まとめ	同上		
	テキスト・参考文献・資料など	講義時に随時紹介する		
	学びの手立て	<p>受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守る。外部講師や地域へのフィールドワーク時に対応いただく方々への敬意を忘れずに受講すること。講義外の講演会やシンポジウム等への積極的な参加や、チームを組んでのディスカッションや発表の機会が多くあるため、積極的な意思表示や参加を期待する。</p>		
	評価	各講義でのレポート(40%)、中間発表及び最終発表(40%)、授業態度及び参加状況(20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	講義の中で提示する

※ポリシーとの関連性

心理学および臨床心理学への関心を高め、その知識と技法を社会生活に応用する力を身につけるための実践的専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	行動療法	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。	メッセージ 基本的に板書したものをノートに取る方法で講義は進められる。書かれたものを受動的に写すだけでなく、理解しながら必要なことを補筆すること。
	到達目標 行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について理解すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	行動療法とは	
	2	行動療法の歴史	
	3	行動療法の基礎となる学習理論	
	4	行動療法の技法①系統的脱感作法	
	5	事例	
	6	行動療法の技法②リラクゼーション法	
	7	行動療法の技法③暴露反応妨害法	
	8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例	
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング		
10	認知行動療法とは、		
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み		
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録		
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、他		
14	アルコール依存の認知行動療法①		
15	アルコール依存の認知行動療法②		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二共編 培風館		
	学びの手立て		
	評価 成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習心理学、臨床心理学、
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	2年	講義の後又はオフィスアワーで受け付ける	

学びの準備	ねらい 高齢期の理解、高齢社会の問題の構造、支援や施策、その仕組み方法、財源等について理解する	メッセージ 自らを支援者として考えると同時に、実際の高齢者との交流を通して、高齢者の立場や視点で考えることが重要である
	到達目標 高齢者の立場や役割の理解、高齢期の心身の変化と課題、高齢者施策の概要と支援の方法などについて理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）
	2	用語の整理（高齢者・老人・老年などの意味を概観する）
	3	高期期の心身の変化についての理解
	4	ライフサイクルにおける高齢期の特徴
	5	超高齢社会・長寿社会の意味・現状・課題
	6	高齢期に対する社会的対応の変遷（戦前まで）
	7	戦後の高齢者施策のながれ（終戦から80年代まで）
	8	社会保障制度改革の動きと現代の高齢者福祉施策
学びの実践	9	高齢者を支える諸法律と制度の概要
	10	高齢者を支援する仕組み（国、自治体、諸団体、住民に求められる役割）
	11	高齢者を支える専門職とその連携
	12	実践現場における高齢者支援の実態
	13	介護の概念と方法（介護・介助などの用語の整理）
	14	認知症ケア・終末ケアの現状と課題
	15	講義全体のまとめ
	16	テスト
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規、『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会 『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 等を推薦する。 また必要に応じクラスで資料を配付する	
	学びの手立て マスコミを通して見聞きする高齢者問題や施策等の動きに関心を持つこと 実際に高齢者に触れ、自分の中に、当事者の立場で考える素養を育てることが重要である	
	評価 試験の成績を中心に、出席状況等を総合的に判断して評価する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講修了生は引き続き、Ⅱを受講することが望ましい
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	i.ashitomi@okiu.ac.jpへ連絡する。	

学びの準備	ねらい 本科目は介護保険制度を中心とした講義を展開する。なお、介護保険制度については、身近な社会保障制度として知識を深めてほしい。	メッセージ 高齢社会において、必須な知識である老人福祉制度、高齢者の特性及び介護保険制度などを、身近なものとして学んで欲しい。
	到達目標 老人福祉法、介護保険制度について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	高齢社会を知る①	高齢社会とは何か
	2	高齢社会を知る②	高齢化率・倍化年数とは何か
	3	高齢社会を知る③	高齢社会がもたらす問題とは
	4	介護保険制度の基礎①	介護保険制度の理念を調べる
	5	介護保険制度の基礎②	介護保険制度とは何か
	6	介護保険制度の基礎③	介護保険制度の仕組み
	7	介護保険サービス①	在宅サービス種類
	8	介護保険サービス②	施設サービス種類
	9	介護保険サービス③	地域密着型サービスとは
	10	介護保険サービス④	地域包括ケアシステムとは①
	11	介護保険サービス⑤	地域包括ケアシステムとは②
	12	高齢者に関わるその他の制度①	高齢者虐待防止法について
	13	高齢者に関わるその他の制度②	
	14	高齢者に関わるその他の制度③	
15	まとめ		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 新・社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」を指定教科書とする。購入の時期については第一回目のオリエンテーションにてアナウンスする。参考文献等については、講義の中で随時紹介する。		
	学びの手立て 新聞等マスメディアに関心を持ち、特に高齢者に関する記事については熟読することが望ましい。		
	評価 講義の3分の1以上の欠席があった場合には、たとえ客観試験の成績が60点以上あった場合でも不可とする。また、出席票提出に不正があった場合には、それまでの出席状況がよくても、また、試験の点数が60点以上であっても「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会保障制度を理解する科目としてより身近なものである。その他の関連科目には社会保障、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度などがある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際福祉論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 誠	2年	makoto@ocjc.ac.jp 授業後に教室でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>21世紀は同時多発テロという国際テロリズムで幕を開けた。現在も紛争による難民が増え続けている。このような地球規模の課題は、一国で解決できるものではなく、国際社会全体で取り組まなければ解決しない。また、私たち自身が地球市民としての意識を持ち、公平かつ共生的な社会システムを構築するには何が重要か。グローバル時代の社会福祉のあるべき形を模索する。</p>	<p>アメリカ合衆国の新政権、イギリスのEU離脱、難民受け入れ拒否や極右政治の台頭と、現在私たちの地球社会は不寛容にシフトしつつあります。誰もが不安を抱え自己防衛の構えをとる先に私たちを待ち受けるものは、本当の豊かさであり幸せでしょうか。現在の経済・文化システムが危機を迎える今こそ、未来に向かってグローバル規模の「人間の福祉」を一緒に考えてみませんか。</p>
到達目標	<p>グローバルな文化・経済システムがどのように格差や不平等な地球社会を作り出しているか説明できるようになる。開発途上国の社会問題について概要を説明できるようになる。日本人のライフスタイルと途上国の人権問題の関連性について理解できるようになる。「地球市民」という意識を持ち、自らのライフスタイルや価値観を批判的に捉え、問題解決に向けての行動について意見できるようになる。人間にとっての「豊かさ」や「幸せ」について深く理解し、社会福祉をグローバルな視点で説明することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「国際社会福祉」とは？その意義と目的	福祉の定義や歴史について調べる。
	2	グローバリゼーションと社会福祉：「国家福祉」から「国際福祉」へ	今回のテーマについて調べる。
	3	グローバリゼーションとアクター（国家、多国籍企業、市民団体）	復習をして次の講義に備える。
	4	グローバル資本主義と経済格差	次回テーマの国について調べる。
	5	バングラデシュ縫製工場とファストファッション（資本主義と労働）	次回テーマの地域について調べる。
	6	アフリカの子ども兵士と鉱物資源（子どもの権利条約、植民地主義）	次回テーマについて調べる。
	7	開発途上国の抱える問題（ネパールの人身売買とジェンダー・ジャスティス）	次回テーマについて調べる。
	8	開発途上国の抱える問題（ストリートチルドレンとフィリピン・マニラの都市貧困）	次回テーマについて調べる。
	9	児童労働とインドの「子ども組合」	人種問題について調べる。
	10	民族間対立と多文化共生（アメリカの例を元に人種間対立と調和を考える）	沖縄の多様性について調べる。
	11	沖縄社会の多様性（県在住外国人と多文化共生の課題）	ジェンダーの定義・概念を調べる。
	12	セクシュアルマイノリティとジェンダー規範（福祉と多様性）	地球市民について調べる。
	13	「地球市民」という概念と国際社会福祉（地元沖縄でできること）	自分のライフスタイルを再考する。
	14	「幸せ」とは？「豊かさ」とは？大量消費社会と私たちのライフスタイル	幸せについて考えてみる。
15	社会福祉と国際ボランティア（国際協力、フェアトレード、NGO活動）	復習をして次の講義に備える。	
16	国際協力の現場（ラオスJICA草の根事業の現場から沖縄型国際福祉を考える）	全講義の内容を見直してみる。	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：なし。教材や資料は担当者がその都度配布します。 参考文献・資料：「グローバリゼーションと国際社会福祉」（2002年）、仲村優一他、中央法規；「国際社会福祉論」（2004年）、川村匡由、ミネルヴァ書房；「国際社会福祉論」（1999年）、ジェームス・ミッジリイ、中央法規。その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>して扱います。授業態度は厳しく評価されます。福祉の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも福祉の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンター映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。</p>
--------	--

評価	<p>期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができていないか評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：批判的思考を育てるとともに多様な価値観を理解できるよう、色々な科目を履修し幅広く学ぶことを勧めます。特に自分が苦手な思っている科目を履修することをあえて勧めます。（2）次のステージ：地球社会・地域社会には多くの課題が山積しています。その課題を何かのせいにするのではなく、自分の課題として捉え、問題解決へ向けて考え行動してみてください。自分が変われば世界が変わります。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科学研究法	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士の資格を取得した後で実際に働く上で必要となるレポート作成力を身につける。</p>	<p>本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に学術論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。この講義で今後の大学での学びや職業人として必要な技能を身につけてほしい。</p>
到達目標	<p>本講義では、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。その中で以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <p>①学術論文の読解能力 ②自らの関心を社会科学と結びつけて捉え、問いをたてて論文執筆を企画する能力 ③収集した情報を整理し、それらの情報に基づいて合理的に自らの問いの答えを導き出していく能力</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（これから何を学ぶのか）	
	2	社会福祉とこの授業の関わりについて講義	配布された論文を読む宿題あり。
	3	宿題に出した論文の解説	
	4	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか	4～8週にかけて宿題あり。
	5	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方	
	6	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた	
	7	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか	
8	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール		
9	文献調査～レポート作成の作業		
10	文献調査～レポート作成の作業		
11	文献調査～レポート作成の作業		
12	文献調査～レポート作成の作業		
13	文献調査～レポート作成の作業		
14	文献調査～レポート作成の作業		
15	授業の最後に期末レポート提出		
16	期末レポートの返却・講評		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 適宜、配布する。</p> <p>【参考文献】 今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。 など</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。また、授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。</p> <p>②学びを深めるために インターネットで検索するだけでは確かな思考につながる情報は得られません。図書館で学術書や新聞に触れる習慣をつけてください。</p>		
評価	<p>課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①関連科目 本講義で習得する能力は社会科学系の専門科目を学ぶための基礎となる。</p> <p>②次のステージ 自分の身の回りの事柄を、文献資料に基づいて論理的に考えてみよう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 社会学概論 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 桃原 一彦	前期	木 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「社会学」と聞くと、「社会科」を思い起こす者が少なくない。しかし、社会学は社会科とは異なる知識や思考作業が必要となる。自身が生きる日常世界とそれを取り巻く社会との関係に対し疑問や関心をもち、社会学的な視点でその仕組みを解明する学問である。「わたしはこの世の中でどう生き／生かされているのか」という問いから、「自己」「他者」「自明性」を考えるための知識や方法を身につける。	メッセージ 「社会学は難しい」という言葉をよく耳にします。ところが「でも社会学は面白い」という言葉も聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。
	到達目標 「社会的行為」とは何か、「社会構造」とは何かを理解する。また、その「行為」と「構造」の関係性を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論 I への招待	「行為」と「構造」について考える
	2	社会学の歴史－ジンメル、デュルケム、ヴェーバーを中心に	基本的な視点の系譜を考える
3	自我とアイデンティティの社会学①－欲望の社会理論	「欲望の模倣」の例を考える	
4	自我とアイデンティティの社会学②－フロイトの自我論とミードの自我／客我論	欲望、自我、社会の関係を考える	
5	自我とアイデンティティの社会学③－社会学における「アイデンティティ」概念の系譜	アイデンティティの流動性を考える	
6	現代社会を考える学習課題 I	概論 I 前半のポイントと課題提示	
7	相互作用の社会理論①－ゴフマンの演技論	行為を演技として考える	
8	相互作用の社会理論②－公共空間と親密空間	公共性と親密性の演技を考える	
9	相互作用の社会理論③－語彙（ボキャブラリー）と文化資本	行為の文化的・社会的側面を考える	
10	行為と構造の関係①－記号、シンボル（象徴）の意味	記号とシンボルについて考える	
11	行為と構造の関係②－「脱構築」「痕跡」「代補」の暴力性と可能性	「脱構築」について考える	
12	現代社会を考える学習課題 II	脱構築に関する課題提示	
13	「権力」から読み解く現代社会①－ヴェーバーの権力論	「権力」概念の基本を考える	
14	「権力」から読み解く現代社会②－フーコーの権力論（主体化＝服従化）	従順な主体としての規律化を考える	
15	社会学概論 I の総括と期末課題	後半のまとめと総括	
16	予備日	期末課題の作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際はインターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価 受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」I・IIの提出と内容評価が各15点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：社会学概論 II 次のステージ：社会学概論 I で身につけた社会学の基本的な視点を用いて、具体的な社会現象を解説する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

複雑な現代社会を解説するための理論と方法、および社会福祉学を補強する学問領域として社会学のアウトラインを学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点、概念、理論を基本的な道具として、現代社会の諸相を解説する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。</p>	<p>「社会学は難しい」という言葉をよく耳にします。ところが「でも社会学は面白い」という言葉も聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。</p>
到達目標	<p>概論Ⅰで身につけた「行為」と「構造」の関係性を捉える社会的な視点を用いて、現代社会における具体的な諸問題の分析力、読解力を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論Ⅱへの招待ー社会学概論Ⅰのおさらいを中心に	社会学の基本的な視点をふり返る
	2	現代社会とメディア①ーステレオタイプと擬似環境、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋	メディア論に関する基本概念
	3	現代社会とメディア②ーエンコーディング/デコーディングと公共圏の形成	メディアの意味と社会的機能
	4	現代社会を考える学習課題Ⅰ	身近なメディア情報の分析
	5	モノと消費をめぐる社会的探求①ー消費概念の変遷	「消費」の社会的意味を考える
	6	モノと消費をめぐる社会的探求②ーボードリヤールの消費概念と「ミニマムセルフ」	消費、自己、社会の関係を考える
	7	ジェンダーとセクシュアリティ①ー「ジェンダー」「セクシュアリティ」をめぐる知の変遷	基本概念の系譜を考える
8	ジェンダーとセクシュアリティ②ー一家父長制と性別役割分業	戦後日本のジェンダー構造を考える	
9	ジェンダーとセクシュアリティ③ー消費行為におけるジェンダー規範の内化	消費という身近な素材から考える	
10	ジェンダーとセクシュアリティ④ーメディア論から読み解くジェンダー規範の内化	メディア情報から考える	
11	現代社会を考える学習課題Ⅱ	ジェンダーに関する分析の実践	
12	現代社会と差別①ー差別論の基礎	差別の基本的な問題を考える	
13	現代社会と差別②ーネットウヨクとヘイトスピーチ	排外的言動と自己との関係を考える	
14	現代社会と差別③ー差別構造をめぐる集団的責任	差別を支える 行為と構造を考える	
15	概論Ⅱのポイントと総括	概論Ⅰとの連続性を確認する作業	
16	予備日	期末課題レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	<p>リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。</p>		
	評価		
	<p>受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：都市社会学、家族社会学、臨床社会学</p> <p>次のステージ：社会学概論で学んだ基本的な概念、理論、視点を身につけて、社会学の諸領域に視野を広げる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会心理学Ⅱ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論などについて実証的観点から概説していきます。テーマは、援助・攻撃行動、集団内・集団間関係、コミュニケーション行動、消費行動、文化や社会と人間心理の関係などを取り上げます。身近な心理現象や話題を社会心理学的視座から読み解くことを通して、科学的・客観的なものの見方、考え方を身につけていくことを目標としています。</p>	<p>・社会心理学の研究テーマは普段の生活の中にあります。よって、日常のちょっとした疑問、気になること、不思議に思うこと等をメモに書き留めるなどして、講義の中で質問をしたり、アクションペーパーに書いたりして、話題を共有しましょう。卒論の研究テーマも、こうした素朴な疑問から発展することがありますから、意識的に身近なテーマ探しをしてもらいたいと思います。</p>
到達目標	<p>①対人関係、集団関係、言語・非言語コミュニケーションなど、社会心理学の一部の研究領域について、科学的な研究知見を基に理解し、人に説明することができる。 ②社会心理学分野の代表的な研究知見について理解し、その内容を簡潔に要約して説明することができる。 ③人間の心理や行動を理解するにあたり、社会心理学的なもの見方、特に「状況要因」の持つ影響力について十分に考慮することができる。 ④社会心理学で用いられる様々な研究手法やデータ解析法について、基礎的な理解ができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	シラバス・授業契約書の理解
	2	人を助ける心とは？（1）～援助行動の心理学～	今回の復習と次回の予習・課題
	3	人を助ける心とは？（2）～ソーシャル・サポートの社会心理学～	同上
	4	人が傷つけられるとは？～社会的孤立と排斥の心理学～	同上
	5	人を傷つけるとは？～怒りと攻撃の社会心理学～	同上
	6	集団の機能と影響過程の心理学（1）～集団の生産性とリーダーシップ、集団意思決定～	同上
	7	集団の機能と影響過程の心理学（2）～集団間関係における差別と偏見～	同上
	8	集団の機能と影響過程の心理学（3）～状況の力：服従事件と監獄実験の対比を題材として～	同上
	9	集団の機能と影響過程の心理学（4）～集団行動の破壊力：オウム真理教とマインド・コントロール	同上
	10	コミュニケーションの心理学（1）～非言語コミュニケーション（NVC）を中心に～	同上
	11	コミュニケーションの心理学（2）～広告・宣伝の社会心理学的分析～	同上
	12	コミュニケーションの心理学（3）～口コミ・マーケティング・消費行動・行動経済学～	同上
	13	文化と人間心理・行動の関係とは？～個人主義と集団主義、文化と思考様式～	同上
	14	社会心理学の応用と展開～面接場面や犯罪捜査場面などにおける現実的適用	同上
15	全講義内容の振り返りとまとめ・試験案内	全講義内容のまとめ	
16	学期末試験（予定）		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進めていきます。参考文献は以下の通りです。</p> <p>(1)安藤清志・松井豊 編 1990～2016 セレクション社会心理学シリーズ サイエンス社 (2)池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣 (3)岡本浩一 1986 社会心理学ショート・ショート 新曜社 (4)遠藤由美 編著 2010 いちばんはじめに読む心理学の本②：社会心理学－社会で生きる人のいとなみを探る－ ミネルヴァ書房</p>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で紹介された研究例について、なぜそのようなテーマや方法で研究したのだろうかとか、自分だったらこういう風に研究するか、してみたいか等の発想を膨らませてみて下さい。 ・図書館に所蔵されている本や社会心理学系の学術論文（学会誌、紀要など）を積極的に検索し、どのような研究テーマがあるか調べ、実際に読んでみて下さい。社会心理学という学問分野がより身近に感じられるはずです。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、平常点で50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 ・平常点は、授業内でのワークへの取り組み、意見表明や質問、アクションペーパー等により評価します。 ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て不可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：次年度に開講される「社会心理学Ⅰ」を履修すると、社会心理学分野全般を学習することができる。その他、心理の専門科目として開講される「コミュニティ心理学」や「犯罪心理学」等を履修すると、社会心理学の方法論や知見が活かされている分野についての理解が深まるであろう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の企画と設計	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	2年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義ではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点を置いて講義を行う。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を論文にまとめてもらう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>「社会調査の企画と設計」への招待</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>標本抽出（サンプリング）の理論</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>サンプリングの種類</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>サンプリングの実際</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>質的調査の考え方</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>質的調査の種類</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>質的調査の諸注意</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>ドキュメント分析と観察法</td><td>宿題あり</td></tr> <tr><td>9</td><td>生活史法とライフコース分析</td><td>宿題あり</td></tr> <tr><td>10</td><td>面接とインタビューの技法</td><td>宿題あり</td></tr> <tr><td>11</td><td>調査実施の際の諸注意</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>個別研究テーマの提出</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>調査の企画と設計の発表・提出</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>調査実施の効果とふりかえり</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>本講義のまとめと課題提出</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	「社会調査の企画と設計」への招待		2	標本抽出（サンプリング）の理論		3	サンプリングの種類		4	サンプリングの実際		5	質的調査の考え方		6	質的調査の種類		7	質的調査の諸注意		8	ドキュメント分析と観察法	宿題あり	9	生活史法とライフコース分析	宿題あり	10	面接とインタビューの技法	宿題あり	11	調査実施の際の諸注意		12	個別研究テーマの提出		13	調査の企画と設計の発表・提出		14	調査実施の効果とふりかえり		15	本講義のまとめと課題提出		16	試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	「社会調査の企画と設計」への招待																																																				
2	標本抽出（サンプリング）の理論																																																				
3	サンプリングの種類																																																				
4	サンプリングの実際																																																				
5	質的調査の考え方																																																				
6	質的調査の種類																																																				
7	質的調査の諸注意																																																				
8	ドキュメント分析と観察法	宿題あり																																																			
9	生活史法とライフコース分析	宿題あり																																																			
10	面接とインタビューの技法	宿題あり																																																			
11	調査実施の際の諸注意																																																				
12	個別研究テーマの提出																																																				
13	調査の企画と設計の発表・提出																																																				
14	調査実施の効果とふりかえり																																																				
15	本講義のまとめと課題提出																																																				
16	試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>																																																				
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で進めるが、調査票作成および調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、および活動には積極的に参加すること。</p>																																																				
評価	<p>レポート、試験、グループ参加状況、出席状況などを総合的に評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 本講義で身につけた調査法の技能を、ぜひ各自の課題研究に生かしてほしい。</p> <p>(2) 次のステージ 各自の関心に即して収集したデータに基づいた考察を行い、具体的な支援や行動につなげられるようになることである。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の基礎	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では量的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学習する。本講義は社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心にアンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成などプロトコールの作成から調査実施まで総合的に講義する。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①社会調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を量的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p>																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>社会調査とは？—その意義、目的—</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>社会調査の歴史とソーシャルワーク</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>事前の情報収集の方法1</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>事前の情報収集の方法2</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>社会調査の基本的な道具</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>研究テーマの設定法</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>調査の企画、設計</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>概念、変数、仮説の活用</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>量的調査—調査票作成の事前準備</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>質問文作成の基本ルール</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>選択肢作成の基本ルール</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>調査に関する様々な誤差1</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>調査に関する様々な誤差2</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>本講義のまとめ</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	社会調査とは？—その意義、目的—		2	社会調査の歴史とソーシャルワーク		3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—		4	事前の情報収集の方法1		5	事前の情報収集の方法2		6	社会調査の基本的な道具		7	研究テーマの設定法		8	調査の企画、設計		9	概念、変数、仮説の活用		10	量的調査—調査票作成の事前準備		11	質問文作成の基本ルール		12	選択肢作成の基本ルール		13	調査に関する様々な誤差1		14	調査に関する様々な誤差2		15	本講義のまとめ		16	試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	社会調査とは？—その意義、目的—																																																			
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク																																																				
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—																																																				
4	事前の情報収集の方法1																																																				
5	事前の情報収集の方法2																																																				
6	社会調査の基本的な道具																																																				
7	研究テーマの設定法																																																				
8	調査の企画、設計																																																				
9	概念、変数、仮説の活用																																																				
10	量的調査—調査票作成の事前準備																																																				
11	質問文作成の基本ルール																																																				
12	選択肢作成の基本ルール																																																				
13	調査に関する様々な誤差1																																																				
14	調査に関する様々な誤差2																																																				
15	本講義のまとめ																																																				
16	試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】</p> <p>大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>																																																				
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが好ましい。</p>																																																				
評価	<p>レポート、試験、受講態度、出席状況などを総合的に評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「社会調査の企画と設計」</p> <p>(2) 次のステージ 本講義で学ぶ量的調査に加え、数字では表せない深いデータを得る質的調査の方法にも関心を持ってほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	土 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	同上
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	同上
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	同上
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	同上
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	同上
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	同上
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	同上
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	同上
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（偏相関係数等）	同上
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定等）	同上
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定等）	同上
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラーレーション1）	同上	
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラーレーション2）	同上	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	同上	
テキスト・参考文献・資料など	下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年		
学びの手立て	①履修の心構え 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
評価	平常点：50%、期末課題：50% 平常点：出席状況、受講態度、その他（小テスト等） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	---

科目基本情報	科目名 社会統計学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 土2	単位 2
	担当者 -宮平 隆央	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。講義ではサンプルデータで実際に多変量解析の作業を行い理解を深めていきます。	メッセージ 社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っています。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介して多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと考えています、
	到達目標 1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている 2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる 3. 統計解析等、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリット等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	同上
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	同上
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	同上
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	同上
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	同上
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	同上
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	同上
	10		同上
	11		同上
	12		同上
	13		同上
	14		同上
15		同上	
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。 主テキスト 涌井良幸、涌井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社、2011		
	学びの手立て ①履修の心構え 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
	評価 平常点：50%、期末課題：50% 平常点：出席状況、受講態度、その他（小テスト等） 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会病理学	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山入端 津由	2年	講義終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会の繁栄の陰に様々な矛盾や歪みがある。これら社会病理現象を研究する社会病理学は、時代の要請に応えることを模索しつつ展開されている。病理現象として、犯罪・非行、離婚、貧困、スラムなど、伝統的に問題とされてきたものと、現代的な、児童虐待、家庭内・校内暴力、いじめ、ストーカー、性をめぐる問題など、両者を取り上げ、問題の背景を論じる。	日常的に社会で発生している多様な社会病理現象について、発生の原因、その機序はどのように理解されているのか、構造主義や機能主義的な観点からの問題理解や、ポスト構造主義といわれる社会構成論などの論点からの理解、さらに、異常心理学の観点なども取り入れ、討議し、理解を深める。なお、具体的な事例の提示、社会事象として公開された映像等を用いて学ぶ。
到達目標	社会病理現象とは何かについて認識する。これらの現象はどのような社会問題を背景に発生するのかについて理解を深める。すなわち、伝統的理論の、社会解体論、価値葛藤論、逸脱行動論、レイベリング論や、新しいアプローチである構造一機能主義論、紛争論、エスノメソドロジーからのアプローチ、社会構成論的アプローチなどについて学ぶ。これらの論を用いて、社会の具体的な病理現象を捉え、討議を行い、公共性のある議論ができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要）	社会病理現象に関する記事を読む。
	2	社会病理の概念及び社会病理学の伝統的理論	配布資料、文献等の講読
	3	社会病理学の新しいアプローチ	配布資料、文献等の講読
	4	異常心理学	配布資料、文献等の講読
	5	ルシファー・エフェクト（アブグレイブ刑務所事件）DVD	課題レポート作成・提出提出
	6	犯罪・非行	配布資料、文献等の講読
	7	性をめぐる問題（ポルノグラフィーと性的逸脱）	配布資料、文献等の講読
8	自殺	配布資料、文献等の講読	
9	アルコール・物質依存等	配布資料、文献等の講読	
10	離婚	配布資料、文献等の講読	
11	家庭内暴力・校内暴力	配布資料、文献等の講読	
12	失業、貧困問題、スラム、ドヤ街	配布資料、文献等の講読	
13	児童虐待	課題レポート作成・提出提出	
14	いじめ問題	配布資料、文献等の講読	
15	ストーカー等	配布資料、文献等の講読	
16	まとめの討議及び総合評価	小論文テストの実施	
実践	テキスト・参考文献・資料など	参考文献 新社会病理学 望月嵩（編）学文社 1984 星野周弘 社会病理学概論 学文社 1999	
	学びの手立て	履修態度は、15分以降の遅刻は、減点とする。また、講義途中からの離席は、受講取り消しとする。各講義毎にリアクションペーパーの作成を課す。	
	評価	毎回の講義で、リアクションペーパーを義務づける。これが出席簿となる。また、2回の中間レポートを課す。評価得点の配分割合は、リアクションペーパーは30点、中間レポート20点（各回）、小論文テスト30点の100点満点とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 特記事項なし。
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講A	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山田 富秋	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>臨床社会学はナラティブ・アプローチを採用し、苦悩する人々の語り(ナラティブ)と、その語りの社会的・歴史的な文脈への感受性を重視する。具体的に(1)精神障害者の歴史から障害学への流れ(2)薬害HIV感染被害問題(3)ハンセン病問題の順番で、ナラティブから浮かび上がる世界を提示する。ここから、苦悩する人々に対する「ケア」の可能性も浮かび上がってくる。</p> <p>到達目標 臨床社会学の基本的な方法であるナラティブ・アプローチについて、社会的苦悩を抱える人々の語り(ナラティブ)を適切な社会的・歴史的な文脈に位置づけて理解できるようになる。具体的なテーマとして、障害を持った人々の社会的苦悩について、隔離収容主義から現在の共生までの歴史的流れに沿って理解することができる。また薬害については、薬害一般の特徴を指摘し、特に薬害HIV感染被害問題に関するメディアの単純化された構図の問題を指摘し、薬害被害者と医師の語りの文脈を適切に理解することができる。最後に、近代日本のハンセン病政策の問題点を指摘すると同時に、被害者としての語りと同等に生活者の語りを評価することができる。授業で扱う社会的苦悩の実際を通して、苦悩する人々に対して、どのようなケアが可能なのか理解できる。</p>	<p>社会福祉においてはあたりまえの考え方を、社会的な視点で考え直すことを通して、ケアとは何かを深く考える機会を提供する。授業で扱う障害者問題であれば『カッコーの巣の上で』に現れた隔離収容主義の時代から自立生活運動への変遷、薬害問題であれば、メディア報道と当事者の経験とのズレ(乖離)に、そしてハンセン病問題であれば、生活者としての語りに注目してほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床社会学とナラティブ・アプローチ	配布プリントの予習復習
	2	隔離収容主義におけるケアの可能性 映画『カッコーの巣の上で』視聴	管理に当たる場面に注目する。
	3	映画後半とゴッフマンの全制的施設論	ゴッフマンを映画に当てはめる。
	4	自立生活運動と障害学の誕生	配布プリントの予習復習
	5	コミュニティ・ケアと長野県の「さくら会」の試み	配布プリントの予習復習
	6	薬害とは何か	配布プリントの予習復習
	7	薬害HIV被害問題のメディア報道	配布プリントの予習復習
	8	HIV感染被害者のナラティブ	配布プリントの予習復習
	9	HIVチーム医療における「共決定」	配布プリントの予習復習
	10	ハンセン病問題とは何か	配布プリントの予習復習
	11	近代日本の隔離政策	配布プリントの予習復習
	12	長島愛生園の歴史	配布プリントの予習復習
	13	被害者の語りと生活者の語り	配布プリントの予習復習
14	ナラティブ・アプローチ再考	配布プリントの予習復習	
15	ケアという問題と可能性	配布プリントの予習復習	
16	まとめ+テスト	社会的苦悩について考える。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは特になし。適宜授業テーマに沿ったプリントを配付する。 参考文献：山田富秋編、2004年『老いと障害の質的社会学』せりか書房 山田富秋、2011年『フィールドワークのアポリア』せりか書房 春日キスヨ、2001年『介護問題の社会学』岩波書店 野口裕二、2002年『物語としてのケア：ナラティブ・アプローチの世界へ』医学書院</p>		
	学びの手立て		
	<p>午前と午後の講義終了時に、コミュニケーションカードを配付し、それに質問とコメントを書いてほしい。次の授業の最初に、優秀なコメントを紹介し、質問に回答する。自分も同じ疑問を持っていた場合は、他の受講生の質問に対する回答が役立つだろう。 また、現在では確立しているかに見える社会福祉のさまざまな制度や考え方・感じ方が、実は日常生活のすみずみに潜むちょっとした出来事と深くつながっていることを、授業の具体例から見つけ出してほしい。</p>		
	評価		
	<p>到達目標にどの程度届いているかについて、午前・午後の授業のコメントから到達度を一定程度、測ることにする。また、残りの評価は記述式の最終テストによって行う。 午前・午後の授業終了時のコミュニケーションカードの内容と最終テストの合算で評価する。評価の内訳は、それぞれ、コミュニケーションカード=30%+最終テスト=70%とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 社会福祉および精神保健福祉関連科目、社会学概論および臨床社会学。 (2) 次のステージ 各専門科目における臨床社会学的アプローチの導入、応用等。(とくに卒業研究、社会福祉・精神保健福祉等の)</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉の基礎	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田直子(3)、ウィルコックス(2)、知名孝(2)、桃原一彦(3)、安次富郁哉(2)、比嘉昌哉(2)、保良昌徳(2)	1年	本講義は7名の教員で担当するが、問い合わせは専攻主任の桃原まで連絡すること。	

学びの準備	ねらい 社会福祉学の基礎を様々な専門領域から学ぶ。	メッセージ 本科目は1年次の必修科目です。絶対に履修しなければならない科目です。講義は、社会福祉専攻教員が2~3コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示します。将来、自分がどういった領域に進むべきか、また2年次でどの専門演習ゼミを希望するのか参考にして下さい。
	到達目標 社会福祉学の基礎および各専門領域の特色を理解し、2年~4年次で履修する専門演習ゼミの選択の参考にする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回目の講義オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義オリエンテーションは必ず出席するようにしてください。
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しません。各教員独自の資料を配付提供する予定です。担当教員が講義の中で随時紹介します。
	学びの手立て 7名の教員が担当するそれぞれの講義内容によって異なります。その注意事項等を必ず聞き漏らさないように気をつけて下さい。
	評価 平常点(講義への出席状況や受講態度など)および各教員の課題(レポート等)の提出をもって総合評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I および社会福祉士資格、精神保健福祉士資格関連科目。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、社会福祉専門職に関わる人材のすべてに関わる学問であり、共通する知識となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義のねらいは、まず、社会保障とは何かを理解することにある。また、社会保障制度の概念や体系、少子高齢化を背景とした我が国における社会保障制度の課題を学ぶ。さらに、医療保険制度、年金保険制度、労働保険制度について知識を深める。</p>	<p>学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、自分達の生活上生じた問題の解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。</p>
到達目標	<p>一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・社会保障とは	ナショナルミニマム
	2	社会保障制度の課題・概念	社会保障制度とは何か・定義
	3	社会保障制度の体系	社会保険・社会扶助
	4	社会保障給付のしくみ	社会保障給付費・年次推移
	5	社会保障給付費の分類	社会保障給付費3分類
	6	医療保険制度①	医療保険制度とは
	7	医療保険制度②	社会保険方式・公的医療保険
	8	医療保険制度③	公的医療保険制度の体系
	9	医療保険制度④	国民健康保険
	10	医療保険制度⑤	医療保険料の徴収
	11	医療保険制度⑥	現物給付と現金給付
	12	医療保険制度⑦	出産育児一時金
	13	医療保険制度⑧	療養の給付範囲
14	医療保険制度⑨	保険外併用療養費	
15	医療保険制度⑩	高額療養費制度	
16	前期試験		
テキスト・参考文献・資料など	中央法規出版新社会福祉士養成講座「社会保障」及び各教員からの配付資料		
学びの手立て	履修の心構え：本科目は前期「医療保険制度」を安次富が担当し、後期を「労働保険制度」「年金制度」を比嘉が担当する。両制度共に相談援助の知識としては当然ではあるが、身近な生活問題に密着した制度であるととらえて学習に取り組んでもらいたい。学びを深めるために：日頃から新聞、テレビニュース、雑誌などでとりあげられる社会保障について積極的に関心を示し知識として蓄えてもらいたい。		
評価	客観試験（2から3回実施）、受講態度等（出席状況・講義中の私語・遅刻）をもって評価する。出席回数が全講義回数の3分の2に充たない場合には、学則第14条に則り評価を「不可」とする。また、出席票に不正（代筆等）を確認した場合には、試験点数、それまでの出席状況に関わらず「不可」とする。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本科目は社会保障として開講するが、その他の社会保障制度と関連づけて学んで欲しい。「高齢者の生活支援と介護保険制度」「保健医療サービス」「障害者福祉」など</p> <p>(2) 次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（病気になったら、職場でけがしたら、失業したらなど）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必須の知識である。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、社会福祉専門職に関わる人材のすべてに関わる学問であり、共通する知識となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富郁哉(2)、比嘉邦子(14)	2年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会保障制度のうち、国民年金保険制度、労働保険制度について知識を深める。	メッセージ 学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、自分達の生活上生じた問題の解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。
	到達目標 一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。	

学びの準備	到達目標 一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	年金保険制度①	年金制度沿革
	2	年金保険制度②	年金保険制度の概要・体系
	3	年金保険制度③	国民年金制度
	4	年金保険制度④	厚生年金制度
	5	年金保険制度⑤	その他の年金制度
	6	年金制度の管理運営体制	年金制度の課題
	7	年金制度振り返り	
	8	労働保険制度①	労働災害補償制度
	9	労働保険制度②	労働災害補償制度
	10	労働保険制度③	雇用保険制度
	11	労働保険制度④	雇用保険制度
	12	労働保険制度⑤	雇用保険制度
	13	労災保険・雇用保険の管理運営体制	労働保険制度の課題
	14	労働保険制度振り返り	
	15	まとめ	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 中央法規出版新社会福祉士養成講座「社会保障」及び各教員からの配付資料
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え：「労働保険制度」「年金制度」共に相談援助の知識としては当然ではあるが、身近な生活問題に密着した制度であるとして学習に取り組んでもらいたい。また、学びを深めるために、日頃から新聞、テレビニュース、雑誌などでとりあげられる社会保障について積極的に関心を示し知識として蓄えるようこころがける。
-------	--

学びの実践	評価 客観試験、受講態度等(出席状況・講義中の私語・遅刻)をもって評価する。出席回数が全講義回数の3分の2に満たない場合には、学則第14条に則り評価を「不可」とする。また、出席票提出に不正があった場合には、試験点数、出席状況に関わらず「不可」とする。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：その他の社会保障制度と関連づけて学んで欲しい。「高齢者の生活支援と介護保険制度」「保健医療サービス」「障害者福祉」など (2) 次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題(病気になったら、職場でけがしたら、失業したらなど)の解決手段に役立てる。相談援助業務には必須の知識である。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる知識を習得することを目指す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会理論と社会システム	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎濱 佳代	1年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義の目的は、国際社会における福祉とは何かを考えることである。まず前半では、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題に関する社会学理論を学ぶ。その上で後半では、グローバル化する日本社会において福祉を提供するときにどんなことが問題になるか、また考慮すべき社会背景について、国際社会学の知見を学びながら理解を深める。</p>	<p>グローバル化がどのようなものなのかを知っておくことは、今後の社会福祉に関わるための重要な資質となるので、ぜひグローバル化と福祉についての自分なりの考え方を見つけるつもりで受講してほしい。</p>
到達目標	<p>①社会学において人と社会の関係がどうとらえられてきたのかを学ぶ。 ②①を踏まえた上で、人と社会の関係性にグローバル化がどのような影響を与えているのかについて各自の考察を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グローバル化時代における社会学とはなにか：これから学ぶこと	
	2	生活の理解：生活のとらえ方	
3	生活の理解：家族		
4	生活の理解：地域		
5	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯		
6	社会問題の理解：日本社会と社会問題		
7	グローバル化社会の理解：社会のグローバル化と社会問題		
8	グローバル化社会の理解：労働市場と外国人労働者の受け入れ		
9	グローバル化社会の理解：トランスナショナルな移民ネットワーク		
10	グローバル化社会の理解：国民国家とシティズンシップの変容		
11	グローバル化社会の理解：階層構造の中の移民、マイノリティ		
12	グローバル化と福祉の関係：グローバル化の中の福祉社会		
13	グローバル化と福祉の関係：グローバル化と家族の変容		
14	グローバル化と福祉の関係：移民/外国人の子どもたちと多文化の教育		
15	グローバル化と福祉の関係：共生社会と権利、期末レポート提出		
16	期末レポートの返却・講評		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム(新・社会福祉士養成講座) 第3版』中央法規出版、2014年。 【参考文献】 宮島喬他編著『国際社会学』有斐閣、2015年。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。 期末レポートでは授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。 ②学びを深めるために 高校社会科の復習をしておく、理解が深まりやすい。</p>		
評価	<p>中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目「社会学概論」などの理論を学ぶ科目 (2) 次のステージ 本講義で身につけた知識や考察は社会福祉士の資格を取得するためのみならず、ディプロマ・ポリシーに掲げられた「高度化かつ多様化する国際社会」を生きる上での基礎となるので、ぜひ将来、社会に関わる時に役立ててほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者支援実践演習A	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	ichuni0809miya@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本実践演習では、障害者支援の一形態としての「療育」のありようを概観し、療育と芸術活動との関わりについて理論と実践の両面から考察するとともに、「芸術療育」に関わる実践的なスキルを身につけることで、現場に应用可能な障害者支援の実践力を身に付けることを目標とする。</p>	<p>児童福祉の基本理念である児童憲章「児童は、人として尊ばれる。」「児童は、社会の一員として重んぜられる。」「児童は、よい環境の中で育てられる。」は、障害者支援の現場における基本理念でもある。本授業実践演習では「芸術療育」を通し、障害者（児）の権利とそれを踏まえた支援についてを頭で理解するだけでなく、心と身体が実感をもって感じられることを目指す。</p>
到達目標	<p>障害者支援の一形態としての「療育」の特徴をコンパクトに説明できる。 療育と芸術活動との関わりについて理論と実践の両面から説明ができる。 芸術療育に関わる実践的なスキルを身につけ、現場に応じて応用ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「障害」と支援/ケア	自身の「障害」観の整理（予習）
	2	「障害」と子ども	自身の「子ども」観の整理（予習）
	3	障害児支援としての「療育」	講義の内容の整理（復習）
	4	発達過程と「療育」	講義の内容の整理（復習）
	5	社会福祉における「療育」	講義の内容の整理（復習）
	6	療育と「芸術」（1）音楽（理論と実技）	講義の内容の整理（復習）
	7	療育と「芸術」（2）美術（理論と技術）	講義の内容の整理（復習）
8	「芸術療育」の可能性	可能性を考察してくる（予習）	
9	芸術療育と「沖縄」の文化（1）音楽（理論と実技）	沖縄の音楽について下調べ（予習）	
10	芸術療育と「沖縄」の文化（2）工芸（理論と実技）	沖縄の音楽について下調べ（予習）	
11	芸術療育ワークショップ（1）個人と集団	ワークショップの予行	
12	芸術療育ワークショップ（2）主体性と援助	ワークショップの予行	
13	芸術療育ワークショップ（3）身体性とリズム	ワークショップの予行	
14	芸術療育ワークショップ（4）権利と原理	ワークショップの予行	
15	「芸術療育」の展望	展望を考察する（復習）	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>レジュメ・資料を配布する。 参考文献 保坂健二郎 監修『アール・ブリュット アート 日本』（2013年、平凡社） バーバラ・ロゴフ『文化的営みとしての発達』（新曜社）</p>		
学びの手立て	<p>児童福祉や障害者（児）に関する基準法、ボランティア活動等を通して障害者と共に「芸術療育」に触れる。</p>		
評価	<p>芸術療育に関する理論的な理解とワークショップでの実技とを、5：5で評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ケアの理論と実践
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる演習です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者支援実践演習B	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川上 恵	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 障害者支援実践演習Bは、ろう・難聴者に対する従来の概念を問い直し、当事者からの生の声を知ることによって求められる「平等」な社会とは何かを共に追究していきたいと思います。	メッセージ 本演習では基本的な手話を学び、そしてろう・難聴者に関わるテーマを中心にディスカッションを進めます。新しい言語、そしてさまざまな視点から、新たな視点を発見してみませんか？
	到達目標 ろう社会を「人の多様性」として学び、社会が持っている従来の「ろう・難聴者」の概念を問い直すという思考力・分析力を身につける。それによりろう文化やコミュニケーション・情報保障のあり方、そして権利等に関する知識及び地域的・国内的・国際的動向を理解する。さらによりよい多文化共生社会のあり方を共に問い、その実現のための道すじを共に考えていく専門職を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の概要（オリエンテーション）	
	2	ろう者の世界への入門	
	3	ろう者の世界への入門	
	4	ろう・難聴者とは②	
	5	ろう社会とは	
	6	コミュニケーションの多様性	
	7	言語としての「手話」	
	8	情報保障のあり方①	
	9	情報保障のあり方②	
	10	日本・沖縄の現況	
	11	世界の現況	
	12	ろう・難聴者を取り巻く社会問題について考えてみよう①	
	13	ろう・難聴者を取り巻く社会問題について考えてみよう②	
	14	ろう・難聴者を取り巻く社会問題について考えてみよう③	
	15	発表	
	16	まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献・資料は講義時間に随時紹介します。		
	学びの手立て ①学びを深めるために、参考文献等を随時紹介します。		
	評価 発表（40%）： 受講態度（30%） レポート（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 障害者福祉の理念と意義および障害者の生活のしづらさや歴史と権利を学び、障害者福祉の施策や制度および動向の概要を理解することをねらいとします。本科目を通して障害者福祉の基礎知識を習得することを目指します。	メッセージ 本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格科目としても位置付けられており、講義はテキストを中心に、障害者福祉の基礎知識が習得できるように展開していきます。テキストは必ず購入しましょう。資格に関係なく広く障害者福祉を学びたい学生も歓迎します。障害者福祉が目指す社会像について考え、実践できるきっかけとなれば嬉しく思います。共に学んでいきましょう。
	到達目標 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解することができる。 ②障害者福祉制度の発展過程について理解することができる。 ③相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義概要の理解)と障害者を取り巻く社会情勢①	次回に向けての予習課題①
	2	障害者を取り巻く社会情勢②	次回に向けての予習課題②
	3	障害者の生活実態やニーズ	次回に向けての予習課題③
	4	障害の概念(ICFの特徴)、障害の医学モデル/社会モデル	次回に向けての予習課題④
	5	障害者基本法、その他関連法	次回に向けての予習課題⑤
	6	障害者総合支援法① 理念・考え方、自立支援給付	次回に向けての予習課題⑥
	7	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費	次回に向けての予習課題⑦
	8	障害者総合支援法③ 地域生活支援事業、障害福祉計画	講義振り返り
	9	障害者総合支援法④ 苦情解決、審査請求、介護保険制度との関連	講義振り返り
	10	障害児福祉施策	次回に向けての予習課題⑧
	11	組織・機関の役割① 行政機関、事業者の役割	次回に向けての予習課題⑨
	12	組織・機関の役割② 労働機関、教育機関の役割	次回に向けての予習課題⑩
	13	障害者総合支援法に基づく主な専門職の役割と実際	講義振り返り
	14	多職種連携・ネットワーキング	講義振り返り
15	まとめ・振り返り *進捗状況によりコマ数の変更、順序の変更あり	期末試験に向けての準備	
16	前期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 新・社会福祉士養成講座(14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度(中央法規)の最新版(受講生は必ず購入すること) 参考文献・資料 参考文献は必要に応じて講義時間に紹介、資料は適宜配布する。
----	---

学びの手立て	①社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験に必要な科目でもあり、毎回出席を取ります。②期末試験の受験資格、成績評価等その他については、学則、学部履修規程に基づきます。③ソーシャルワーカーを目指す者として、私語、携帯使用、代筆、代弁、写し等の行為が何に当たるのか各自考え、受講して下さい。④講義内容の学びを深めるために予習課題を出します。⑤福祉新聞や地元新聞にも目を通しましょう。
--------	---

評価	授業提出時のリアクションペーパー30%、予習課題20%、期末試験50%で、まずは評価し、出席状況・受講態度等の内容を勘案して、最終評価をします。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①関連科目：国家資格関連科目を履修しましょう。②次のステージ：実習や研究活動に活用しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害児・者心理学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	2年	研究室：9号館618 r.nomura@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 身体障がい、発達障がい、精神障がいについて、それぞれの心理学的特徴および心理支援について理解する。	メッセージ 「障がい」とは何か、当事者の苦労や強み、自分にできるサポートは何か等、受け身の姿勢で授業を聞くのではなく、常に考えながら受講し、理解を深めてほしいです。
	到達目標 ①障がいとは何かを理解する。 ②各障がいにおける特徴とそれを踏まえた支援について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	リフレクションシートの作成
	2	障がいをどのように捉えるか	リフレクションシートの作成
	3	身体障がいと心理的特徴①	リフレクションシートの作成
	4	身体障がいと心理的特徴②	リフレクションシートの作成
	5	知的障がいと心理的特徴	リフレクションシートの作成
	6	自閉スペクトラム症と心理的特徴	リフレクションシートの作成
	7	ADHDと心理的特徴	リフレクションシートの作成
	8	学習障がいと心理的特徴	リフレクションシートの作成
9	統合失調症と心理的特徴	リフレクションシートの作成	
10	物質使用障がいと心理的特徴	リフレクションシートの作成	
11	うつ病・躁うつ病と心理的特徴	リフレクションシートの作成	
12	認知症と心理的特徴	リフレクションシートの作成	
13	障がい児者家族の心理	リフレクションシートの作成	
14	障がい児者の支援	リフレクションシートの作成	
15	まとめ	リフレクションシートの作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましいです。障がいの特性を理解し、日常生活で関わる上で自分に何ができるかを考え、毎回リフレクションシートにまとめて提出してもらいます。		
	評価 リフレクションシート…50% 最終レポート…50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「発達臨床心理学」で各障がいを発達段階に沿って学び、その時期に合わせた支援について理解を深める。「精神医学」で診断や医学的立場からの見解を学ぶ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学概論	通年	水4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃 (16)、赤嶺遼太郎 (16)	1年	前期mshino@okiu.ac.jp/後期ptt1003@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>心理学の歴史、研究法、各分野の重要研究、理論を学び心理学の全体像をつかむ。前期は「歴史、研究法、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、動機づけ、情動、心と脳」、後期は「発達、人格（パーソナリティ）、社会、臨床」の各分野の基礎知識を学ぶ。心理学の基礎知識をもちいて人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点（人の心と行動を科学的に分析的に理解する）を身につける。</p>	<p>心理学的視点で人や社会、自分自身について考える面白さをお伝え出来るよう、古典的な心理学から最近のトピックまで幅広く紹介しながら学習を進めていきます。関心のある分野を見つけて、自分で調べたり、周りの人に説明したり、知識や技術を積極的に使うことでより学ぶことができます。</p>
	到達目標	
	<p>①心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、心理学の各分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる ②心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	予習法（2度読み・用語調べ）理解
	2	心理学の歴史と研究法1	歴史・研究法の資料を予習
	3	心理学の歴史と研究法2	感覚・知覚の資料を予習
	4	感覚・知覚1	感覚・知覚の資料を予習
	5	感覚・知覚2	記憶の資料を予習
	6	記憶1	記憶の資料を予習
	7	記憶2	記憶の資料を予習
	8	学習1	記憶の資料を予習
	9	学習2	思考と創造性の資料を予習
	10	思考と創造性1	思考と創造性の資料を予習
	11	思考と創造性2、知能	動機づけ・情動の資料を予習
	12	動機づけ・情動1	動機づけ・情動の資料を予習
	13	動機づけ・情動2	こころと脳の資料を予習
	14	こころと脳1	こころと脳の資料を予習
	15	こころと脳2	期末課題によるこれまでの復習
	16	予備日	
	17	後期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	18	発達心理学1	用語調べ
	19	発達心理学2	用語調べ
	20	発達心理学3	用語調べ
	21	パーソナリティ心理学1	用語調べ
	22	パーソナリティ心理学2	用語調べ
	23	パーソナリティ心理学3	用語調べ
	24	中間テスト・心理学最近のトピック	これまでの復習
	25	社会心理学1	用語調べ
	26	社会心理学2	用語調べ
	27	社会心理学3	用語調べ
	28	臨床心理学1	用語調べ
	29	臨床心理学2	用語調べ
30	臨床心理学3	用語調べ	
31	基礎心理学と臨床心理学	用語調べ	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配布する ・参考図書 鹿取広人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）（2015） 心理学第〔5版〕 東京大学出版会 無藤隆（2004） 心理学 有斐閣 重野純（編）（2012） 心理学〔改訂版〕 キーワードコレクション 新曜社 田島信元（1989） 心理学キーワード有斐閣双書 有斐閣
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修に関する大学の規則を理解しておいて下さい。講義中は周囲の迷惑にならないよう配慮して下さい。 ・人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する学生は教職用クラスを受講してください。 <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で適宜参考図書を紹介します。関心のある分野の参考図書を積極的に読みましょう。 ・心理学の専門的な参考文献（資料や図書）を読んで理解するには、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、ワークシート（20%）、ポートフォリオ（30%）、期末課題レポート（30%）、振り返りレポート（20%）の合計で評価。 ・後期は、中間テスト（30点満点）、期末テスト（70点満点）の合計点で評価。 ・前期、後期とも、課題やテストを用いて、上記の到達目標の①～④の達成度を評価する。 ・前期と後期の点数を平均して、通年の評価とする。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：心理学史、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、生理心理学、神経心理学、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、人格心理学、臨床心理学Ⅰ・Ⅱなど、心理学概論の知識と結びつけながら学ぼう。</p> <p>(2) 次のステージ：心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続し、各専門科目を学ぼう。加えて共通科目を幅広く学び人や社会について多面的に捉え考える力をつけよう。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別 前期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
--

学びの手立て ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価 平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60% ※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。
--

学びの継続 次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別 前期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ *研究室 5-431 e-mail mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究方法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別 前期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 上田 幸彦	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究方法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	井村 弘子	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成	
16	予備日/実習③レポートの提出		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	泊 真児	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成	
16	予備日/実習③レポートの提出		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。</p> <p>次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。</p> <p>心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	野村 れいか	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：9号館618 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	<p>基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。</p>	メッセージ	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。</p>
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
	2	心理学研究方法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組み
	4	実習①-1 全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
	5	実習①-2 全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	6	実習①-3 全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
	7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
	8	実習①-4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
	9	実習①-5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
	10	実習②-1/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	11	実習②-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	12	実習②-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
	13	実習③-1 実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
	14	実習③-2 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③-3 レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成	
16	予備日/実習③レポートの提出		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60% ※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	泊 真児	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1：テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習	
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。</p> <p>その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミューラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1: テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
	15	合同ゼミ2: 3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。 次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。 その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	野村 れいか	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：9号館618 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミューラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1：テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
	15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。 次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。 その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	*研究室 5-431 e-mail mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミューラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1: テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
	15	合同ゼミ2: 3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。 次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。 その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミューラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。</p>	<p>心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1: テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2: 3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

学びの実践	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40% ・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60% <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。</p> <p>その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	井村 弘子	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基本的な心理学研究方法を用いた7つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミューラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究方法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究方法の基礎を身につけてもらう。	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション/3・4年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
	2	実習④-1: テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
	3	実習④-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	4	実習④-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	5	実習⑤-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	6	実習⑤-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	7	実習⑤-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	8	実習⑥-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	9	実習⑥-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	10	実習⑥-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	11	実習⑦-1: テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
	12	実習⑦-2: 結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
	13	実習⑦-3: レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
	14	合同ゼミ1/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2: 3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。 ・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。 ・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。 ・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。
--------	---

評価	<p>・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。 次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。 その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学研究法 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	火 4	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。まず、基本的な研究の展開の仕方、研究論文の様式、研究倫理について理解する。次に、前・後期を通し実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、観察、面接、検査、調査などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	心理学研究法とは
	3	研究の流れ：研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
	4	実験法①
	5	実験法②
	6	実験法③
	7	実験法④
	8	実験法⑤
	9	観察法①
	10	観察法②
	11	観察法③
	12	観察法④
	13	検査法①
	14	検査法②
	15	検査法③
16	予備日	
		時間外学習の内容
		シラバスなどの理解/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/次回の予習
		今回の復習/全体の復習/期末課題

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書を常に参照すること。 ①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ 有斐閣 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク(課題について考える)を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだこと、心理学基礎演習Aでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。 他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。
--------	--

評価	<p>平常点(出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況)…50%</p> <p>期末課題(ポートフォリオとレポート課題の内容)…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Aを履修すること。 次のステージ：引き続き、心理学基礎演習B、心理学研究法IIを履修する。心理学研究法Iで学んだことを、心理学基礎演習B、心理学専門演習IA・B、心理学専門演習IIA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学研究法Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火4	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。前期の心理学研究法Ⅰの学びに続き、実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。さらに、各研究法の特徴を踏まえた研究立案の視点を身につける。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけることができる ③実験、観察、面接、検査、調査などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認	シラバスなどの理解/次回の予習
	2	文献研究①	今回の復習/次回の予習
	3	文献研究②	今回の復習/次回の予習
	4	研究法とデータ分析①	今回の復習/次回の予習
	5	研究法とデータ分析①	今回の復習/次回の予習
	6	研究法とデータ分析①	今回の復習/次回の予習
	7	面接法(調査的面接)①	今回の復習/次回の予習
	8	面接法(調査的面接)②	今回の復習/次回の予習
	9	面接法(調査的面接)③	今回の復習/次回の予習
	10	面接法(調査的面接)④	今回の復習/次回の予習
	11	調査法(質問紙法)①	今回の復習/次回の予習
	12	調査法(質問紙法)②	今回の復習/次回の予習
	13	調査法(質問紙法)③	今回の復習/次回の予習
	14	調査法(質問紙法)④	今回の復習/次回の予習
	15	調査法(質問紙法)⑤	今回の復習/全体の復習/期末課題
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書等を常に参照すること。 ①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし—有斐閣アルマ 有斐閣 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門—調査・実験から実践まで— 東京大学出版会 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク(課題について考える)を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだことと、心理学基礎演習Bでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。 他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。
--------	---

評価	<p>平常点(出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況)…50%</p> <p>期末課題(ポートフォリオとレポート課題の内容)…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Bを履修すること。 次のステージ：引き続き、心理統計学Ⅰ・Ⅱおよび各心理専門科目を履修する。心理学研究法Ⅰ・Ⅱで学んだことを、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。社会や日常の諸問題を心理学研究法の視点を通して理解し考える態度を実践してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ。
 心理学的現象を理論的に考え、説明できる力を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学史	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山入端 津由	2年	講義終了後、教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代心理学はどのようにして生まれたのか。心理学史を構成する理論は、どのようにできて、どのような変遷を辿ったのか。心理学が独立した学門として認められたのは、19世紀後半といわれ、比較的若い学門である。しかし、心理学的問題に関する人々の関心はそれ以前からあった。また、それ以降も心理学の理論は展開している。本講では、欧米の心理学史を中心に近代心理学まで学びます。	心理学は人間の心に対する興味を土台に発展した学門である。したがって、心理学の歩みは、人間の心の働きの発達の歴史といわれている。人類は、人の心をどのように理解してきたのか。そして、現代心理学は、どのように結実してきたのか。果たして心理学はこれからどのような展開をしていくのだろうか。心理学史を知ることによって考えてみたい。
到達目標	心理学の理論とアプローチについて、関連科目で学んだ心理学理論を再度思い起こしてみよう。それぞれが学んだ心理学理論は、心理学史の中のどこに位置づけられるのかについても考えてみましょう。多様な心理学理論の繋がりや、人間モデルの違い、発想の違いなどの関連が見えてくると心理学の理解がぐっと深まります。講義の各回で、リアクションペーパーの記載を義務づけませんが、これに各自が興味や関心をもった人間モデルの捉え方をまとめて記載する訓練をしてほしいものです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要）	配布資料、文献等の講読
	2	19世紀の心理学（ドイツとアメリカ）	配布資料、文献等の講読
	3	行動主義心理学とその批判	配布資料、文献等の講読
	4	ゲシュタルト心理学とその批判	配布資料、文献等の講読
	5	精神分析学とその批判	配布資料、文献等の講読
	6	認知心理学とその批判	配布資料、文献等の講読
	7	ヒューマニスティック心理学とその批判	配布資料、文献等の講読
	8	社会心理学の源流と展開（ドイツー民族心理学/フランスー集合・群衆心理学）	配布資料、文献等の講読
	9	社会心理学の源流と展開（イギリスー進化論、本能心理学）	配布資料、文献等の講読
	10	社会心理学の源流と展開（アメリカ社会心理学の成立）	配布資料、文献等の講読
	11	社会心理学の分化(1)ーW. ジェームズ/J.H. クーリー	配布資料、文献等の講読
	12	社会心理学の分化(3)ーG.H. ミード、J. デューイ、W.I. タマス	配布資料、文献等の講読
	13	社会心理学の分化(4)ーパーソナリティ論、カルチャー&パーソナリティ論	配布資料、文献等の講読
	14	発達研究と心理学（ピアジェ/ウィゴツキー）	配布資料、文献等の講読
15	脳科学と心理学	配布資料、文献等の講読	
16	まとめの討議及び総合評価	テスト	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	参考文献 1 心理学史ー世界と日本の心理学 サトウタツヤ・高砂美樹 2003 有斐閣アルマ 2 心理学への招待ー現代心理学の背景 梅本堯夫・大山正（編） 1994 サイエンス社 3 社会心理学の源流と展開 F.B. カーブ 大橋英寿（監訳） 1987 勁草書房

学びの実践	学びの手立て
	各講義について、リアクションペーパーを課す。これは出席簿として扱う。なお、他の50点は、小テスト得点に碑文する。また、配付資料を熟読すること、課題に関する関連文献を自ら収集し読むことを推奨する。

学びの実践	評価
	①リアクションペーパーで評価（総合点100点の内、50点を配分）。②テストを実施する。得点配分は50点とする。④出席については、リアクションペーパーの得点とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	他の専門科目と関連づけて理解を深めること。

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	3年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習 I A の目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学や臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。I A では、グループでの研究活動を通して、文献の検索法・読み方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。</p>	<p>2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえて、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことによって、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。</p>
到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介	授業計画の理解・振り返り
	2	対人交流グループ・ワーク	授業内容の振り返り・レポート課題
	3	グループ研究のテーマの検討	研究テーマの立案・話し合い
	4	研究テーマに関連する文献の検討(1)	文献の精読・レジュメ作成
	5	研究テーマに関連する文献の検討(2)	文献の精読・レジュメ作成
	6	研究テーマに関連する文献の検討(3)	文献の精読・レジュメ作成
	7	研究テーマに関連する文献の検討(4)	文献の精読・レジュメ作成
	8	研究テーマに関連する文献の検討(5)	文献の精読・研究計画書の策定
	9	研究デザインの検討(1)	研究計画書の策定
	10	研究デザインの検討(2)	研究計画書の再検討
	11	研究デザインの検討(3)	研究計画書の確定
	12	研究デザインの具体化作業(1)：実験・調査計画書等の策定	実験・調査等の実施準備
	13	研究デザインの具体化作業(2)：実験・調査計画書等の策定	実験・調査等の実施準備
	14	研究計画の実施準備：依頼状の作成・計画の最終チェック・実験や調査等の準備	実験・調査等の実施準備
15	研究計画の実施：研究協力の依頼・データ収集(1)	データ収集・実査・データ入力等	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	<p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。</p>
--------	--

評価	<p>・授業への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、出席することを前提に質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。 ・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II を履修し、学習内容について定着を図ることが大切です。 次のステージとして、心理学専門演習 I B の履修へつなげて、卒業研究へと展開しましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講では卒業研究の前段階として、小グループによるグループ研究を行い、心理学の各研究法を理解し実証的手法を身につけることを目的とする。グループでの研究協働を通し、心理学の研究過程（文献検索・読み込み、リサーチクエスチョン・研究テーマの設定、研究デザイン・研究計画の策定、実験、調査などの実施、データの収集・分析・考察、研究報告書の執筆、研究発表）を体験的に学ぶ。	今までの心理学の専門的学習内容をもとに卒業論文研究に取り組む準備をしよう。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法で研究することを意識して、日常の体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り卒業論文のテーマを考えよう。グループ研究の基本は自発的な取り組みとゼミ仲間、教員との協働です。仲間と共に研究活動に打ち込み研究力を伸ばそう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③卒業論文研究に向けて、現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	授業計画などの理解/テキスト予習
	2	心理学の研究の流れと研究論文について	テキストの指定範囲の予習・復習
	3	問題意識とリサーチクエスチョンについて	指定範囲の予習・復習
	4	文献検索と文献レビューについて-1	テキスト復習・文献検索・読み込み
	5	文献検索と文献レビューについて-2	文献検索・読み込み/レビュー作成
	6	グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表-1	文献検索・読み込み/レビュー作成
	7	グループ研究②文献の読み込みと文献レビュー発表-2/研究グループの編成	グループミーティング・資料作成
	8	グループ研究③研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討-1	Gミーティング・研究デザイン作成
	9	グループ研究④研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討-2	Gミーティング・研究計画書作成
	10	グループ研究⑤研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の発表（構想発表会形式）-1	Gミーティング・研究計画書作成
	11	グループ研究⑥研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の発表（構想発表会形式）-2	Gミーティング・研究計画書作成
	12	グループ研究⑦研究計画の具体化（実験・調査などの準備）	Gミーティング・研究準備
	13	グループ研究⑧研究計画の具体化（実験・調査などの準備）	Gミーティング・研究準備
	14	グループ研究⑨研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
15	グループ研究⑩研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社 参考図書（下記①～④を常に参照するとよい。その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する） ①高野陽太郎・岡隆(2004). 心理学研究法—こころを見つける科学のまなざし 有斐閣アルマ 有斐閣 ②都筑学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ③心理学基礎演習シリーズVol.1.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、グループ研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、グループごとの指導・個別指導・助言を組み合わせて進める。 ・グループ研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・グループ研究では、メンバーの研究協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各メンバーが自分の役割を責任を持って果たし、自発的に協力し合って研究活動をする）が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。グループやメンバー個人で課題や困りごとを抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で、グループの、自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
--------	--

評価	<p>到達目標①と②：構想発表、デザイン発表、研究計画書などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、グループ研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・Bの履修と学習内容の復習。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学の各分野、共通科目を含めた諸学問分野の知識や情報が重要になる。次のステージ：引き続き心理学専門演習ⅠBを履修する。グループ研究を通して身につけた心理学的視点と研究力の基本をもとに、卒業論文研究のテーマを考えよう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文のテーマを設定する。そのために先行研究の精読ができ、疑問点・問題点をあげることができるようにならないといけない。テーマは以下のものとする。1、大学生の対人交流に関する研究；2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、公的自己意識、回避行動、自己呈示、役割など）；5、グループアプローチに関する研究；4、動作法に関する研究	いよいよ卒業論文作成についての取り組みがスタートします。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。
到達目標	①心理学論文を読み、要約し、疑問点・問題点をあげることができる。 ②自分の研究テーマについて、明確に理解し、先行研究の中に位置づけ、説明できる。 ③自分の研究テーマについて、問題を解決するために具体的な方法論を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下の内容で授業を展開する。 以下の内容は、心理学専門演習ⅠA（前期）、B（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびBを通して行う。 研究テーマによっては、4年次の卒論のデータ収集を手伝いながら、研究手法について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、グループ研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、グループ研究の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 5、グループ研究の発表 6、卒業論文計画の報告と検討 7、卒業論文調査・実験の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 8、卒業論文結果・考察の報告と検討 9、卒業論文発表準備と練習 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グループでの話し合い 2、文献精読、文献要約 3、グループ研究の実施とデータまとめ 4、プレゼンテーションの準備 5、報告・発表資料の作成 6、文献集め <p>このクラス（平山ゼミ）では、卒論を進めていく目的で、4年次ゼミへの参加、春休み期間中の卒論構想発表会の予演での発表が求められる。また、キャリア形成の活動として、夏休みのチャレンジ課題、就職活動の勉強会への参加が求められる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理学専門演習ⅠB（後期）、心理学専門演習ⅡAおよびB 卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 毎回、事前に論文を読み、質問を考えておくように。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに臨床心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文①中途障害関連 輪読	
	2	論文①輪読	
	3	論文①輪読	
	4	論文②中途障害と心理的適応関連 輪読	
	5	論文②輪読	
	6	論文②輪読	
	7	論文③高次脳機能障害関連 輪読	
8	論文③輪読		
9	論文③輪読		
10	論文④高次脳機能障害リハビリテーション関連 輪読		
11	論文④輪読		
12	論文④輪読		
13	論文⑤糖尿病と心理関連 輪読		
14	論文⑤輪読	夏休み読書課題決定	
15	論文⑤輪読	夏休み読書課題	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」、M.G.イーゼンバーグ編 野中 猛・池淵恵美 監訳 (1997) 岩崎学術出版社 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」 上田幸彦著 (2011) 風間書房		
	学びの手立て		
	評価 授業への出席状況と、ディスカッションへの積極性から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ストレスマネジメント、行動療法、発達臨床心理学、神経心理学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的にしている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。	自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえることをたえず意識してほしい。		
学びの準備	到達目標			
	心理学の専門研究論文を精読できる力を身につける。 関心のある事象を心理学的な視点でとらえ、関連する論文を検索できる力を身につける。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的にしているため、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。		
		テキスト・参考文献・資料など 杉本敏夫 (著) 「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社 各自のテーマに沿って紹介する。		
		学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。		
学びの実践	評価	授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	後期科目「心理学専門演習ⅠB」を続けて履修し、卒業論文に向けた研究構想を明確にしてゆく。		

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	3年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	I Bは、前期に取り組んだグループ研究を応用・発展させる段階と位置づけ、4年次の卒論作成にスムーズに移行できるようなゼミ活動をしていきたいと考えています。具体的には、前期のグループ研究の成果をまとめ、要望・状況に応じて新たなグループ研究を行う。各自の卒論テーマに関わる文献の発表・討議を行いながら、卒業研究テーマを絞り込んでいく作業を進める、等を考えています。	今までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえて、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中の何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に卒業研究のテーマに取り組むことによって、4年次の学びの集大成へと展開しましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み課題に関する個人発表	次回の発表資料作成
	2	前期のグループ研究の成果のまとめ	次回の発表資料作成
	3	前期のグループ研究の成果発表会	成果発表の振り返り・ミニレポート
	4	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(1)	文献収集・精読、発表資料作成
	5	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(2)	同上
	6	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(3)	同上
	7	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(4)	同上
	8	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(5)	同上
	9	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(6)	同上
	10	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(7)	同上
	11	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(8)	同上
	12	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(9)	同上
	13	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(10)	同上
	14	卒論に関わる学術論文の個人発表 or グループ研究(11)	同上
15	卒論ブレデザイン発表・検討会に向けてのガイダンス	発表資料の作成・準備	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 <p>松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房</p>
----	--

学びの手立て	<p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。</p> <p>②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。</p> <p>③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。</p> <p>④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。</p>
--------	---

評価	<p>・授業への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、出席することを前提に質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。</p> <p>・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。</p> <p>・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法I・II、心理統計学基礎、心理統計学I・II、心理学専門演習IAを履修し、学習内容について定着を図ることが大切です。 ・次のステージとして、心理学専門演習IIAを履修し、これまでの学びを卒業研究として結実させましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期別 後期	曜日・時限 月 2	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学専門演習 I Aに引き続いてグループでの研究協働を通し、心理学の研究過程（特に、研究実施、データの収集・分析・考察、研究報告書の執筆、研究発表）を体験的に学ぶ。グループ研究での学びにもとづき、卒業論文研究立ち上げのために、自分の興味関心のある領域において文献検索・レビューを行い、研究テーマ・研究デザイン・計画の策定を行い、卒業論文プレ構想発表を行う。	メッセージ グループ研究の基本、個々の自発的な取り組みとゼミ仲間、教員との協働を意識して、仲間と共に研究活動に打ち込み研究を完成させ、研究力を伸ばそう。心理学の専門的学習内容やグループ研究の体験を基に、日頃の疑問や関心を心理学的研究法で研究することを意識し、日常の体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り、卒論研究のテーマを考えよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③卒業論文研究に向けて、現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グループ研究の中間報告/夏休みの課題の報告	グループ研究計画検討・振り返り
	2	グループ研究⑪研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
	3	グループ研究⑫研究計画の実施・データ収集（研究依頼・実施・データ収集）	Gミーティング・研究の諸活動
	4	グループ研究⑬研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	5	グループ研究⑭研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	6	グループ研究⑮研究計画の実施・データ分析・結果の読み取り	Gミーティング・研究の諸活動
	7	グループ研究⑯研究計画の実施・結果のまとめと考察	Gミーティング・研究の諸活動
	8	グループ研究⑰研究計画の実施・結果のまとめと考察	Gミーティング・研究の諸活動
	9	グループ研究⑱研究計画の実施・研究発表準備（ポスター・発表資料作成、発表予演）	Gミーティング・研究の諸活動
	10	グループ研究⑲研究計画の実施・研究発表準備（ポスター・発表資料作成、発表予演）	Gミーティング・研究の諸活動
	11	グループ研究⑲研究計画の実施・研究発表	研究活動振り返り・卒論文献検索
	12	卒業論文研究デザイン・計画案発表①	卒論文献読み込み・資料作成
	13	卒業論文研究デザイン・計画案発表②	文献検索・読み込み・資料作成
	14	卒業論文研究デザイン・計画案発表③	卒業論文プレ構想発表準備
	15	卒業論文プレ構想発表①	卒業論文プレ構想発表準備
16	卒業論文プレ構想発表②	卒業論文プレ構想発表振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために. 河出書房新社 参考図書（下記①～④を常に参照するとよい。その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する） ①高野陽太郎・岡隆(2004). 心理学研究法—こころを見つめる科学のまなざし 有斐閣アルマ 有斐閣 ②都筑学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（グループ研究の進捗、デザイン発表、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、グループごとの指導・個別指導・助言を組み合わせる。 ・グループ研究と卒論研究のテーマ検討はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・グループ研究ではメンバーの研究協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各メンバーが自分の役割を責任を持って果たし、自発的に協力し合って研究活動をする）が重要になる。 ・グループ研究、卒論研究のテーマ検討に関する疑問や課題は、教員への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話を通して、自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
--------	--

評価	<p>到達目標①と②：グループ研究の報告書、研究発表、各自の卒論の構想発表（研究デザイン・究計画書）などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）</p> <p>到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、グループ研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学基礎演習 A・B、心理学専門演習 I Aの履修と学習内容の復習。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学を含む諸学問分野の知識や考え方を学ぶ。次のステージ：心理学専門演習 II A・Bを履修する。グループ研究を通して身につけた心理学的視点と研究力の基本をもとに、卒業論文研究の構想を十分に検討しよう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文のテーマを設定する。そのために先行研究の精読ができ、疑問点・問題点をあげることができるようにならなければならない。テーマは以下のものとする。1、大学生の対人交流に関する研究；2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、公的自己意識、回避行動、自己呈示、役割など）；5、グループアプローチに関する研究；4、動作法に関する研究	いよいよ卒業論文作成についての取り組みがスタートします。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。
到達目標	①心理学論文を読み、要約し、疑問点・問題点をあげることができる。 ②自分の研究テーマについて、明確に理解し、先行研究の中に位置づけ、説明できる。 ③自分の研究テーマについて、問題を解決するために具体的な方法論を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下の内容で授業を展開する。 以下の内容は、心理学専門演習 I A（前期）、B（後期）、心理学専門演習 II AおよびBを通して行う。 研究テーマによっては、4年次の卒論のデータ収集を手伝いながら、研究手法について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集 2、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション 3、グループ研究計画の作成途中経過の報告と検討 4、グループ研究の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 5、グループ研究の発表 6、卒業論文計画の報告と検討 7、卒業論文調査・実験の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討 8、卒業論文結果・考察の報告と検討 9、卒業論文発表準備と練習 <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グループでの話し合い 2、文献精読、文献要約 3、グループ研究の実施とデータまとめ 4、プレゼンテーションの準備 5、報告・発表資料の作成 6、文献集め <p>このクラス（平山ゼミ）では、卒論を進めていく目的で、4年次ゼミへの参加、春休み期間中の卒論構想発表会の予演での発表が求められる。また、キャリア形成の活動として、夏休みのチャレンジ課題、就職活動の勉強会への参加が求められる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポート、卒業論文テーマの発表会でのプレゼンテーション内容などを総合的に判断し、評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習 I B（後期）、心理学専門演習 II AおよびB 卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ること、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 事前に論文をよく読み、積極的に質問、コメントをするように。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに臨床心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み読書課題 発表①	
	2	〃 発表②	
	3	〃 発表③	
	4	〃 発表④	
	5	論文⑥偏見関連 輪読	各自選択した論文を読む
	6	論文⑥輪読	〃
	7	論文⑥輪読	〃
	8	論文⑦認知行動療法関連1 輪読	〃
	9	論文⑦輪読	〃
	10	論文⑦輪読	〃
	11	選択した論文紹介①	〃
	12	選択した論文紹介②	〃
	13	選択した論文紹介②	〃
	14	卒論構想発表①	〃
15	卒論構想発表②	〃	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：心理社会的リハビリテーションのキーワード M.G.イーゼンバーグ編 野中 猛・池淵恵美監訳 (1997) 岩崎学術出版社 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 (2011) 風間書房 「ストレス科学事典」日本ストレス学会編 (2011) 実務教育出版		
	学びの手立て		
	評価 出席状況と、夏休み読書課題レポート、選択論文レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習Ⅱ
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについてデータを収集し、レポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。	メッセージ 心理学的視点でとらえた自分の興味・関心のある事象を、どのような心理学的手法で実証するかを、しっかりと考えてほしい。
	到達目標 心理学的視点でとらえた事象の詳細を検証する心理学的な研究手法を学ぶ。自分の興味・関心のある事象を、心理学的に検証する方法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み、大まかな研究計画を立てる。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指定する。 各自のテーマに沿って紹介する。
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。
	評価 演習への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより総合評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅠA」に引き続いて履修する科目である。 次年度は「心理学専門演習ⅡA」・「心理学専門演習ⅡB」を履修する。
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別 前期	曜日・時限 月3	単位 2
	担当者 泊 真児	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの方や考え方、表現の仕方を身につけることがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。	メッセージ 卒業研究は、学生自身が自発的に研究活動を進められるかどうかにかかっています。自分が頑張らなければ、少しも前には進みません。周囲の人の力を借りながらも、肝心な所は独力でやり抜く姿勢が強く要求されますので、卒論を完成させた暁には、大きな達成感を得られるはずで、卒論を通しての成長を期待しています。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究として結実させることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：オリエンテーション	授業計画・卒論スケジュールの確認
	2	2週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(1)	文献収集・精読、レジメ作成
	3	3週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(2)	同上
	4	4週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(3)	同上
	5	5週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(4)	同上
	6	6週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(5)	同上
	7	7週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(6)	同上
	8	8週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(7)	同上
	9	9週目：卒業論文のデザイン発表会(1)	同上
	10	10週目：卒業論文のデザイン発表会(2)	同上
	11	11週目：卒業論文のデザイン発表会(3)	同上
	12	12週目：卒業論文のデザイン発表会(4)	同上
	13	13週目：卒業論文のデザイン発表会(5)	同上
	14	14週目：研究デザインの具体化作業（実験・調査・面接等の準備）	研究材料の準備・作成、実施準備
	15	15週目：予備研究の準備・実施	同上、データ収集・整理など
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	①ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに（事前に）教員およびゼミ長に連絡を入れること。 ③卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで、就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫が求められます。 ④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。
--------	---

評価	毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。これらを総動員して卒論に展開させましょう。 ・次のステージとして、心理学専門演習ⅡBを履修し、卒業研究を仕上げてください。
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別 前期	曜日・時限 月3	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。	メッセージ 4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができます。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	卒論構想発表会の振り返り
	3	卒業論文の研究デザインと研究計画についての検討
	4	卒業論文の研究デザインと研究計画の策定
	5	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）
	6	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）
	7	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）
	8	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）
	9	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）
	10	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）
	11	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）
	12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）
	13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）
	14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）
	15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）
16	予備日	
		時間外学習の内容 年間計画・振り返り報告の準備 研究デザイン等検討・文献レビュー 研究デザイン等修正・文献レビュー 研究デザイン等修正・文献レビュー 研究デザイン等修正・文献レビュー 研究デザイン等修正・文献レビュー 研究デザイン等完成・文献レビュー 研究計画の具体化のための諸活動 研究計画の具体化のための諸活動 研究計画の具体化のための諸活動 研究計画の具体化のための諸活動 卒論研究のための諸研究活動 卒論研究のための諸研究活動 卒論研究のための諸研究活動 卒論研究のための諸研究活動

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい ①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書 ⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。
--------	---

評価	到達目標①と②：構想発表、デザイン発表、研究計画書などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学の各分野、共通科目を含めた諸学問分野の知識や情報が重要になる。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることとなります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～6月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討） 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	<p>ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できることを示す。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 構想が決定した後は、早めにデータ収集に取り組めるように準備を進めていくこと。
	到達目標 夏休み中にデータ収集を行えるようにする。	

学びの準備	到達目標 夏休み中にデータ収集を行えるようにする。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論構想発表①	ゼミ発表準備
	2	〃 ②	〃
	3	〃 ③	〃
	4	〃 ④	〃
	5	卒論進捗状況（方法）発表 ①	〃
	6	〃 ②	〃
	7	〃 ③	〃
	8	〃 ④	〃
	9	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表①	〃
	10	〃 ②	〃
	11	〃 ③	〃
	12	〃 ④	〃
	13	卒論進捗状況（データ収集）発表①	〃
	14	〃 ②	〃
	15	〃 ③	〃
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版
-------	--

学びの実践	学びの手立て 卒論の進め方、データ分析の仕方などわからない場合は、大学院生、担当教員に積極的に聞くこと。
-------	---

学びの実践	評価 出席状況と論文作成過程での取り組み方から判断する。
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。		
到達目標	卒業論文のテーマを確定する。 テーマにふさわしい心理学的研究方法を明確にする。 方法が定まれば、心理学的な実験・調査・観察・面接等でのデータ収集準備を行う。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。			
	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社 白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房			
学びの手立て				
自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。				
評価				
提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。				
学びの継続	次のステージ・関連科目 前年度の「心理学専門演習ⅠA」・「心理学専門演習ⅠB」に引き続いて履修する科目である。			

※ポリシーとの関連性

本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	4年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で作成した卒業論文の研究デザインに沿って、データを収集し、得られたデータの分析と整理を行い、卒業論文を執筆する。その後、卒業論文発表会に向けて、ポスターや論文抄録を作成し、最終発表を行う。受講学生が主体性を持って、自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。	メッセージ 自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。
	到達目標 卒業論文デザインに沿って、実験・調査・観察・面接等の手法で、データを収集する。収集したデータを、心理学的な方法で分析・考察し、論文を作成する。作成した論文をわかりやすくまとめ、最終発表を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期に作成した研究デザインに沿って収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行い、12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 個別に助言・提示する。 松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社 白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房
	学びの手立て 自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けてほしい。 他の学生とのディスカッションに積極的に参加してほしい。
	評価 提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 前期開講の「心理学専門演習ⅡA」に引き続き履修する科目である。
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	4年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの方や考え方、表現の仕方を身につけることがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。	<ul style="list-style-type: none"> 卒論作成のためのゼミですから、出席・参加状況を重視します。 進捗状況によっては、個別面談を行うことがあります。 教員やゼミ仲間に相談したり、協力を求めたりしながら、お互いに支え合って卒業研究を進めましょう。 自分勝手な判断で動くことのないようにしてください。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究として結実させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	依頼状の作成、研究の実施準備
	2	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	研究の実施準備
	3	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	4	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	5	研究計画の実施（研究協力の依頼、データ収集）	同上
	6	データの入力・整理・分析・図表などの作成	データ整理・資料作成など
	7	データの入力・整理・分析・図表などの作成	同上
	8	卒業論文中間報告会(1)	発表資料作成
	9	卒業論文中間報告会(2)	同上
	10	卒業論文中間報告会(3)	同上
	11	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	データ分析・卒論執筆
	12	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	同上
	13	データ分析結果の読み取りと考察、卒業論文本体の執筆	同上
	14	ポスター発表会の準備および発表抄録原稿の作成	プレゼン資料・抄録原稿の作成
15	卒業論文発表会に向けての予行演習	プレゼン資料作成	
16	予備日		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> ゼミ活動は、正課内・外で学生各自が自発的・能動的に動くことによって成り立つことを意識しましょう。 発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに（事前に）教員およびゼミ長に連絡を入れること。 卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで、就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫が求められます。 研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。
--------	---

評価	毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。これらを総動員して卒業論文作成に活かしましょう。

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。	4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができます。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度を身につけることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
	3	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
	4	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	5	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	6	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	7	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	8	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	9	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	10	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	11	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	12	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	13	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
	14	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆／卒業論文提出）	卒業論文発表会のための準備
15	卒論研究の実施（卒業論文発表会の準備・予演／卒業論文の加筆・修正）	卒業論文発表会のための準備	
16	卒業論文発表会（2月）／卒業論文抄録集原稿提出	卒業論文最終提出のための準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい</p> <p>①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 東京図書</p> <p>⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。 ・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。

学びの実践	評価
	<p>到達目標①と②：卒業論文発表、卒業論文（ゼミ論）、抄録などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）</p> <p>到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。研究結果の解析、考察には、自己の問題意識と心理学の各分野、諸学問分野からの多面的な検討が重要になる関連領域の知識を振り返ろう。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることとなります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～6月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討） 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は個人で進めなければならないが、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、調査などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を示す。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 12月初旬にはデータ分析を終わり、後半には考察に取り組み始めるように進めること。
	到達目標 卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。	

学びの準備	到達目標 卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論進捗状況（データ分析）発表①	
	2	〃 発表②	
	3	〃 発表③	
	4	〃 発表④	
	5	〃 発表⑤	
	6	〃 発表⑥	
	7	〃 発表⑦	
	8	〃 発表⑧	
	9	卒論進捗状況（考察）発表①	
	10	〃 発表②	
	11	〃 発表③	
	12	〃 発表⑤	
	13	〃 発表⑥	卒論提出
	14	卒論発表会 予演 ①	
	15	〃 予演 ②	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 論文作成過程での取り組み、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学と職業	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	各ゼミ担当教員か、または、専攻主任の泊 (stomari@okiu.ac.jp) に問い合わせること	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は心理学の学びが社会とどのように繋がるかについて、心理専門職を中心に学ぶことを目的としている。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、現場で活躍している心理専門職の先輩方の講話を聴く。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や今後の大学生活の目標設定、学習のモチベーションアップにつなげてほしい。</p>	<p>本講義を受講するにあたり、大学の授業の中で学んでいることが、社会の現場の中でどのように活用されているか、また、どのような学びを積み重ねていくことが心理専門職につながるのか等を、特に意識しながら学んでほしい。</p>
到達目標	<p>①見学先の施設・機関について、適確に理解し、人に分かりやすく説明することが出来る。 ②見学先の施設・機関に専門職として仕事に就くための基本的な道筋を理解することが出来る。 ③見学先の施設・機関に入所・通所している方々について、偏りのない適正な認識を持つことが出来る。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1回：オリエンテーション 2回：矯正施設の見学① (少年院) 3回：少年院の心理職の講話 4回：矯正施設の見学② (少年鑑別所) 5回：少年鑑別所の心理職の講話 6回：福祉施設の見学 (児童自立支援施設) 7回：児童自立支援施設の心理職の講話 8回：精神科病院の見学① 9回：精神科病院の見学② 10回：精神科病院の心理職の講話 11回：教育施設の見学 12回：適応指導教室の心理職の講話 13回：病院で働く臨床心理士の講話① 14回：病院で働く臨床心理士の講話② 15回：教育機関で働く臨床心理士の講話③ 16回：レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>現場を見学させていただくにあたり、学生としてふさわしいマナーや態度が非常に重視されます。遅刻や欠席、受講態度など、諸注意事項について、オリエンテーションをしっかりと受けていただきます。学びを深めるために、見学先において気づいたこと、普段から気になっていること等、直接現場でしか聴けないことや確認できないことを積極的に質問してください。</p>
	<p>評価</p> <p>受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートの提出が必須です。これらを総合的に判断し、評価します。全てのプログラムに参加することを前提として評価しますので、体調やスケジュール管理に留意してください。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本専攻の提供科目の中で、特に臨床心理学系の専門科目や福祉専攻の提供科目など関連科目を履修すると、学習の継続や発展につながる。関連する現場のインターンシップに参加してみるのも推奨される。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講A	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-税田 慶昭	2年	平山篤史 (atsushi@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、乳幼児期の発達について、研究が進み様々な知見が述べられています。本講義では、乳幼児期の発達心理学を中心に最新のトピックも交えながら講義を展開します。また、発達障害の早期発見とその支援についても触れていきます。将来、発達支援の専門職を希望する人だけでなく、家庭での子育て、教育においても役立つ発達心理学について学びます。	赤ちゃん、子ども、子育てに興味がある人はぜひどうぞ。赤ちゃんの発達を追いながら、生物学的基盤、ロボット、障害といった視点からも学びたいと思います。
到達目標	乳幼児期の心身の発達についての特徴が理解できる。乳幼児期の発達支援、子育て、教育の基礎となる知識の習得ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：発達心理学とは何か	
	2	赤ちゃんの感じる世界 【知覚、認知】1	
	3	赤ちゃんの感じる世界 【知覚、認知】2	
	4	赤ちゃんの「かわいい」 【幼児図式】	
	5	ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】	
	6	親子のつながり 【愛着】	
	7	愛着の世代間伝達	
	8	動物にみる自己意識【自己像認知】	
	9	「自己」の発見【自己意識、自己概念】	
	10	「他者」への気づき【生物らしさ】【バイオリジカルモーション】	
	11	学習の過程【学習理論、論理的思考】	
	12	一緒に見る 【共同注意】	
	13	「他者」の心を読む【共感】【心の理論】	
14	ロボットに心は宿るか：他者に心を見出すメカニズム		
15	心を読むことの難しさ【発達障害】		
16	発達障害児のスクリーニングと支援		
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。		
学びの手立て	「履修の心構え」 遅刻・欠席は原則認めない。質問・意見やディスカッションは積極的に行うこと。 「学びを深めるために」 配布資料をもとに予習・復習を行うこと		
評価	平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」「発達臨床心理学」「障害児者心理学」
-------	---

※ポリシーとの関連性 個別だけでなく集団への働き方を学ぶことは、心理学を学ぶ学生にとっては重要だと思われる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講C	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里 健	2年	email:kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、子どもたちの社会性が欠如してきたと言われ、教育現場でも、不登校、いじめ、非行、引きこもりなどの問題が多発し、大きな社会問題となっている。 本授業では、受講者間での活動を通じて、自然な人間関係を構築できるような交流を体験させ、集団でのポジティブ体験をねらう。毎回異なる活動を提示し参加型の授業を目指す。	参加型授業で、毎回、グループ活動を行う。参加しなければ実際にどういう内容なのか学べない。遅刻したりすると、活動の途中からの参加となり、活動自体がどういうものかわからなくなるので、欠席や遅刻をしないようにしたい。

到達目標	本授業は、社会的スキル訓練（SST）を用いた集団カウンセリングであるが、将来、個別面接だけでなく、集団への働き方も学ぶことによって、いろいろな現場でいろいろな対象に対する対応が容易になると思われる。本授業では、集団カウンセリングの一つである集団に対する働き方を学び。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、非言語コミュニケーション：表情伝言ゲーム	第1週～第4週
	2	言語コミュニケーション：他己紹介、共通点探し	コミュニケーションを考える
	3	言語コミュニケーション：絵の内容を伝える	コミュニケーションを考える
	4	言語コミュニケーション：ピンゴゲーム	コミュニケーションを考える
	5	問題解決スキル：問題解決のステップと問題解決のシナリオ	どのように問題解決を行うか考える
	6	怒りのマネジメント：怒りの表出・身体と行動、怒りの対処法	怒りの収め方を考える
	7	自尊感情：いいところ探し	自己評価をどう高めるか考えよう
	8	自尊感情：この人は誰でしょう。	自己評価をどう高めるか考えよう
	9	自尊感情：リフレーミング、つぶやき	自己の長所に目を向けてみよう
	10	自尊感情：心からの贈り物	他者の良さを探してみよう
	11	ストレス・マネジメント：ストレッサ	何にストレスを感じるか考えよう
	12	アサーション・トレーニング：ロールプレイ	自己主張の仕方を考える
	13	自他の価値観の違いに気づく：若い女性と水夫	他者との価値観の違いに気づこう
	14	自己の価値を高める：春夏秋冬	他者との価値観の違いに気づこう
15	自己の価値を高める：私の大切なもの	他者との価値観の違いに気づこう	
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など	テキスト： やってみよう ソーシャルスキルトレーニング33 学級経営に生かすSST』 新里健、島袋有子 2008 株式会社 グリーンキャット
----------------	--

学びの手立て	教育現場での児童・生徒だけでなく、様々な集団へどのように働きかけたら良いか、日頃から考えておくことが良いでしょう。様々な文献や参考書に目を通し、どういうワークが有効か、どういうワークが楽しいのか考えておく良いでしょう。外国の文献には特に独創的なワークが紹介されているので、ネット等でも調べてみていいでしょう。
--------	--

評価	期末試験80%、平常点20%
----	----------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 本授業だけでなく、他の集団カウンセリングを学ぶ、幅広いアプローチの仕方を身につけた方が良いでしょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ傾聴力、共感性、対人援助力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講D	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田まで	

学びの準備	ねらい 健康、医療、その他の領域における臨床心理士の活動を通して、各領域の対象者の特徴、各種のアセスメント法、介入の実際を学ぶ。これらにより多領域における臨床心理学の実際を理解する。	メッセージ
	到達目標 各領域における臨床心理学の実践の違いを理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布資料と関連文献を読む
	2	精神科 ①	〃
	3	精神科 ②	〃
	4	精神科 ③ リワーク	〃
	5	総合病院 ①	〃
	6	総合病院 ②	〃
	7	総合病院 ③	〃
	8	産婦人科	〃
9	リハビリテーション	〃	
10	教育 ①	〃	
11	教育 ② スクールカウンセラー	〃	
12	発達 ①	〃	
13	発達 ②	〃	
14	福祉 児童相談所	〃	
15	司法	〃	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 「よく分かる臨床心理学」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房 「心理臨床における他職種との連携と協働」 本城秀次 岩崎学術出版		
	学びの手立て		
	評価 毎回の出席状況（10%）、コメントシート（10%）、最終レポート（80%）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床面接法Ⅰ・Ⅱ、心理検査法Ⅰ・Ⅱ、学校臨床心理学、障害児・者心理学、犯罪心理学
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学理論と心理的支援	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	2年	r.inada@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ニーズが多様化する現代社会において、心理学的援助技術を取り入れた対人援助を求める機運が高まっている。心理療法やカウンセリング技法をふまえた心理学の理論や基礎を理解し、実際の心理的支援について学ぶことを目的とする。	メッセージ 技法の演習やグループディスカッションなど、体験的学習も取り入れています。感想や意見の発表もありますので積極的な参加を期待します。
	到達目標 この科目を履修することによって、人の心のはたらきを理解し、成長や回復を期待しつつ働きかけることの意義について理解ができる。また、学んだことを活かして自己を見つめ、多様なニーズに応じた対人援助方法を考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学とは	履修登録を確実に済ませる
	2	欲求と動機づけ	ワーク（動機づけの体験）
	3	さまざまな学習理論	ワーク（各理論と提唱者の整理）
	4	記憶	ワーク（記憶と忘却の体験）
	5	知能と検査	ワーク（各理論と提唱者の整理）
	6	発達概念	ワーク（各発達段階について整理）
	7	適応とストレス	ワーク（ストレス体験とその対処）
	8	発達障がい	ワーク（各特徴について整理）
	9	心理療法 ～精神分析～	ワーク（心理療法の歴史）
	10	心理療法 ～行動療法・認知行動療法～	ワーク（思考記録体験）
	11	心理療法 ～来談者中心療法～	ワーク（傾聴の体験）
	12	心理療法 ～さまざまな心理療法～	ワーク（各療法の特徴を整理）
	13	面接・見立て	ワーク（支援方法について考える）
	14	心理検査	ワーク（各検査の目的と支援方法）
	15	事例検討	ワーク（事例検討）
	16	期末考査	最終レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：特に指定せず、その都度印刷物など資料を提供する。 参考書：必要に応じて講義内で紹介する。 ：新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学 第2版 社会福祉士養成講座編集委員会編集 2011		
	学びの手立て ①履修の心構え 意見・感想の発表や、グループディスカッションでは積極的な参加を望む。 講義内容に無関係なスマホ利用、資料閲覧、私語は慎むこと。 ②学びを深めるために 講義内での体験を振り返り、自身が感じたことや疑問に思ったことなどをワークに記入することで、自己をみつめる。		
	評価 各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。ただし1/3以上の欠席は不可とする。 ①中間レポート（30%）②最終レポート（30%）③授業への参加度・発表（40%） 評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学理論が実際に応用されている対人援助場面に関心を持ち、ニーズに応じた対人援助方法を考える機会を積極的に持つ。
-------	---

※ポリシーとの関連性

人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理検査法Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理アセスメントの専門技法である心理検査について概説を行い、代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見の書き方について具体的に学ぶ。	実習が中心の科目である。皆出席であることが前提。毎回の課題レポートに加え、最終レポートまで複数の課題レポートが課されるので、全て提出できる意欲のある学生のみ受講すること。
到達目標	この科目を履修することによって、心理検査の概要及び代表的な心理検査について十分に理解ができ、臨床現場で心理検査を実施し、所見を作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	パーソナリティ理解のための心理検査	パーソナリティに関する調べ学習
	2	パーソナリティの構造とテストバッテリー	パーソナリティに関する調べ学習
	3	心理検査と倫理問題	課題ワークシート
	4	心理検査①-1 (質問紙法 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	5	心理検査①-2 (質問紙法 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	6	心理検査①-3 (質問紙法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	7	心理検査②-1 (作業検査法 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	8	心理検査②-2 (作業検査法 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	9	心理検査②-3 (作業検査法 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	10	心理検査③-1 (投映法その1 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
	11	心理検査③-2 (投映法その1 理論的背景)	課題ワークシート (分析)
	12	心理検査③-3 (投映法その1 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)
	13	心理検査④-1 (投映法その2 実施法と実習)	課題ワークシート (採点)
14	心理検査④-2 (投映法その2 理論的背景)	課題ワークシート (分析)	
15	心理検査④-3 (投映法その2 所見のまとめ方)	課題ワークシート (所見のまとめ)	
16	最終レポート作成・提出	最終レポート作成・提出	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて資料を配布する。 上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック 第2版」 西村出版 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社		
学びの手立て	①履修の心構え 皆出席が前提である。授業時間内に実習を行うので、遅刻厳禁。高度に専門的な科目なので、「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、あるいは受講中であること。卒業後に心理職を目指す学生は必ず受講すること。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。		
評価	評価方法 出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。 割合 平常点(出席状況等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、または受講中であることが望ましい。 次のステージ 「臨床面接法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」を引き続き受講するとよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシー1. および、3. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理検査法Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	3年	研究室：9号館618 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する。	実習を伴う講義です。心理検査を実際に子どもを対象として施行できるようにするために、事前に心構え、知識、技術をみっちり学びます。そのためどうしても評価の厳しい講義となります。しかし、ハードルが高いだけに、得るものも多い講義であると思います。臨床心理学系の大学院進学、専門職を希望する学生はぜひ履修してほしい講義です。
到達目標	①知能検査実施における基礎知識、倫理的心構えについて理解する。 ②知能検査を実施できる。 ③知能検査のデータを読み取り、所見が書ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション／心理アセスメントとは	配布資料復習
	2	心理アセスメントと心理検査	配布資料復習
	3	心理検査と倫理問題①	リフレクションシートの作成
	4	心理検査と倫理問題②	リフレクションシートの作成
	5	知能とは	配布資料復習
	6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴・実習前試験	試験の振り返り・復習
	7	検査器具の取り扱いと実施	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	8	ウェクスラー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	9	田中ビネー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	10	知能検査の実際と結果のフィードバック	リフレクションシートの作成
	11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
	12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①	配布資料復習
	13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②	配布資料復習
	14	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方③	配布資料復習
15	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①	レポートまとめ	
16	まとめ 人を理解すること	レポートまとめ	

実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配布する。 日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 / WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社 軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版
----	--

学びの手立て	1) 実習のある授業です。原則遅刻・欠席は認めません。 2) 実習の協力者を自分で探し、依頼し、協力を得ることが必要です。 3) 心理検査を行うということで、協力者やその保護者に何らかの負担を与えることがあります。そのことをよく念頭に置き、その状況に即した配慮をすることが求められます。 4) 検査実施については、入念な準備が必要です。予習・復習は不可欠です。 5) 実習前のミニレポートの提出と試験に合格しないと、実習に進むことができません。 6) すべての実習を体験し、レポートを提出（2つ）しなければ単位を認めることはできません。 7) 出席、レポートの条件が満たされてもレポートの内容が基準を満たさない場合単位を認めません。
--------	--

評価	検査所見レポート2つ…70% 実習前の試験（1回）、課題、振り返りのレポート…30%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床面接法Ⅰ」「障害児・者心理学」「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」「心理学特講D」などの専門科目、課外の学習支援、発達障害児支援のボランティア活動に関連する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学基礎	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、心理統計学、心理学研究法という心理学研究において重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習A・Bや心理学専門演習I AB、心理学専門演習II ABで取り組むゼミ研究、卒業研究に繋がる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題を通して、心理学専門科目の学習に必要な知識とデータ解析法の基礎を身につけることが目標です。</p>	<p>統計学はズバリ、「習うより、慣れろ！」です。講師の話をお聴きだけでなく、配付資料を読む、参考書籍を調べる、問題を解く等、予習や復習が非常に大切です。授業の中だけで理解しようとするのではなく、時間外学習をしっかりと行ってください。</p>
到達目標	<p>①統計学が、心理学を学ぶ上でなぜ必要なのか理解できるようになる。 ②1つ1つのデータを、数値や図表に表して整理・集約したり、その特徴を客観的に記述したりできる（記述統計）。 ③2変数間の関連性について、その特徴を図表化して表したり、少数の数値に集約して表現（数値要約）できる。 ④統計的検定の基本的な原理について理解できる（推測統計）。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：講義の進め方・諸注意等の説明（※出席必須）	次回講義内容の予習・資料の精読
	2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～	次回の予習・資料精読・演習課題
	3	心理測定の信頼性・妥当性とΣ記号の意味	同上
	4	Σ記号を用いた計算&度数分布	同上
	5	度数分布とヒストグラム	同上
	6	量的データの数値要約：代表値とは何か？	同上
	7	量的データの数値要約：散布度とは何か？	同上
	8	量的データの数値要約：正規分布・偏差値とは何か？	同上
	9	量的データの数値要約：標準正規分布と標準得点	同上
	10	2変数間の関係の分析1：相関（散布）図の作成	同上
	11	2変数間の関係の分析2：相関係数による数値要約	同上
	12	2変数間の関係の分析3：質的変数のクロス集計表の作成	同上
	13	2変数間の関係の分析4：連関係数による数値要約	同上
	14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理	同上
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内	全学習内容の復習・模擬試験演習	
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する可能性もあります。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。講義の中で、適宜紹介していきます。

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 本講義では毎回、出欠状況を確認します。統計学はコツコツと地道に積み重ねることが大切であるため、遅刻や欠席をすると理解が困難になるからです。このルールが守れそうにない学生は履修をご遠慮ください。 演習課題や予習資料等、毎回資料が配布されますので、きちんとファイリングしてください。 講義内容の理解促進につながる予習や復習を、毎回欠かさずに行ってください。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価は、平常点50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。 平常点は、出欠状況、授業への参加態度、授業内課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。 学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を学ぶと、研究法とデータ分析法の関連について理解が深まる。次のステージとして、「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」を履修すると、卒業論文に活かせるデータ解析法が学べる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学 I	前期	土 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学において用いられる統計的分析法について、その基本的理解ができ、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学 I においては、記述統計と推計学の中のt検定と分散分析法について理解と修得を目標とする。</p> <p>到達目標 1. 心理統計学の基礎を理解している。2. 解説した統計法を理解し、その解析結果の読み取りができるようにする。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>本科目履修前に、心理統計学基礎を履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも、実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして、実際に使用ながらその理解を深めていくことを目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション, 統計学の理解度の確認</td><td>次回講義内容の予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布)</td><td>講義内容の復習と予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>記述統計 (散布図, 相関係数, 回帰分析)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>記述統計 (クロス集計表, 連関係数)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>統計的検定の基本的考え (仮説検定)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>7</td><td>2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>8</td><td>2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>9</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>10</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>13</td><td>比の差の検定 (χ^2検定) (1)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>比の差の検定 (χ^2検定) (2)</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>全講義内容のまとめと復習</td><td>全学習内容の復習, 学期末試験準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>学期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション, 統計学の理解度の確認	次回講義内容の予習	2	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布)	講義内容の復習と予習	3	記述統計 (散布図, 相関係数, 回帰分析)	同上	4	記述統計 (クロス集計表, 連関係数)	同上	5	統計的検定の基本的考え (仮説検定)	同上	6	統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)	同上	7	2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)	同上	8	2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)	同上	9	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)	同上	10	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)	同上	11	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)	同上	12	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)	同上	13	比の差の検定 (χ^2 検定) (1)	同上	14	比の差の検定 (χ^2 検定) (2)	同上	15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備	16	学期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション, 統計学の理解度の確認	次回講義内容の予習																																																			
2	記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度, 正規分布)	講義内容の復習と予習																																																			
3	記述統計 (散布図, 相関係数, 回帰分析)	同上																																																			
4	記述統計 (クロス集計表, 連関係数)	同上																																																			
5	統計的検定の基本的考え (仮説検定)	同上																																																			
6	統計的検定の基本的考え (効果量, 信頼区間, 検定力)	同上																																																			
7	2つの平均値の差の検定 (t検定) (1)	同上																																																			
8	2つの平均値の差の検定 (t検定) (2)	同上																																																			
9	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (1)	同上																																																			
10	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (2)	同上																																																			
11	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (3)	同上																																																			
12	3つ以上の平均値の差の検定 (分散分析) (4)	同上																																																			
13	比の差の検定 (χ^2 検定) (1)	同上																																																			
14	比の差の検定 (χ^2 検定) (2)	同上																																																			
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習, 学期末試験準備																																																			
16	学期末試験																																																				
	テキスト・参考文献・資料など	毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。																																																			
	学びの手立て	講義に欠席した場合には、適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し、理解を深めていって下さい。																																																			
	評価	毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること (6割以上) が単位認定の基準になります。評価は、平常点30%, 期末試験70%として行います。																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理統計学 II も履修することで、代表的心理学統計法を一通り学ぶことができます。
-------	--

※ポリシーとの関連性 論理的に説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ科目
かつ客観的な人間理解の技術を学ぶ科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学 I	前期	土 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 光男	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学において用いられる統計的分析法について、その基本的理解ができ、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学 I においては、記述統計と推計学の中のt検定と分散分析法について理解と修得を目標とする。</p> <p>到達目標 1. 心理統計学の基礎を理解している。2. 解説した統計法を理解し、その解析結果の読み取りができるようにする。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>本科目履修前に、心理統計学基礎を履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも、実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして、実際に使用ながらその理解を深めていくことを目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、統計学の理解度の確認	次回講義内容の予習
	2	記述統計（度数分布、代表値、散布度、正規分布）	講義内容の復習と予習
	3	記述統計（散布図、相関係数、回帰分析）	同上
	4	記述統計（クロス集計表、連関係数）	同上
	5	統計的検定の基本的考え（仮説検定）	同上
	6	統計的検定の基本的考え（効果量、信頼区間、検定力）	同上
	7	2つの平均値の差の検定（t検定）（1）	同上
8	2つの平均値の差の検定（t検定）（2）	同上	
9	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（1）	同上	
10	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（2）	同上	
11	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（3）	同上	
12	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（4）	同上	
13	比の差の検定（ χ^2 検定）（1）	同上	
14	比の差の検定（ χ^2 検定）（2）	同上	
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習、学期末試験準備	
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。		
	学びの手立て		
	講義に欠席した場合には、適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し、理解を深めていって下さい。		
	評価		
	毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は、平常点30%、期末試験70%として行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	心理統計学 II も履修することで、代表的心理学統計法を一通り学ぶことができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 光男	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学において用いられる統計的分析法について、その基本的理解ができ、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては、共分散分析、ノンパラメトリック法、多変量解析等について理解と修得を目標とする。</p> <p>到達目標 1. 心理統計学の基礎を理解している。2. 解説した統計法を理解し、その解析結果の読み取りができるようにする。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>本科目履修前に、心理統計学基礎と心理統計法Ⅱを履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも、実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして、実際に使用しながらその理解を深めていくことを目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション、統計学の理解度の確認	次回講義内容の予習
2	共分散分析		講義内容の復習と予習
3	ノンパラメトリック法		同上
4	多変量解析の概要		同上
5	重回帰分析 (1)		同上
6	重回帰分析 (2)		同上
7	重回帰分析 (3)		同上
8	因子分析 (1)		同上
9	因子分析 (2)		同上
10	因子分析 (3)		同上
11	因子分析 (4)		同上
12	共分散構造分析		同上
13	その他の統計的分析法 (1)		同上
14	その他の統計的分析法 (2)		同上
15	全講義内容のまとめと復習		全学習内容の復習、学期末試験準備
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。	
	学びの手立て	講義に欠席した場合には、適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し、理解を深めていって下さい。	
	評価	毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は、平常点30%、期末試験70%として行います。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学Ⅱ	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	遠藤 光男	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、心理学において用いられる統計的分析法について、その基本的理解ができ、心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること、そして、主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては、共分散分析、ノンパラメトリック法、多変量解析等について理解と修得を目標とする。</p> <p>到達目標 1. 心理統計学の基礎を理解している。2. 解説した統計法を理解し、その解析結果の読み取りができるようにする。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し、実際に解析法を行い、結果の解釈や考察ができる。</p>	<p>本科目履修前に、心理統計学基礎と心理統計法Ⅱを履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも、実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして、実際に使用ながらその理解を深めていくことを目指します。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション、統計学の理解度の確認	次回講義内容の予習
2	共分散分析		講義内容の復習と予習
3	ノンパラメトリック法		同上
4	多変量解析の概要		同上
5	重回帰分析 (1)		同上
6	重回帰分析 (2)		同上
7	重回帰分析 (3)		同上
8	因子分析 (1)		同上
9	因子分析 (2)		同上
10	因子分析 (3)		同上
11	因子分析 (4)		同上
12	共分散構造分析		同上
13	その他の統計的分析法 (1)		同上
14	その他の統計的分析法 (2)		同上
15	全講義内容のまとめと復習		全学習内容の復習、学期末試験準備
16	学期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。	
	学びの手立て	講義に欠席した場合には、適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し、理解を深めていって下さい。	
	評価	毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は、平常点30%、期末試験70%として行います。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジェンダー論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田 佳世	2年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈女である/男である〉ことは、どのような社会的意味をもつのか。社会は〈性別〉によってどう分割され、〈女性/男性〉はどのような権力関係と社会状況を生きているのか。〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、結婚・家族、人口・身体、移動・グローバル化、国家・人権など、ジェンダーの視点から社会の仕組みと現代的課題をクリティカルに考察します。</p>	<p>女だから/男だから——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。流行の音楽やドラマ、学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護など身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。 ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。 ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。 ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①働く女性とジェンダー格差、性別役割分業	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	人口・家族とジェンダー①近代家族と恋愛・結婚	授業時に指示する
	8	人口・家族とジェンダー②少子高齢化する社会と多様化する家族	授業時に指示する
	9	人口・家族とジェンダー③世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する
	10	国家とジェンダー——国民国家・人権・政治	授業時に指示する
	11	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
	12	移動・グローバル化とジェンダー②ケアワークとポスト新国際分業	授業時に指示する
	13	移動・グローバル化とジェンダー③生殖・家族のグローバル化	授業時に指示する
	14	フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する
15	全体のまとめ——ジェンダー平等な社会の構想	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。全体を通した参考文献は以下のとおりです。 ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。 ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。 ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>
--------	---

評価	<p>出席（平常点/コメントシートの内容）と学期末テスト（あるいは学期末レポート）の結果にもとづいて総合的に評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連科目）社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目では子ども家庭福祉の基礎を学ぶことにより、支援者として子どもに現れてくる諸問題に対し効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	期別	曜日・時限	単位
	担当者	比嘉 昌哉	前期	水 3	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の子どもが置かれている社会環境はもちろんのこと、子ども家庭福祉の法体系、制度・サービス、歴史、子どもが抱える諸問題及び支援活動の実際について学ぶ。その中で、社会全体が子どものウェルビーイングに焦点を当て、子どもが尊重され主体的な存在として位置づけられるよう努力しなければならないことを理解する。	メッセージ	常日頃から、社会で起こる子どもに現れてくるの諸問題に関心をもってほしい。また、子どもやその保護者のもつ「真」のニーズは何かについて考えること。
	到達目標	子どもに現れてくる諸問題を多角的に捉えることができ、子どもや保護者等への支援方法を理解する。また、福祉機関をはじめとする関係機関等との連携のあり方も把握する。		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	第1章 子ども家庭福祉とは何か① 子どもとは、子どもを取り巻く環境とライフステージ	第1章予習：テキストの読み込み
	3	子ども家庭福祉とは何か② 子ども家庭福祉の法体系、サービス体系	分からない語句を調べる等。
	4	子ども家庭福祉とは何か③ 子どもを家庭を支える方法	
	5	第2章 子ども家庭福祉を支える考え方① 権利行使の主体である子ども、子どもの自立支援	第2章予習：テキストの読み込み
	6	子ども家庭福祉を支える考え方② エンパワーメントとアドボカシー	分からない語句を調べる等。
	7	子ども家庭福祉を支える考え方③ 子どもの安全とニーズ	
	8	第3章 子ども家庭福祉のあゆみ① 子ども家庭福祉の成立	第3章(4-5節)予習：読み込み
	9	子ども家庭福祉のあゆみ② 少子化対策から子育て支援へ	分からない語句を調べる等。
	10	第4章 子ども家庭福祉のしくみ1① 行財政のしくみ、児童相談所と市町村	第4章予習：テキストの読み込み
	11	子ども家庭福祉のしくみ1② かかわる機関と人	分からない語句を調べる等。
	12	第5章 子ども家庭福祉のしくみ2① 社会的養護の体系、施設体系	第5章(1-3節)予習：読み込み
	13	子ども家庭福祉のしくみ2② 里親制度(家庭養護)	分からない語句を調べる等。
14	第6章 子ども家庭福祉の実際1① 子ども虐待	第6章(1-2節)予習：読み込み	
15	子ども家庭福祉の実際1② 子どもの貧困	分からない語句を調べる等。	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	木村容子・有村大士編著(2016)：新・基礎からの社会福祉7『子ども家庭福祉』、ミネルヴァ書房。 ミネルヴァ書房編集部(最新年)：『社会福祉小六法 最新年版』、ミネルヴァ書房。		
	学びの手立て		
	授業に対して、積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業の最後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、毎日「新聞」に目を通しスクラップして下さい。		
	評価		
	授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。また、開講時間数の3分の2以上出席しなければ、期末試験が受けられないので注意すること(公欠は配慮する)。なお、スクラップの提出は任意だが、加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「スクールソーシャルワーク論」やその他社会福祉士関連科目とのつながりを意識すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性

多様性の中の調和が求められる社会において、「個性」の相互理解は重要な要素である。本講義では「個性」を心理学的に考える。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人格心理学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-榎木 宏之	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 個別性の重視という独自の視点を有する人格心理学において、学問の成り立ちと現在進行形で発展している部分も理解する。	メッセージ 「個性とは一体何か？」ということを経験的な視点で多面的に見てみませんか？
	到達目標 本講義では、「その人らしさ」を特徴づけるパーソナリティ（人格）に着目し、個人差のあるパーソナリティはどこに由来し、いかに測定されるのかを理解する。また、適応・不適応的なパーソナリティのあり方について心理学の諸理論を通して理解する。さらに、最近のパーソナリティ研究の動向を紹介し、「その人らしさ」を心理学的に探究する視点の獲得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	第1回 オリエンテーション：パーソナリティとは何か
	2	第2回 類型論と特性論（1）
	3	第3回 類型論と特性論（2）
	4	第4回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（1）
	5	第5回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（2）
	6	第6回 パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（3）
	7	第7回 気質・脳とパーソナリティの関係
	8	第8回 パーソナリティの発達（1）
9	第9回 パーソナリティの発達（2）	
10	第10回 パーソナリティのしくみと適応（1）- 精神力動論 -	
11	第11回 パーソナリティのしくみと適応（2）- 学習理論・社会認知理論 -	
12	第12回 パーソナリティと対人関係	
13	第13回 パーソナリティの病理	
14	第14回 文化とパーソナリティ	
15	第15回 パーソナリティの探究- 人格心理学の研究 -	
16	期末試験	
時間外学習の内容		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：指定なし。講義は主に配布資料を用いて行う。 ・【参考文献】 詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）『性格心理学への招待 [改訂版] ～自分を知り他者を理解するために～』サイエンス社。	
	学びの手立て ・履修上の注意事項：遅刻や欠席をしないこと	
	評価 ・テスト、出席状況、受講態度を総合的に判断して評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・毎回の講義で獲得するパーソナリティに関する理解を定着させるためにも、復習は重要である。 ・文学、芸術などにおける人間の営みにも触れることで、感受性を養うことも、心理学に対する理解に深みをもたらすと思われる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目ではスクールソーシャルワークの基礎を学ぶことにより、子どもに現れてくる諸問題に効果的に対応できる能力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	スクールソーシャルワーク論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。</p>	<p>現在の学校現場で何か起こっているのか関心をもちながら、受講してほしい。特に子どもの貧困や児童虐待等が子どもの心身に与える影響について学ぶこと。</p>
到達目標	<p>学校現場で生じる子どもに現れてくる諸問題を把握する。また、子どもやその保護者(家庭)への支援について理解する。その際、教育委員会、児童相談所、福祉事務所等関係機関との連携のあり方も身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄県のSSWr配置事業の現状等	※毎回復習を行うこと。
	2	学校における現代的課題 その1	
	3	学校における現代的課題 その2	
	4	SSWとは？ その1	(DVD視聴①) ➡レポートの提出
	5	SSWとは？ その2	
	6	SSWとは？ その3	
	7	SSWの歴史と動向	
8	学校教育の特徴		
9	教育(学校)が連携する機関とその機能		
10	SSWの基礎理論		
11	SSWの展開過程 その1	(DVD視聴②) ➡レポート提出	
12	SSWの展開過程 その2		
13	SSW実践 その1	(SSWrの講演) ➡レポートの提出	
14	SSW実践 その2		
15	SSWの課題と展望		
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>◎山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。 金澤・奥村・郭・野尻編著(2016)：『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版。 米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』、北大路書房。 門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規。 山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。</p>		
学びの手立て	<p>授業に対して、積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業の最後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、子どもの貧困、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、毎日「新聞」に目を通しスクラップして下さい。</p>		
評価	<p>授業態度、出欠状況、レポート及び学期末試験を総合して評価を行う。スクラップの提出は任意だが加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「スクールソーシャルワーカー認定資格」の指定科目である「スクールソーシャルワーク演習」「スクールソーシャルワーク実習指導」につながる。ただし、同科目に進むには、各種課題に取り組むなどして選抜されなければならない。詳しくは、『履修ガイド』参照のこと。</p> <p>関連科目：上記スクールソーシャルワーク関連科目の他、社会福祉士関連科目。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ストレス・マネジメント	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2年	上田まで	

学びの準備	ねらい 心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスの基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的支援技法について学ぶ。	メッセージ
	到達目標 受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対処し、自らの心身の健康の維持増進に学んだことを活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/ストレスとは何か	
	2	ストレスと身体・ストレス関連疾患	
	3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因	
	4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究	
	5	ストレス援助要因②対人関係とその研究	
	6	ストレスの測定と評価	
	7	対処法/リラクゼーション総論	
	8	理論：自律訓練法	
9	実技：自律訓練法	自律訓練法	
10	理論と実技：呼吸法	呼吸法	
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想	マインドフルネス瞑想	
12	理論：動作法		
13	実技：動作法		
14	理論と実技：認知行動療法①		
15	理論と実技：認知行動療法②		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献： 図解雑学ストレス ナツメ社 中野敬子著 ストレスマネジメント入門 金剛出版 日本ストレス学会編 ストレス科学事典 実務教育出版		
	学びの手立て 講義に出てくるストレス対処技法は実際に自分でやってみること。		
	評価 出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 生理心理学 臨床心理学 行動療法
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神医学	通年	水6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名孝(4) 伊室伸哉(5) 外間直樹(5) 他オムニバス(社会人講師)	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい この講義では、いわゆる「精神医学」と言われる学問分野の基礎編を中心に講義します。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。	メッセージ 精神科医を中心に、それぞれの講師が専門としている分野について講義を行っていきます。さまざまな実践分野に応用可能な精神医学の知識を共有していきます。
	到達目標 ①精神医学総論の習得 ②精神医学各論・疾病論の習得 ③精神医学の知識を実際の事例への応用の習得	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書第1章及び第2章
	2	精神医学論・精神障害の理解 1	教科書第1章及び第2章
	3	精神医学論・精神障害の理解 2	教科書第1章及び第2章
	4	精神疾患の症状と診断	教科書第3章
	5	器質性精神障害 1	教科書第4章第1節
	6	器質性精神障害 2	教科書第4章第1節
	7	精神物質使用による精神及び行動の障害 1	教科書第4章第2節
	8	精神物質使用による精神及び行動の障害 2	教科書第4章第2節
	9	統合失調症 1	教科書第4章第3節
	10	統合失調症 2	教科書第4章第3節
	11	精神疾患の治療	教科書第5章
	12	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権 1	教科書第6章、第7章、第8章
	13	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権 2	教科書第6章、第7章、第8章
	14	気分障害 1	教科書第4章第4節
	15	気分障害 2	教科書第4章第4節
	16	神経症障害、ストレス関連障害等 1	教科書第4章第5節
	17	神経症障害、ストレス関連障害等 2	教科書第4章第5節
	18	成人のパーソナリティおよび行動の障害他	教科書第4章第6節、第7節
	19	児童精神医学 1	教科書第4章第8節～第10節
	20	児童精神医学 2	教科書第4章第8節～第10節
	21	児童精神医学 3	教科書第4章第8節～第10節
	22	EPAと精神医学 1	事前の資料学習
	23	EPAと精神医学 2	事前の資料学習
	24	ジェンダーと精神医学 1	事前の資料学習
	25	ジェンダーと精神医学 2	事前の資料学習
	26	触法精神医学 1	事前の資料学習
	27	触法精神医学 2	事前の資料学習
	28	精神医学と地域実践 1	事前の資料学習
	29	精神医学と地域実践 2	事前の資料学習
30	精神医学と地域実践 3	事前の資料学習	
31	講義のまとめ・試験	講義の復習	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神障害者の生活支援システム	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-兼浜 克弥	2年	ptt960@okiu.ac.jp にて受け付けします。	

学びの準備	ねらい 障害の概念をICFの視点から理解すると同時に、精神障害者の生活実態やニーズを把握し、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための生活支援システムを精神障害当事者と同じ視点に立ちながら、共に生き方を模索するという『精神保健福祉士』としての具体的な活動のポイントをマスターする。	メッセージ 精神障害者の生活支援について必要な基礎知識を学びながら、普段意識することのない「私たちの生活」を感じた時に気付く「人間らしく生きること」を学びます。
	到達目標 精神保健福祉士として、精神障害者をサポートしていく上で必要なスキルを獲得し、精神疾患になっても安心して生活できる社会のあり方を理解する。「もしも自分が精神障害者になったら・・・」という視点を大事に支援活動を行うことで、人間らしく生きるために必要な気づきを獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス 講義の目的について
	2	精神障害者の概念①
	3	精神障害者の概念②
	4	精神障害者の生活の実際①
	5	精神障害者の生活の実際②
	6	精神障害者の生活と人権
	7	精神障害者の地域生活支援システム①
	8	精神障害者の地域生活支援システム②
9	精神障害者の居住支援①	
10	精神障害者の居住支援②	
11	精神障害の雇用・就業支援①	
12	精神障害の雇用・就業支援②	
13	行政における相談援助	
14	精神障害当事者との語り①	
15	精神障害当事者との語り②	
16	まとめ 試験またはレポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など ①『技法以前一べてるの家のつくりかた（シリーズ ケアをひらく）』 向谷地 生良 著 医学書院 ②精神障害者の生活支援システム 日本精神保健福祉養成校協会 編集 ①をテキストとして使用します。講義内で読み合せしながら、精神障害者へのまなざしのコツを学びます。 ②精神保健福祉士として精神障害者を支援するために必要な基礎知識を学びます。（資料配布）	
	学びの手立て 講義参加者が感じたことを発言しやすい席の配置を工夫します。 講義内で把握した専門用語について、インターネット検索などを活用しながら再確認して頂く。 精神障害者の生活支援の現状の課題などを動画を通してさらに理解を深める。 精神障害者の生活支援における課題とは何か？その課題解決のために何が必要なのか？ 講義を通して感じた「？：疑問」を大事にしてもらいたい。	
	評価 出席、課題、講義中の参加態度（50%）、試験またはレポート（50%）によって評価する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義後半もしくは講義終了後に予定される現場実習にて感じる「？：疑問」と講義内容で感じた疑問「？：疑問」はどのように違うのか？その違いはなぜ起こったのか？を検証するために、『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』を履修することを勧めます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健の課題と支援	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっています。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義になります。</p>	<p>これまで社会福祉の対象としてきた高齢者や障害者だけではなく、職場や学校でのストレス・不応等のために精神的不調に陥り、支援実践の対象となってきている人達も少なくありません。身近な精神保健について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解がすすむ ②精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解がすすむ ③地域における精神保健実践について考えることができるようになる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～p15を
	2	精神保健の概要と課題1	教科書p2～p16を
	3	精神保健の概要と課題2	教科書p2～p17を
	4	精神保健の概要と課題3	教科書p2～p18を
	5	精神の健康とその要因1	教科書p16～p51
	6	精神の健康とその要因2	教科書p16～p51
	7	精神の健康とその要因3	教科書p16～p51
	8	精神の健康への関与と支援1	教科書p52～p75
	9	精神の健康への関与と支援2	教科書p52～p75
	10	精神の健康への関与と支援3	教科書p52～p75
	11	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ1	教科書p76～p125
	12	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ2	教科書p76～p125
	13	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ3	教科書p76～p125
	14	精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ4	教科書p76～p125
	15	前期のまとめ・前期試験	前期講義の復習
	16	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ1	教科書p126～p169
	17	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ2	教科書p126～p169
	18	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ3	教科書p126～p169
	19	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ1	教科書p170～205
	20	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ2	教科書p170～205
	21	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ3	教科書p170～205
	22	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割1	教科書p206～255
	23	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割2	教科書p206～255
	24	精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割3	教科書p206～255
	25	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ1	教科書p256～299
	26	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ2	教科書p256～300
	27	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ3	教科書p256～301
	28	地域精神保健に関する諸活動1	教科書p300～325
	29	地域精神保健に関する諸活動2	教科書p300～326
30	諸外国の精神保健活動の現状および対策	教科書p326～341	
31	講義のまとめ・学期末テスト	1年間の講義の復習	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版</p>
	<p>学びの手立て 精神保健の分野には多様性があります。是非自分の興味のある分野を特定できていくといいかと思います。</p>
	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 忍(8回)、真栄平 努(8回)	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい この講義は主に精神保健福祉士を目指している学生に対して、精神保健福祉士としての実践の基本的な視点を身につけてもらうための内容となっています。社会福祉の中でも、精神障害者を中心とした人達との共存のありかたを考えることのできる講義にしていきます。	メッセージ 精神障害者への「支援」ではなく、「共存」の在り方を考えていける講義であればいいと思っています。
	到達目標 ①社会福祉実践の基礎的な視点を持てるようになる。 ②精神障害者が障害・疾患を抱えて生きる現実と生きづらさへの共感的視点を養う。 ③精神医療・保健・福祉・教育をはじめとする、様々な関連機関の実践の現状（連携協力とすれちがい）についてとらえることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～37
	2	精神保健福祉士の役割と意義1	教科書p2～37
	3	精神保健福祉士の役割と意義2	教科書p2～37
	4	社会福祉士の役割と意義1	教科書p38～53
	5	社会福祉士の役割と意義2	教科書p38～53
	6	相談援助の価値と理念1	教科書p78～97
	7	相談援助の価値と理念2	教科書p78～97
	8	相談援助の形成過程1	教科書p98～135
	9	相談援助の形成過程2	教科書p98～135
	10	精神保健福祉分野における相談援助の体系1	教科書p136～165
	11	精神保健福祉分野における相談援助の体系2	教科書p136～165
	12	精神保健福祉分野における相談援助の体系3	教科書p136～165
	13	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲	教科書p166～205
	14	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲	教科書p206～255
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携	教科書p256～289	
16	講義のまとめ・試験	今期の講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て		
	評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉に関する制度とサービス	通年	火6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	熊谷 晋 (17)、比嘉 俊江 (11)、唐木 増久 (3)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 精神疾患のケアや再発の予防だけでなく、精神疾患を患いつつも結婚や子育てなど日常生活をどのように支えるか実践事例などの活用しながら、今後の精神保健福祉のありかたや、支援者として制度・サービスをどのように活かすことが求められているかを考察する。	メッセージ 近年、福祉制度はより良い制度を目指しながら法改正を繰り返している。その制度を扱う支援者の関わり方が支援へ大きく影響を与えることから、講義では制度の理解と、制度があることの意味を検討する。
-------	---	--

到達目標 精神保健福祉制度やサービスの利用が該当するかどうかという判断力だけでなく、支援を提供することで支えられることと、支援を提供することで失うものなど、日常生活や社会的環境との相互関係を理解する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神障害者のおかれている状況について -精神医療の現場から-	
	2	精神障害者の相談援助活動について -歴史・Y問題-	
	3	精神障害者の相談援助活動について	
	4	精神保健福祉法の成立まで -経過・意義・その後-	
	5	精神保健福祉法の成立まで -経過・意義・その後-	
	6	精神保健福祉法について -法律の概要-	
	7	精神保健福祉法について -法律の概要-	
	8	社会保障制度の概要 -医療保険・介護保険-	
	9	経済的支援に関する制度 -生活保護・年金等-	
	10	経済的支援に関する制度 -生活保護・年金等-	
	11	再考 -精神障害者のおかれている状況について-	
	12	地域生活をする精神障害者の現状と課題	
	13	地域生活を支える制度やサービスの目的	
	14	地域生活を支える制度やサービス利用について	
	15	支援者と当事者の関係性について	
	16	支援者と当事者の関係性について	
	17	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	18	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	19	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
	20	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
	21	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
	22	複数の制度にまたがる課題への支援	
	23	複数の制度にまたがる課題への支援	
	24	地域に求められ鶴精神保健福祉を事例をもとに考察する	
	25	地域に求められ鶴精神保健福祉を事例をもとに考察する	
	26	再考 地域生活を支えるとはなにか	
	27	地域支援についてレポートにまとめる	
	28	医療観察法の概要	
29	社会復帰調整官の役割		
30	社会復帰調整官と地域支援		
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義では下記のことを教科書として使用します。</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」 中央法規 ￥2,700（税別） 制度を理解するために「障害者総合支援法とは・・・」 東京都社会福祉協議会 ￥400（税別）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>講義形式とグループディスカッションを併用してカリキュラムを進めていきます。そのために制度とサービスの概要だけでなく、学生同士での意見交換を求め、相談援助として必要なコミュニケーションを意識して下さい。</p> <p>評価は、基本的に出席状況を重視します。</p>
	<p>評価</p> <p>各、講師が求めるレポート提出30%、出席状況70%。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	通年	火6・木5	8
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名孝(20)、山城涼子(16)、安村勤(8)、諸留将人(8)、その他6名(10)	2年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いいたします	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害(者)とどのように向き合うべきかを考えていく講義です。精神障害を抱える人達とその家族を支えていく福祉職にとって基本的な視点を与える講義となります。	精神障害者を抱えるのは本人と家族だけではありません。私たち社会が、精神障害者どう共存するかということは、私たち社会が抱える精神障害であり、精神疾患なのです。社会の一員として避けてはいけない問題として考えていく必要があります。
到達目標	①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適用するかについての「支援のコツ」について習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神保健医療福祉の歴史と動向 (※講義は週2コマで、1週2コマ分のテーマを標記)	教科書1第1章
	2	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
	3	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
	4	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章
	5	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章
	6	医療機関における精神科リハビリテーションの展開	教科書1第5章
	7	医療機関における精神科リハビリテーションの展開	教科書1第5章
	8	精神障害者支援の実践モデル	教科書1第6章
	9	相談援助の過程及び対象との援助関係	教科書1第7章
	10	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章
	11	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章
	12	事例検討	
	13	相談援助活動の展開	教科書2第1章
	14	相談援助活動の展開	教科書2第1章
	15	前期の振り返り・学期末テスト	
	16	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章
	17	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章
	18	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章
	19	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章
	20	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章
	21	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章
	22	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章
	23	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章
	24	精神障害者のケアマネジメント	教科書2第6章
	25	精神障害者のケアマネジメント	教科書2第6章
	26	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章
	27	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章
	28	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	教科書2第8章
	29	事例検討	
30	事例検討		
31	テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ・Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生理心理学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説する。生理心理学のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。本講義では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。	メッセージ どのような領域を専門に学んでいくにも、脳や神経の基礎を知っておいて損はありません。脳の話は難しそう、と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 脳と神経の構造と機能について概説できる。また人間の精神活動に対する生理心理学のアプローチの仕方を理解し、興味や関心を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス, 生理心理学とは	資料の見直し
	2	脳の構造①	資料の見直し
	3	脳の構造②	資料の見直し, 復習テストを解く
	4	ニューロンとシナプス①	資料の見直し, 課題作成
5	ニューロンとシナプス②	第1回課題提出	資料の見直し, 復習テストを解く
6	感覚・知覚と脳①		資料の見直し
7	感覚・知覚と脳②		資料の見直し
8	運動と脳①		資料の見直し
9	運動と脳②		資料見直し, 復習テスト, 課題作成
10	本能と脳①	第2回課題提出	資料の見直し
11	本能と脳②		資料の見直し
12	情動と脳①		資料の見直し
13	情動と脳②		資料の見直し
14	自律神経系及び内分泌系と脳①		資料の見直し, 課題作成
15	自律神経系及び内分泌系と脳②	第3回課題提出	資料の見直し, 復習テスト
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川島書店 「バイオサイコロジー」ビネル 西村書店。その他、参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 生理心理学 I・II の順で続けて履修することが望ましい。毎回、講義終了時に、質問・感想・発見等を書いて提出してもらいます。次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布します。疑問点や気づきを皆で共有し、理解を深める助けにしてください。また、単元ごとに復習テストを配布しますので、授業外学習に利用してください。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は、退室し、気分転換してから教室に戻っても構いません。		
	評価 期末試験 (1回) 及びミニレポート (3本) の結果によって評価する。(試験85点, レポート15点) 試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義で学んだ脳や神経の基礎知識を基に、「生理心理学II」ではいくつかの個別のテーマを取り上げ、より理解を深めていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生理心理学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	2年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 生理心理学とその関連領域に関するいくつかの個別のテーマを取り上げ、最新の知見を交えながら解説する。	メッセージ 生理心理学のテーマは、薬物依存など比較的身近なものから、脳波のように日常生活ではあまり触れる機会のないものまで多岐に渡りますが、難しそう、と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。
	到達目標 失語症や薬物依存といった比較的身近な事象について、その種類や特徴、メカニズムを説明できるようになる。また、脳波や筋電図といった重要な生理心理学的指標について、メカニズムや分析法を理解し、利用法について説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	資料の見直し
	2	薬物と脳① (薬物のタイプと依存)	資料の見直し
	3	薬物と脳② (オピオイド、覚醒剤)	資料の見直し
	4	薬物と脳③ (アルコール)	資料見直し、復習テスト、課題作成
	5	言語とラテラルリティ① (ラテラルリティのテスト法) 第1回課題提出	資料の見直し
	6	言語とラテラルリティ② (言語野と失語症)	資料の見直し
	7	言語とラテラルリティ③ (言語機能と性差)	資料の見直し
	8	言語とラテラルリティ④ (右半球症状からみた半球機能差)	資料の見直し、復習テスト
9	脳波① (測定法、分析法)	資料の見直し、課題作成	
10	脳波② (基本の脳波と異常脳波) 第2回課題提出	資料の見直し	
11	脳波③ (睡眠時の脳波及び脳波の利用)	資料の見直し	
12	事象関連電位、特にP3の特徴と利用	資料の見直し、復習テスト	
13	感情、筋電図① (情動理論、感情と健康の相互作用)	資料の見直し	
14	感情、筋電図② (筋電図測定法とバイオフィードバック)	資料の見直し、課題作成	
15	感情、筋電図③ (表情の分析) 第3回課題提出	資料の見直し、復習テスト	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川島書店、「バイオサイコロジ」ビネル 西村書店、「脳波の旅への誘い」市川忠彦 星和書店。その他、参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 脳や神経の基礎を学ぶ「生理心理学Ⅰ」を先に履修しておくことが望ましいが、Ⅱから履修した場合も理解できるよう、随時おさらいをしながら講義を進めます。毎回、質問・感想・発見等を書いて提出してもらい、次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布するので疑問点等を皆で共有し、理解を深める助けにしてください。また単元ごとに復習テストを配布しますので、授業外学習に利用すること。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は、退室し、気分転換をしてから教室に戻っても構いません。		
	評価 期末試験 (1回) 及びミニレポート (3本) の結果によって評価する。(試験85点, レポート15点) 試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 様々な人間の行動や思考について、生理学的な見地から考察してみる態度を継続して行って下さい。講義内では十分に取り上げることのできなかったテーマ (ストレス、記憶など) についても自分で調べてみるとよい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	3年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。前期は課題研究の準備として、必要な知識などを確認する。後期は社会福祉や、国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。	メッセージ 「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
	到達目標 課題研究を作成し、報告書集を完成させるのがこのゼミの大きな目標となる。課題研究の内容や経験が4年次の「卒業演習」につながるため各学生は積極的に情報の収集・中間報告・論文作成に関して相談を行うなどのことを行って欲しい。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	
	2	国際社会福祉に関するDVD鑑賞	テキスト1章の精読
	3	社会福祉学における研究とは何か	テキスト2章の精読
	4	研究環境を整える	テキスト3章の精読
	5	研究テーマの選び方	テキスト4章の精読
	6	研究計画の立て方・進め方	テキスト5章の精読
	7	文献レビューの方法	テキスト6章の精読
	8	量的調査の方法	
	9	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
	10	質的調査研究法	テキスト7章の精読
	11	論文の執筆方法	テキスト8章の精読
	12	論文投稿・口頭発表の方法	テキスト9章の精読
	13	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
	14	まとめ	
	15	前期まとめ	
	16	後期オリエンテーション	
	17	課題研究の説明1	
	18	課題研究の説明2	
	19	課題研究の説明3	
	20	課題研究の説明4	
	21	課題研究の説明5	
	22	JICA訪問報告、論文指導	
	23	課題研究発表1	
	24	課題研究発表2	
	25	課題研究発表3	
	26	課題研究発表4	
	27	課題研究発表5	
	28	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
29	課題研究報告書作成		
30	1年のまとめ		
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 社会福祉の研究入門ー計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫 2003年 よくわかる卒論の書き方(ミネルヴァ書房) 白井利明・高橋一郎著 2010年 その他、演習時に適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 課題研究の作成を目的とした演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じ行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容もおおくあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。</p>
	<p>評価 出席状況(40%)、ゼミ内での授業態度・発表内容(30%)、課題研究の内容(30%)など総合的に判断する。 ゼミ内での発表・課題研究の作成については行わなければ評価ができないので必ず行うこと。 課題研究執筆時における個人面談も評価へ影響します。必ず個人面談を行いながら課題研究に取り組んでください。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 課題研究の内容を踏まえ、引き続きその内容を発展させるか、または新しくテーマを設定し、「卒業演習」にて卒業論文を作成を行う。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	3年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本専門演習Ⅱの目的は4点ある。①我が国の医療構造を理解する。②「地域包括ケア」のあり方について理解を深める。③「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。④医療・保健・福祉の領域から、課題を見だし論究し、成果物としての「課題研究報告書」をまとめる。</p>	<p>保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示す。また、課題研究論文の執筆に取り組むため、関心領域の論文を精読することが望ましい。</p>
到達目標	到達目標は、以下の通りである。①保健・医療・福祉の問題に効果的に対応することができる。②関心のある領域の先行研究論文を検索し、自身の論文作成に役立てることができる。③基本的な論文構造に基づいた論文を執筆することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション（計画・調整）	
	2	我が国の医療資源①人・物・財	医療資源とは何か
	3	我が国の医療資源②病院・診療所	医療施設とは何か
	4	沖縄県における医療資源①医療施設	我が国の医療施設の現状を調べる
	5	沖縄県における医療資源②医療施設	沖縄県の医療施設の現状を調べる
	6	演習：医療を理解する①	医療とは何か
	7	演習：病院を理解する②	医療法について調べる
	8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	MSWの役割は？
	9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	
	10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	
	11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	社会調査面接法について調べる
	12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	
	13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	
	14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	プレゼンテーション技法について
	15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	
	16	前期振り返り	
	17	後期オリエンテーション（計画・調整）	
	18	課題研究テーマ決定のための面談	研究仮説とは
	19	課題研究テーマ決定のための面談	
	20	課題研究テーマ決定のための面談	
	21	患者を理解する④社会人招聘（患者会）	
	22	課題研究テーマ決定のための面談	研究論文とは何か
	23	課題研究テーマ・研究計画報告	
	24	課題研究テーマ・研究計画報告	
	25	課題研究テーマ・研究計画報告	
	26	課題研究取り組み中間報告	
	27	課題研究取り組み中間報告	
	28	報告会：演習成果を全員で共有する。	
29	報告会：演習成果を全員で共有する。		
30	報告会：演習成果を全員で共有する。		
31	振り返り		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。</p> <p>①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>論文執筆のために必要な先行研究論文検索ができるよう図書館の論文検索システムに慣れておく。また、論文に執筆に必要な「研究仮説」とは何かを理解する。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究の最終報告書未提出の場合には不可とする。あるいは、前期・後期いずれかにおいて演習への欠席数が3分の1以上であった場合には不可とする。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習Ⅱで執筆する「課題研究」論文は、次年度の卒業演習時に執筆する卒業論文の前段階であることを理解する必要がある。論文とはなにか、研究仮説とは何かをしっかりと理解する。</p>

※ポリシーとの関連性 自ら積極的に調べ・学びを深めることにより、子どもに現れてくる諸問題に対し、効果的に対応できる能力を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉・教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。</p>	<p>本科目は、「専門演習Ⅰ」での学びを踏まえ卒論へつなげる重要な位置づけがある。自らの関心に焦点化し学びを深めて下さい。</p>
到達目標	調べ学習等を通して、自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げる事ができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。</p> <p>以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。</p> <p>①「子どもの貧困」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状 等 <p>②「児童虐待」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状 等 <p>③「社会的養護」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題 ・諸外国の現状 ・児童福祉施設・機関訪問 等 <p>④「スクールソーシャルワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その役割・機能 ・その現状と課題 ・学校等関係機関訪問 等 <p>なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。</p> <p>また、後期には「課題研究」に取り組む。「課題研究」では前期の学びを活かして個人の関心のあるテーマを選定し進めていく。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ授業時に提示する。以下、参考文献です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅井春夫(2017)：『「子どもの貧困」解決への道』、自治体研究所。 ・子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。 ・日本子ども家庭総合研究所編(2014)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。 ・藤岡孝志(2008)：『愛着臨床と子ども虐待』、ミネルヴァ書房。 ・山野・野田・半羽編(2012)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等と発表してもらう。そのためには、図書館を大いに活用してほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度(積極的な参加等)、出欠状況、レポート及び課題研究等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成に向けて意識すること。</p> <p>関連科目：卒業演習、卒業研究発表</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	3年	クラスで受け付けるが、オフィスアワーの活用を歓迎する	

学びの準備	ねらい それぞれの課題を取り上げ、共同で取り組み、調査・分析の方法 まとめ、発表等の技法、倫理等を修得を目指す	メッセージ 自ら問題意識を持ち、その解決への意欲と積極的参加を期待する
	到達目標 一つの具体的な課題に共同で取り組み、まとめや発表までの過程を通して方法・技法を理解する	

学びの準備	ねらい それぞれの課題を取り上げ、共同で取り組み、調査・分析の方法 まとめ、発表等の技法、倫理等を修得を目指す	メッセージ 自ら問題意識を持ち、その解決への意欲と積極的参加を期待する
	到達目標 一つの具体的な課題に共同で取り組み、まとめや発表までの過程を通して方法・技法を理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）	
	2	ブレインストーミング（みんなの問題意識）	
	3	研究の過程・論文の意義等の理解	
	4	関心事・課題のまとめ	
	5	先行研究の収集作業	
	6	先行研究のまとめ	
	7	質的研究と量的研究	
	8	研究計画の立て方と実際の試み	
	9	調査計画の作成（小グループによる作業）	
	10	調査計画の提示・検討	
	11	調査票の作成	
	12	調査計画の検証（分析方法との関連など）	
	13	調査票の検証	
	14	調査計画と予定	
	15	まとめ、取り組みの再確認	
	16	オリエンテーション（後期の予定等）	
	17	調査結果の持ち寄り・自由討論	
	18	分析方法の再確認とまとめ・分析作業の計画	
	19	まとめ・分析作業1	
	20	まとめ・分析作業2	
	21	まとめ・分析作業3	
	22	中間報告会	
	23	ディスカッション（中間のふり返し）	
	24	分析作業とまとめ（文章化）1	
	25	分析作業とまとめ（文章化）2	
	26	研究報告書の作成作業1	
	27	研究報告書の作成作業2	
	28	発表資料の作成	
29	研究発表会（グループごと）		
30	まとめ		
31			

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①各自が自由に「研究の進め方」に関する文献を持ち寄り、相互に比較する ②必要に応じて、随時資料等を配付する</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>問題意識を具体的に課題化し、研究計画からまとめ・報告までを体験する上で必要なことは、①継続的に関心を持ち続けること、②具体的に作業を続けることである 同時に、社会福祉関係の学会誌などみ目を通して、内容・手法・構成等の手本とすることは重要である</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミ活動への参加状況、貢献度、成果物への貢献度等を総合的に判断して放火する</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>常に、次年度に予定されている「卒業論文」を想定しながら取り組むこと</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅱは課題研究を作成することを目標とします。また、課題研究の作成過程をゼミの仲間と共有して文献検索や研究方法、発表時に工夫すること等を学びあいます。</p>	<p>専門演習Ⅰではグループ活動が多かったですが、専門演習Ⅱは個々の研究活動が主となります。関心分野を深く追究し、まとめる経験を通して研究活動の面白さやむずかしさを学びます。</p>

到達目標	①論文作成の方法を理解することができる ②研究成果を発表することで発表のスキルを上達させることができる
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①ゼミ活動の目的	オリエンテーションの内容確認
	2	オリエンテーション②年間スケジュールの確認、ゼミ運営体制づくり	配布資料を読みなおす
	3	講義：社会福祉学研究の概要①社会福祉学研究の動向	配布資料を読みなおす
	4	講義：社会福祉学研究の概要②研究方法の紹介	配布資料を読みなおす
	5	個別面談①	面談に向けて準備
	6	個別面談②	面談に向けて準備
	7	個別面談③	面談に向けて準備
	8	個別面談④	面談を受けて文献収集
	9	個別面談⑤	面談を受けて文献収集
	10	卒業演習ゼミ生による発表	面談を受けて文献収集
	11	参考文献検索の結果を発表	講和のテーマ事前学習
	12	社会人特別講師講演会	講演会振り返り
	13	社会福祉専攻紹介準備～オープンキャンパス	役割分担して準備
	14	社会福祉学の研究論文を読む①	配布資料を読みなおす
	15	社会福祉学の研究論文を読む②	配布資料を読みなおす
	16	前期まとめ	配布資料を読みなおす
	17	後期オリエンテーション 個別面談①	後期オリエンテーション内容確認
	18	個別面談②	個別面談に向けて準備
	19	個別面談③	個別面談に向けて準備
	20	個別面談④	個別面談に向けて準備
	21	課題研究中間報告①	発表者から学んだことを活かす
	22	課題研究中間報告②	発表者から学んだことを活かす
	23	課題研究中間報告③	発表者から学んだことを活かす
	24	課題研究中間報告④	発表者から学んだことを活かす
	25	課題研究中間報告⑤	発表者から学んだことを活かす
	26	課題研究中間報告⑥	発表者から学んだことを活かす
	27	課題研究中間報告⑦	発表者から学んだことを活かす
	28	課題研究中間報告⑧	発表者から学んだことを活かす
	29	卒論発表会運営準備①	卒論発表会の企画運営を考える
30	卒論発表会運営準備②	卒論発表会の企画運営を考える	
31	後期まとめ	配布資料を読みなおす	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て ①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。また、課題研究の作成にあたっては個々人が主体的に研究することが前提であることを理解し、計画を立てて取り組みましょう。図書館を活用して1冊でも多く文献を手に取りましょう。 ②学びを深めるために：積極的にボランティア活動をしましょう。また、施設訪問をしたり講演会や研修に出席したりして視野を広げましょう。</p>
	<p>評価 課題研究（50%）、中間報告の内容（30%）、ゼミ活動への参加状況（20%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門演習Ⅱで学んだことを卒業演習につなげていきましょう。 ②関連科目：社会福祉専攻科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習Ⅰでは、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習Ⅱでは、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマにゼミ	メッセージ
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 専門演習Ⅱでは、主にインタビュー調査によって自分のテーマを深めていきます。そのテーマが卒論のテーマとなり、ここで行われたインタビュー調査が卒論調査の方法論として発展していくことを目指していきます。 前半は、ライフストーリーインタビューを行って行きます。ライフストーリーインタビューを何本か経験しながら、そのデータ分析を試みていきます。夏休みから後期にかけては、1) 自分のテーマを掘り下げる、2) テーマについての文献研究を掘り下げる、3) より大きなインタビュー調査とデータ分析を行うを行って行きます。
	テキスト・参考文献・資料など テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。
	学びの手立て
	評価 出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度の卒業演習につなげていくためのゼミになります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。</p>	<p>このゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。ゼミ生は必ず全員、社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで?をとおして、現代社会に対する洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場とする。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次では社会学の基本的な概念や分析視覚の学習と先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。また、文化的排除、ディアスポラ、ポストコロニアリズムに関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。</p> <p>3年次では、調査方法、調査項目設定および調査実習に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。社会調査の実施は9月～11月を予定している。また、調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。兵庫県宝塚市高松町在住沖縄出身者の方々の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定です。よって、2018年度の実習は県外調査班と県内調査班に別れる予定です。</p> <p>県外調査に関しては、主として沖縄での暮らしぶり、沖縄の故郷を離村した理由、県外大都市に定住した理由、日本社会との関係性（とくに差別や排除の側面）沖縄出身者コミュニティの互助のありよう、県人会・郷友会等との関わり、故郷との関係および今日の基地問題や沖縄社会の問題等に対する意識について聞き取りを行っていく。詳細としては、以下のような項目となる。</p> <p>離村前の項目：年齢、性別、出身地、母村での家族の暮らしぶり（主たる収入源）、離村年、離村の理由など。移動歴の項目：移動歴、職業移動歴、移動に伴う家族構成の変化、移動先での暮らしぶり、日本社会との関係等</p> <p>定住先の項目：定住地の選定理由、定住地での職業や家族構成の変化、日本社会との関係性、沖縄コミュニティにおける互助のありよう、近隣関係、県人会・郷友会等との関係。故郷との関係：帰郷の頻度およびその内容、親族ネットワークのありよう、基地問題および沖縄社会の問題等に対する意識。</p> <p>また、上記の聞き取り調査に関してはインフォーマントを介して対象者の選定を行うが、とくに移動年代による日本社会と沖縄社会の歴史的背景を考慮に入れながら対象者へのアプローチを行う。</p> <p>ゼミ全体の調査は11月中に完了し、12月中にデータの集計、クリーニング、コーディング、分析・考察等を行う。</p> <p>ゼミ報告書は1月中の完成を予定している。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
	<p>評価</p> <p>専門演習Ⅱは、2年次「専門演習Ⅰ」において確立したテーマに基づいて社会調査を実践するため、調査の準備に対する取り組み姿勢（積極性など）、調査技能等の習熟度（調査への取り組みも含む）、調査報告書の執筆作成に対する取り組み姿勢、などを評価の基準とする。もちろん、平常点（出席数や受講中の態度）、グループ作業に対する取り組み姿勢や諸課題の提出状況も評価の必須項目とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業演習</p> <p>次のステージ： 専門演習Ⅱで身につけた社会学の知識と視点、研究テーマの確立法、社会調査の技法等をいかして、卒業論文等の卒業研究に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格を固める、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸など</p>	<p>「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。</p>
到達目標	<p>関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>実践的学習</p> <p>社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む] ・与那国馬による動物介在療育の体験 ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習 ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携] ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物] ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加[7/25-26, 11/-8] ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど <p>理論的学習</p> <p>以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡島・吉野著『これから研究を書くひとのためのガイドブック』(ひつじ書房)で論文の作法や研究の基礎をまなぶ(分担してレジュメを作成し、特定質問を担当する)。 ・卒業論文作成にむけて先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格をかためる。 ・社会福祉の諸問題 ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解 <p>年度当初の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の計画を発表 ・新入生1日合同研修ファシリテート ・各人の問題関心の確認。 <p>以降の予定</p> <p>佐渡島・吉野著『これから研究を書くひとのためのガイドブック』の輪読/各人の問題関心に沿って発表・議論/ワークショップ等</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>佐渡島・吉野著『これから研究を書くひとのためのガイドブック』(ひつじ書房)</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を、何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。 ・学んだことは文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証する。
	<p>評価</p> <p>【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この演習は、専門演習 b に連結するものである。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習の後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い新たなサービス提供システム、具体的には社会から排除された人々が包括され人権が保障され安心して暮らすことができるインクルーシブな社会づくりが課題となっている。演習では市民社会、NPO、協働、インクルージョン、社会資源の発掘等をキーワードにして理論と実践を学ぶ。また、実際にアクションを起こしている人々を訪問して話を伺う。	地域包括支援や異分野異業種連携の方法、協働によるまちづくりの手法など、今後の社会福祉実践に求められる知識や経験をゼミの仲間と共に学んでいきましょう。また、アクションを起こした方々との交流やゼミ合宿を通して互いの知的探求心を刺激していきましょう。
到達目標	多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か考えを深めます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション① ゼミの概要説明、ゼミ生自己紹介	
2	オリエンテーション② ゼミの体制づくり、スケジュール確認		
3	講義①：現代社会をキーワードで理解する		
4	講義②：協働によるまちづくりについて理解する		
5	個別研究の目的と、作成に向けた準備方法を理解する		
6	個別面談①		
7	個別面談②		
8	個別面談③		
9	協働によるまちづくりの実践者の講話①		
10	個別研究発表①		
11	個別研究発表②		
12	個別研究発表③		
13	個別研究発表④		
14	個別研究発表⑤		
15	協働によるまちづくりの実践者の講話②		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など	ゼミの時間に随時紹介します。	
	学びの手立て	①本演習は学生ひとりひとりの主体的参加が不可欠です。誰かの指示を待つのではなく、自ら考え行動したりゼミの仲間と協力したりしましょう。 ②協働によるまちづくりや障害児者に関連する講演会やシンポジウム、また、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館を活用し、国内外の理論や実践を広く学びましょう。	
	評価	研究成果発表（40%）、レポート（30%）、ゼミ活動への主体的参加（30%）、	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習aで培った知識と経験を専門演習bにつなげていきましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。</p>	<p>このゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。ゼミ生は必ず全員、社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、現代社会に対する洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場とする。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。2年次後期（専門演習b）は先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。とくに、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除等に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出されたテーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。</p> <p>なお、3年次（2018年度）「専門演習c」「専門演習d」では、兵庫県宝塚市高松町在住沖縄出身者の方々の移動歴や地域生活を「ライフストーリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定です。よって、2018年度の社会調査班は県外調査班と県内調査班に別れる予定です。本年度（2年次）はその心づもりで具体的な調査テーマと調査項目の確立に臨むこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。</p>
	<p>評価</p> <p>「専門演習a」は、「専門演習b」に向けての準備期間（社会学に関する基礎的な知識と視点を身につけること）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習Ⅰでは、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習Ⅱでは、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマに	メッセージ
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 発達障害児への支援について： (1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。 (2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。 2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び： (1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。 (2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。
	テキスト・参考文献・資料など ゼミのなかで指定していく
	学びの手立て
	評価 出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。	メッセージ 大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。学生の興味のある施設を見学できるように調整していきたい。 「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グローバル化時代の意義	配付資料の精読
	3	ディスカッション	
	4	国際社会福祉をテーマにしたDVD鑑賞	
	5	国際社会福祉の位置づけ	テキスト1章の精読
	6	国際社会福祉の沿革	テキスト2章の精読
	7	国際社会福祉の課題	テキスト3章の精読
	8	国際社会における支援活動1	テキスト4章の精読
9	国際社会における支援活動2	テキスト4章の精読	
10	ゲストレクチャーによる講演（予定）		
11	沖縄県内の国際社会福祉施設について		
12	JICA見学ツアー（予定）		
13	各国の社会福祉についての現状1	テキスト5章の精読	
14	各国の社会福祉についての現状	テキスト5章の精読	
15	前期まとめ		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など ・川村匡由、「国際社会福祉論」 ミネルヴァ書房 を使用しながら演習を進めていく。 参考文献として ・仲村優一,他『グローバル化と国際社会福祉』2002年 ・ジェームス ミッジリイ(1999)『国際社会福祉論』中央法規 ・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。		
	学びの手立て 履修に関して、学生の積極的な議論に参加をして欲しい。そのためには他グループの発表の前には最低でも発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行い、それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行って欲しい。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味を持つ分野を見つけて欲しい。それが3年次の課題研究へとつながる材料となる。		
	評価 出席状況(50%)、ゼミ内での授業態度・発表の内容(40%)、その他(10%)を基本とし、総合的に評価を行う。特に発表や課題については行う事が前提となるので気をつけること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義後は「専門演習 b」へと繋がります。 各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。 海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習 I・II」への参加も検討して欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーで示される、「実践的活動を重視した」視点から演習を行う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本専門演習のねらいは、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材育成に力を入れる。	「医療の出口に福祉あり」をゼミスローガンとして演習をすすめるため、福祉に限らず、医療・保健にも関心を示してもらいたい。
到達目標	現在の保健・医療・福祉の動向を知り、それを身近な人に伝えることができる。また、社会で起きている問題点・課題を見だし、いかにすれば解決できるかを考える能力・手段を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	専門演習ガイダンス	社会の話題を調べる
	2	グループエンカウンター①仲良くなろう②だれとでも話せるようになる	コミュニケーションスキルとは①
	3	グループエンカウンター③グループで取り組む協働性を養う	コミュニケーションスキルとは②
	4	断酒会参加グループ編成	断酒会について調べる
	5	断酒会について学ぶ	アルコール依存症について調べる
	6	断酒会について学ぶ	アルコール依存症患者家族の苦悩
	7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	家族会、患者会について調べる
	8	話題提供 認知症	認知症の疫学基礎を調べる
	9	話題提供 医療保険	認知症（医学的視点）とは
	10	話題提供 介護保険	介護保険制度とは
	11	話題提供 医療施設の種類の	医療法について調べる①
	12	話題提供 介護保険施設の種類の	医療法について調べる②
	13	生活習慣病を知ろう①	生活習慣病とは何か
14	生活習慣病を知ろう②	具体的な疾病（生活習慣病）	
15	生活習慣病を知ろう③	興味のある生活習慣病を調べる	
16	前期振り返り		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。演習時に随時紹介する。		
学びの手立て	コミュニケーション力を高めるために、つねに人と接することに心がける。また、専門演習Ⅰでは、3年生以降で課題となる、「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎を培う期間となるために、参考文献等検索システムであるOPAC等検索システムになれておく必要がある。		
評価	演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅱ、卒業演習で課題となる「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎知識を得ておく必要がある。関連科目としては、保健医療サービス、社会保障、保健福祉政策論がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。</p>	<p>本科目は「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んでください。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。</p>
到達目標	子どもに現れてくる諸問題について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもの抱える諸問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>本科目では特に「スクールソーシャルワーク」と「子どもたちに現れてくる諸問題」に焦点を当て展開する。</p> <p>1. 「スクールソーシャルワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その現状及び課題 ・諸外国の現状(英書講読含む) ・学校等関係機関の理解 <p>など</p> <p>2. 「子どもたちに現れてくる諸問題」その1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困 ・児童虐待 ・いじめ <p>など</p> <p>なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて、授業時に提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度(積極的な参加)、出欠状況、レポート等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>引き続き「専門演習 b」で子ども家庭福祉について学ぶ。</p> <p>関連科目：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>“理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格を固める、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸など</p> <p>到達目標</p> <p>“関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになる。”</p>	<p>「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>” 実践的学習</p> <p>社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む] ・与那国馬による動物介在療育の体験 ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習 ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携] ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物] ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加 ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど <p>理論的学習</p> <p>以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野崎泰伸著『「共倒れ」社会を超えて』(筑摩書房)で論文の作法や研究の基礎をまなぶ(分担してレジュメを作成し、特定質問を担当する)。 ・卒業論文作成にむけて先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格をかためる。 ・社会福祉の諸問題 ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>野崎泰伸著『「共倒れ」社会を超えて』(筑摩書房)</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を、何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。 ・学んだことは文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証する。
	<p>評価</p> <p>【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この演習は、専門演習 c に連結するものである。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習修了後に受付ます。	

学びの準備	ねらい 専門演習aで学んだことを踏まえて、地域包括支援、多職種連携、協働によるまちづくり等の事例を具体的に学びます。	メッセージ 地域でアクションを起こしている方々と交流していきましょう。既存の価値観にとらわれず、新たな価値を創造していきましょう。
	到達目標 多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か議論を深めます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション ゼミの概要説明
	2	グループ研究の目的、方法を理解する
	3	グループ研究：テーマ設定およびグループ分け
	4	グループ研究の準備①
	5	グループ研究の準備②
	6	協働によるまちづくり関係者訪問
	7	グループ研究発表①
	8	グループ研究発表②
	9	グループ研究発表③
	10	協働によるまちづくり関係者訪問計画①訪問先選定、アポの取り方および企画設定方法を理解する
	11	協働によるまちづくり関係者訪問計画②
	12	協働によるまちづくり関係者訪問事前学習①
	13	協働によるまちづくり関係者訪問事前学習②
	14	協働によるまちづくり関係者訪問①
	15	協働によるまちづくり関係者訪問②
	16	まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 演習の時間に随時紹介します。	
	学びの手立て ①積極的にボランティア活動に参加し、多くの方と出会い、学生時代だからこそ得られる経験を自ら獲得しましょう。 ②図書館を活用し、国内外の理論や実践を学びましょう。 ③ゼミ生どおしがお互いを高め合う関係を構築していきましょう。	
	評価 グループ発表（40%）、個別レポート（40%）、ゼミ活動への積極的参加（20%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習c, dの学びにつなげましょう。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。</p>	<p>このゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。ゼミ生は必ず全員、社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。</p>

到達目標	<p>「専門演習a」で身につけた社会学の基礎知識と視点をいかし、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをととして、現代社会に対する洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場とする。</p>
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。2年次後期（専門演習b）は先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。とくに、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除等に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出されたテーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。</p> <p>なお、3年次（2018年度）「専門演習c」「専門演習d」では、兵庫県宝塚市高松町在住沖縄出身者の方々の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定です。よって、2018年度の社会調査班は県外調査班と県内調査班に別れる予定です。本年度（2年次）はその心づもりで具体的な調査テーマと調査項目の確立に臨むこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。</p>

学びの手立て	<p>ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。</p>
--------	---

評価	<p>「専門演習b」は、「専門演習c」に向けての準備期間（社会学の基礎知識と視点をもとに具体的な調査テーマを絞り込むこと）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習bで確立した社会調査のテーマをもとに調査方法と調査項目を作成する。社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習Ⅰでは、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習Ⅱでは、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマに	メッセージ
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 発達障害児への支援について： <ol style="list-style-type: none"> 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。 発達障害児をもつ親の語りからの学び： <ol style="list-style-type: none"> 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。 インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。沖縄にある国際社会福祉組織についても学ぶ事を計画している。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。	大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。JICA沖縄、沖縄NGOセンター等の訪問を予定している。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	発表に関するテーマ決め	
	3	発表準備 1	発表準備
	4	発表準備 2	発表準備
	5	発表準備 3	発表準備
	6	学生による発表 1	
	7	ゲストレクチャーまたはJICAフェスティバルについて	
	8	学生による発表 2	必要資料の精読
	9	学生による発表 3	必要資料の精読
	10	学生による発表 4	必要資料の精読
	11	学生による発表 5	必要資料の精読
	12	学生による発表 6	必要資料の精読
	13	ファミリーサポートセンターについての勉強会	該当センターの情報収集
14	ファミリーサポートセンターを訪問 (予定)		
15	ゲストレクチャーによる講演 (予定)		
16	後期のまとめ・1年のふりかえり		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	・川村匡由、「国際社会福祉論」 ミネルヴァ書房 を使用しながら演習を進めていく。 参考文献として ・仲村優一,他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年 ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規 ・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。		
	学びの手立て		
	履修に関して、学生の積極的な議論に参加をして欲しい。そのためには他グループの発表の前には最低でも発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行い、それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行って欲しい。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味を持つ分野を見つけて欲しい。それが3年次の課題研究へとつながる材料となる。		
	評価		
	出席状況 (50%)、ゼミ内での授業態度・発表の内容 (40%)、その他 (10%) を基本とし、総合的に評価を行う。特に発表や課題については行う事が前提となるので気をつけること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この講義後は「専門演習 c」へと繋がります。各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習 I・II」への参加も検討して欲しい。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーで示される、「実践的活動を重視した」視点から演習を行う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本専門演習のねらいは、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材育成に力を入れる。	メッセージ 「医療の出口に福祉あり」をゼミスローガンとして演習をすすめるため、福祉に限らず、医療・保健にも関心を示してもらいたい。
	到達目標 現在の保健・医療・福祉の動向を知り、それを身近な人に伝えることができる。また、社会で起きている問題点・課題を見だし、いかにすれば解決できるかを考える能力・手段を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グループ課題の報告 1、2 グループ	グループで課題案を提案する
	2	グループ課題の報告 1、2 グループ	課題を報告するための調整
	3	医療施設見学グループ編成	病院機能別医療施設分類を調べる
	4	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの役割①
	5	患者を理解する	医療ソーシャルワーカーの役割②
	6	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）	医療ソーシャルワーカーの役割③
	7	医療に関わる社会的課題①	課題案を考える（宿題）
	8	医療に関わる社会的課題②	課題を決定する
	9	医療に関わる社会的 課題個人報告①	課題について報告準備①
	10	医療に関わる社会的 課題個人報告②	課題について報告準備②
	11	医療に関わる社会的 課題個人報告③	課題について報告準備③
	12	医療に関わる社会的 課題個人報告④	課題について報告準備④
	13	医療に関わる社会的 課題個人報告⑤	課題について報告準備⑤
	14	後期振り返り	
	15	1年間を振り返って	
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。 演習時に随時紹介する。		
	学びの手立て コミュニケーション力を高めるために、つねに人と接することに心がける。また、専門演習 I では、3年生以降で課題となる、「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎を培う期間となるために、参考文献等検索システムであるOPAC等検索システムになれておく必要がある。		
	評価 演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II、卒業演習で課題となる「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎知識を得ておく必要がある。 関連科目としては、保健医療サービス、社会保障、保健福祉政策論がある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。</p>	<p>本科目は「専門演習a」に引き続き、「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んで下さい。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。</p>
到達目標	子どもに現れてくる諸問題について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもの抱える諸問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>本科目では特に「ソーシャルワークスキル」「子どもたちに現れてくる諸問題」に焦点を当て展開する。</p> <p>1. 「ソーシャルワークスキル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉専門職(社会福祉士)として現場に求められるスキル(対個人・グループ)の修得 ・各機関/施設の社会福祉士等から学ぶなど <p>2. 「子どもたちに現れてくる諸問題」その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校 ・非行 ・発達障がい など <p>なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて、授業時に提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度(積極的な参加)、出欠状況、レポート等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度の「専門演習 c・d」ではより深く子ども家庭福祉について学ぶ。特に「専門演習 d」では、卒論につながる「課題研究」に取り組む。</p> <p>関連科目：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の基盤と専門職 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 相談援助の理論と方法 I	期別 前期	曜日・時限 水 6	単位 2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-418、E-mail：mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目では相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。	メッセージ 将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目である。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事をイメージしながら受講してほしい。
	到達目標 本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の相互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象及びさまざまなアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	人と環境の相互作用① I：第3章	※各授業の予習・復習をすること
	3	人と環境の相互作用② I：第3章	
	4	相談援助の対象 II：第1章	※期間中に小課題を2つ課します。
	5	ケースマネジメント II：第2章	締切を守り提出して下さい。
	6	アウトリーチ① I：第7章	詳しくは、初回オリ時に説明する。
	7	アウトリーチ② I：第7章	
	8	記録の技術① I：13章	
	9	記録の技術② I：13章	
	10	個人情報の保護の意義と留意点① II：第11章	
	11	個人情報の保護の意義と留意点② II：第11章	
	12	相談援助における情報通信技術(IT)の活用① II：12章	
	13	相談援助における情報通信技術(IT)の活用② II：12章	
	14	事例研究① II：13章	
	15	事例研究② II：13章	
16	まとめ		

実践	テキスト・参考文献・資料など 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法 I (第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法 II (第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。
----	--

学びの手立て	本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてしっかりと取り組み、提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職 I」「相談援助演習 I」等は重要である。
--------	--

評価	授業の出欠、演習への参加状況及び期間中に与える小課題の評価等を含めて、総合的に評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法 II～IV」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職 I」「相談援助演習 I」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導 II」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科カリキュラムポリシー1の「社会福祉専門職を養成する教育」と2の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	4年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 大学4年間の学びの総括として卒業論文作成を行っていく。論文執筆作成にかかる作業を行っていくなかで、自らの大学での学びを振り返り、4年間の学びを形にしていく。	メッセージ
	到達目標 学生個人で設定したテーマにしたがい、先行研究調査およびフィールド調査を行い、分析考察に至るまでの論文執筆の知識と方法を獲得していくことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など ゼミのなかで指定する。
	学びの手立て
	評価 中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	4年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、問題発見から批判的検討までの一環した流れを把握し、示すことができる。	保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示し、その中から問題点・課題を見いだせるようにする。

到達目標	到達目標は以下2点で、①「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけること②問題発見から批判的検討までの一環した流れを示すことができることである。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	卒論作成に向けて概説	研究論文とは
	3	卒論研究プロトコール作成法	プロトコールとは
	4	論文の書き方①	専攻研究論文の検索方法
	5	論文の書き方② 文献、論文検索	研究論文の基本的な構造とは
	6	卒論テーマ作成のための個人面談 1	研究仮説を立てる
	7	卒論テーマ作成のための個人面談 2	
	8	卒論テーマ作成のための個人面談 3	
	9	卒論テーマ作成のための個人面談 4	
	10	卒論テーマの決定とプロトコール作成	
	11	卒論プロトコール提出	
	12	調査票作成 1	量的調査に基づく研究とは
	13	調査票作成 2	
	14	文献に基づく研究仮説の論証①	質的調査に基づく研究とは
	15	文献に基づく研究仮説の論証②	
	16	文献に基づく研究仮説の論証③	参考文献の示し方
	17	文献に基づく研究仮説の論証④	
	18	論文執筆指導①	
	19	論文執筆指導②	
	20	論文執筆指導③	
	21	論文執筆指導④	
	22	論文執筆指導⑤	
	23	論文執筆指導⑥	
	24	個別指導	
	25	卒論発表会 1	
	26	卒論発表会 2	
	27	卒論発表会 3	
	28	卒論・ゼミ論集制作 1	
	29	卒論・ゼミ論集制作 2	
30	卒論・ゼミ論集制作 3		
31	振り返り		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 論文作成にまず必要なことは「研究仮説」をたてることである。そして、仮説を論証するための参考文献を見つけ出すことである。専門演習Ⅰから始めた参考文献検索方法を今一度みなおし、演習がスタートする前に慣れておく必要がある。</p>
	<p>評価 卒業演習の評価は演習への出席回数と卒業論文あるいは卒業演習論文（ゼミ論）の提出有無とその内容によって評価する。また、演習の中間（夏季休業明け）期に開催する、中間口頭発表会を参考にする。なお、卒業論文については、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名により評価される。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業論文は論文執筆の最終章とも言える。専門演習Ⅰ・Ⅱで学んできた文献検索方法、論文基本構造等をしっかりと見直し、卒業論文執筆に臨む必要がある。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。	メッセージ これまでの学びに加えて最新情報が得られるように常にアンテナを張ること。1月には国家試験が控えているため、卒業論文はなるべく早めに取り組み前期の間におおよそ7割は完成させて下さい。
	到達目標 これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：年間のスケジュールを確認 <ol style="list-style-type: none"> ①「卒論の書き方」・各自テーマ決定(～5月中旬) ②個別指導(6月～) ③中間報告会(8月中旬) ④仮提出【ゼミ】(10月下旬) ⑤本提出【社会福祉専攻全体】(12月中旬) ⑥卒論発表会(2月初旬) 各自のテーマ決定・報告 各自のテーマに関する先行研究等の文献・資料収集 個別指導：各自の進捗状況を報告(前期・後期) 中間報告会 卒論発表会
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特になし。 白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。 その他は、必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料は集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるには、コンスタントに研究室を訪ね、指導を受けること。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み(そのプロセス)を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」(卒業論文：4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士国家試験、就職。 関連科目：「卒業研究発表」、その他社会福祉士関連科目すべて。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	4年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/卒業論文を完成する、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸/学校行事のファシリテートなど	「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
到達目標	関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえ、自身固有の問題意識に根ざした具体的かつ明確な課題について、明確な方法論にもとづいて、詳細かつ体系的な検討を行って、卒業論文にまとめる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>実践的学習 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施 ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む] ・与那国馬による動物介在療育の体験 ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習 ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携] ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物] ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど</p> <p>理論的学習 以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討 ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』中央法規、2500円＋税で取り上げられた「現場」に関して分担して理論的に考察して発表・コメント ・卒業論文作成にむけて先行研究の整理や調査の結果を確認し、必要の手直しを行って、卒業論文を完成する。 ・論文作成のためのアカデミックスキルの確認 ・社会福祉の諸問題 ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解</p> <p>年度当初の予定＝ ・オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の概要を発表 ・新入生1日合同研修ファシリテート ・各人の問題関心の確認。 以降の予定＝ ・田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』の輪読 ・各人の問題関心に沿って発表・議論 ・各種ワークショップ等</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書＝田中千枝子編集代表『社会福祉・介護福祉の質的研究法－実践者のための現場研究』中央法規 参考文献 ・荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク－〈支援〉しない支援の方法』新泉社 ・徳川直人『色覚差別と語りづらさの社会学』生活書院・遠藤徹『〈尊びの愛〉としてのアガペー』教文館</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みるのが肝要である。 ・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
<p>評価</p> <p>【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>さまざまな現場で活躍できる豊かな人間性と能力を身につけ学士の学位を取得し卒業する(ディプロマポリシーに対応)。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業演習は卒業論文を作成することを目標としています。課題研究作成の経験を活かしながら研究を進めていきます。主体的に、そして計画に沿って論文を作成します。年度末には卒業論文発表会で発表をします。	メッセージ 卒業論文は個々の孤独な作業のように思えますが、実際は卒業論文の作成過程をゼミ仲間と励ましあいながら歩んでいきます。学生どおし互いの研究を紹介し、議論を重ねたり情報を交換したりして視野を広げていきます。
	到達目標 ①論文作成の経験から学ぶことができる。 ②発表と議論のスキルを高めることができる。 ③他の学生の研究から学び視野を広げることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	2	前期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	3	個別面談①	個別面談の準備
	4	個別面談②	個別面談の準備
	5	個別面談③	個別面談の準備
	6	個別面談④	個別面談の振り返り
	7	福祉の仕事講演会	配布資料を読みなおす
	8	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
	9	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
	10	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
	11	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
	12	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
	13	中間報告会⑥	発表者から学んだことを活かす
	14	中間報告会⑦	発表者から学んだことを活かす
	15	中間報告会⑧	発表者から学んだことを活かす
	16	前期まとめ	
	17	後期オリエンテーション	オリエンテーション内容の確認
	18	個別面談①	個別面談の準備
	19	個別面談②	個別面談の準備
	20	個別面談③	個別面談の準備
	21	個別面談④	個別面談の準備
	22	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
	23	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
	24	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
	25	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
	26	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
	27	卒論集作成①	編集条件に合わせて準備
	28	卒論集作成②	各自印刷する
	29	卒論発表会準備（卒論発表会レジュメ集作成）	レジュメ集を作成する。
30	卒論発表会	発表者から学んだことを活かす	
31	後期まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定された教科書はありません。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。また、卒業論文の作成にあたっては個々人が主体的に研究することが前提であることを理解し、計画を立てて取り組みましょう。</p> <p>②学びを深めるために：研究テーマに関連する文献や論文を1冊でも多く手にとりましょう。また、ボランティア活動等に積極的に参加し、研究活動を深めましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の内容（50%）、中間報告の内容（30%）、ゼミ活動への参加状況（20%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①次のステージ：卒業後も研究活動を継続してほしいと思います。 ②関連科目：社会福祉専攻専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	大学の社会福祉学および各専門領域で学んだ研究成果を「作品」として形にする。とくに研究論文等で執筆、作成、発表を行う。	大学生生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにすると出来るのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。

到達目標	各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	年間のスケジュールと諸注意	仮テーマについて考える
	2	各自卒業研究テーマ候補の報告	仮テーマについて考える
	3	各自卒業研究テーマの確定と発表	研究テーマの確定作業
	4	同上	研究テーマの確定作業
	5	同上	研究テーマの確定作業
	6	同上	研究テーマの確定作業
	7	卒業研究の企画・設計に関する指導	研究方法の模索
	8	先行研究の収集に関する指導	先行研究文献の探索と精読
	9	研究の方法論に関する指導	研究方法の確定
	10	構成内容などに関する指導	目次構成の作成
	11	データおよび素材の収集に関する指導	研究方法の詳細な手順確認
	12	同上	研究方法の詳細な手順確認
	13	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
	14	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	15	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
	17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
	18	同上	データ収集の実践
	19	同上	データ収集の実践
	20	補足的な収集に関する指導	データ収集の実践
	21	データおよび素材の整理方法の指導	データの整理
	22	論文または成果物の内容構成の再検討	内容構成の最終確認と調整
	23	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
	24	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	25	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	26	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
	27	ゼミ全体での発表	発表資料の作成
	28	卒論および成果物の仮提出と修正指導	論文執筆作業
29	卒論および成果物の本提出	論文集の編集作業	
30	卒業論文および卒業研究集の作成	論文集の印刷、製本作業	
31	予備日	研究成果の作成作業	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。 講義のなかで適宜紹介していく。</p>
	<p>学びの手立て 必ず卒業研究の成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（出席状況や受講態度など）も重視するので、怠けずに参加する事。</p>
	<p>評価 「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 卒業研究発表</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	4年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を作成するための演習となる。4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。	各学生は、今まで演習でつちかかってきた知識・技術を発揮して欲しい。論文の進行具合に合わせて定期的に論文指導を受けることが望ましい。卒業論文について要項もあるためそれに従った論文を作成、提出を行うこと。

到達目標	卒業論文の提出を目標とする。各学生は積極的に卒業論文作成に取り組んで欲しい。また、年度末には「卒業論文集」の作成も行う。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	各自で論文執筆活動
	2	卒業論文について	各自で論文執筆活動
	3	卒業論文計画作成①	各自で論文執筆活動
	4	卒業論文計画作成②	各自で論文執筆活動
	5	卒業論文計画作成③	各自で論文執筆活動
	6	卒業論文計画書提出	各自で論文執筆活動
	7	卒業論文準備・個人面談①	各自で論文執筆活動
	8	卒業論文準備・個人面談②	各自で論文執筆活動
	9	卒業論文準備・個人面談③	各自で論文執筆活動
	10	卒業論文準備・個人面談④	各自で論文執筆活動
	11	卒業論文準備・個人面談⑤	各自で論文執筆活動
	12	卒業論文中間報告準備①	各自で論文執筆活動
	13	卒業論文中間報告準備②	各自で論文執筆活動
	14	中間報告	各自で論文執筆活動
	15	中間報告・前期まとめ	各自で論文執筆活動
	16	後期オリエンテーション・卒業論文進捗確認	各自で論文執筆活動
	17	卒業論文準備・個人面談⑥	各自で論文執筆活動
	18	卒業論文準備・個人面談⑦	各自で論文執筆活動
	19	卒業論文準備・個人面談⑧	各自で論文執筆活動
	20	卒業論文提出予定者の確認	各自で論文執筆活動
	21	卒業論文準備・個人面談⑨	各自で論文執筆活動
	22	卒業論文準備・個人面談⑩	各自で論文執筆活動
	23	卒業論文準備・個人面談⑪	各自で論文執筆活動
	24	卒業論文準備・個人面談⑫	各自で論文執筆活動
	25	論文・卒業論文提出日（予定）	
	26	論文修正期間①	論文修正
	27	論文修正期間②	論文修正
	28	卒業論文集作成開始	報告書作成活動
	29	卒業論文集作成	報告書作成活動
30	卒業論文集作成	報告書作成活動	
31	卒業論文集完成・1年の振り返り、まとめ		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 指定はしない。必要に応じて、文献・資料の紹介をおこなう。 参考書籍 よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫編 2003年 よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年</p>
	<p>学びの手立て 卒業論文を作成するために図書館や論文検索サイトなどのインターネット情報等を有効利用すること。自分から情報を集める、教員との綿密なやりとりなどが作成に関しては必要不可欠です。</p>
	<p>評価 出席状況（20%）、中間報告・論文提出（70%）、その他（10%）とし総合的に判断します。 この講義においては、授業外に行う個人面談にも評価の重点を置く。論文執筆の際は必ず個人面談を行いながら執筆活動を行うこと。 論文の提出を行わなければ評価ができないので注意すること。</p>
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉の理論と方法 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良昌徳2回、オムニバス（社会人講師）14回	2年	講義の後、教室にて受け付ける	

学びの準備	ねらい 地域福祉における様々な専門分野について理解し、それを支える理論的背景について理解することを目的とする	メッセージ 本科目は、地域福祉実践に携わる複数の実践家や理論家が講義を担当する、オムニバス形式の科目であることから、重複等の可能性もあるが、それぞれの分野を深く学ぶことができる科目である
	到達目標 それぞれの講師を講義内容を通して示される、地域福祉の全体像を理解すると同時に、それぞれの分野における実践やその理論的背景について理解すること	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）
	2	地域福祉における「地域」や「地域福祉」等の意味・定義について
	3	社会福祉政策における地域福祉の位置づけ
	4	地域福祉における住民の位置づけ・役割について
	5	新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉
	6	福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体
	7	地域福祉の主体の理解（社会福祉協議会）
	8	地域自立生活支援と地域福祉の理念
学びの実践	9	コミュニティソーシャルワークの考え方と実践例
	10	事例に見るコミュニティソーシャルワークの展開とシステム
	11	他職種によるチームアプローチの実践例
	12	事例に見る地域福祉推進における住民参加
	13	ソーシャルワポートネットワークの意義と実践例
	14	地域トータルケアシステムの実践例
	15	まとめ
	16	
実践	テキスト・参考文献・資料など 『地域福祉の理論と方法』中央法規 その他、必要に応じて講義の際に配付する	
学びの手立て	①日頃からマスコミを通して目にする地域の福祉問題に目を向けること ②一人の地域の構成員として、地域の福祉問題との関係や役割等について考えること ③具体的な法律や制度を想定しながら、問題解決の方法について考えること ④各講師の職種が果たす意義・役割等を理解し、地域福祉実践のあり方を考えること	
評価	出席状況、特にレポートの提出状況や内容を総合的に判断して評価する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 引き続き、「地域福祉の理論と方法」を受講することが望ましい
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良昌徳2回、オムニバス（社会人講師）14回	2年	講義の後、教室にて受け付ける	

学びの準備	ねらい 地域福祉における様々な専門分野について理解し、それを支える仕組みと理論的背景等について理解する	メッセージ 本科目は、地域福祉実践に携わる複数の実践家や理論家が講義を担当する、オムニバス形式の科目であることから、重複等の可能性もあるが、それぞれの分野を深く学ぶことができる
	到達目標 それぞれの講師を講義内容を通して示される、地域福祉の全体像を理解すると同時に、それぞれの分野における実践やその理論的背景について理解すること	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>地域福祉の発展過程と現在の姿</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>少子高齢化を中心とする福祉問題の構造</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>生活困窮者支援のための制度と仕組み</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>日常生活自立生活支援事業と成年後見制度</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>社会福祉法人の地域貢献事業と福祉施設の役割</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>地方分権化と地域福祉計画の実際</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>特定非営利活動法人の役割とボランティア活動</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>民政委員・児童委員、保護司の仕組みと役割</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>地域における福祉ニーズの把握の方法と実際</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>共同募金会の役割と機能</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>災害支援の体制と連携の実際</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>地域福祉における福祉教育の内容と方法</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>地域福祉の財源と需要供給のシステム</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）		2	地域福祉の発展過程と現在の姿		3	少子高齢化を中心とする福祉問題の構造		4	生活困窮者支援のための制度と仕組み		5	日常生活自立生活支援事業と成年後見制度		6	社会福祉法人の地域貢献事業と福祉施設の役割		7	地方分権化と地域福祉計画の実際		8	特定非営利活動法人の役割とボランティア活動		9	民政委員・児童委員、保護司の仕組みと役割		10	地域における福祉ニーズの把握の方法と実際		11	共同募金会の役割と機能		12	災害支援の体制と連携の実際		13	地域福祉における福祉教育の内容と方法		14	地域福祉の財源と需要供給のシステム		15	まとめ		16			
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）																																																				
2	地域福祉の発展過程と現在の姿																																																				
3	少子高齢化を中心とする福祉問題の構造																																																				
4	生活困窮者支援のための制度と仕組み																																																				
5	日常生活自立生活支援事業と成年後見制度																																																				
6	社会福祉法人の地域貢献事業と福祉施設の役割																																																				
7	地方分権化と地域福祉計画の実際																																																				
8	特定非営利活動法人の役割とボランティア活動																																																				
9	民政委員・児童委員、保護司の仕組みと役割																																																				
10	地域における福祉ニーズの把握の方法と実際																																																				
11	共同募金会の役割と機能																																																				
12	災害支援の体制と連携の実際																																																				
13	地域福祉における福祉教育の内容と方法																																																				
14	地域福祉の財源と需要供給のシステム																																																				
15	まとめ																																																				
16																																																					
	テキスト・参考文献・資料など 『地域福祉の理論と方法』中央法規 その他、必要に応じて講義の際に配付する																																																				
	学びの手立て ①日頃からマスコミを通して目にする地域の福祉問題に目を向けること ②地域の一構成員として、地域の福祉問題との関係や役割等について考えること ③具体的な法律や制度を想定しながら、問題解決の方法について考えること ④各講師の職種が果たす意義・役割等を理解し、地域福祉実践のあり方を考えること																																																				
	評価 出席状況、特にレポートの提出状況や内容を総合的に判断して評価する																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域連携演習 I	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲垣 暁	2年	nahanohana@gmail.com あるいは講義後教室で	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 従来の地縁組織が衰退し、社会的孤立状態に陥った人や、公的支援の谷間に落ちる人が増える中で、コミュニティや地域資源（場・人・機関など）を見直し、支えあいや学びあいを実践する新しいネットワークづくりとソーシャルワークの基礎を習得します。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークやディスカッションを中心に、自分で考え、意見を伝え、他者に耳を傾ける講義です。 大学で学んだことを地域に還元し、地域からは社会的な学びをいただく「サービスマーケティング」を目指します。 受講生の同意のうえで、オプションとしてランチタイムの活用や講義時間外の活動もあります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域に存在するさまざまな課題に気づき、住民との信頼関係づくりができる感性を身につける。 地域課題について改善や解決の方法を住民とともに考え、行動と発信ができる感性を身につける。 地域内外の人的資源や機関、場をつなぎ、新たな社会的価値や地域の喜びを作り出すコーディネートの感性を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(他の講義との違い、聞く技術・話す技術・メモ技術)	
	2	地域コミュニケーション基礎①（地域ワークショップ技術・グループテーマ設定）	関連情報の収集
	3	地域コミュニケーション基礎②（地域情報整理・再発信）	関連情報の収集
	4	地域コミュニケーション基礎③（地域課題への気づき）	関連情報の収集
	5	地域フィールドワーク基礎①（まちあるき）	関連情報の収集
	6	地域フィールドワーク基礎②（マッピング）	関連情報の収集
	7	地域フィールドワーク基礎③（現場への参画）	関連情報の収集
	8	コミュニティソーシャルワーク基礎①（ボランティア・コーディネート企画）	関連情報の収集
	9	コミュニティソーシャルワーク基礎②（地域ヒアリング）	関連情報の収集
	10	コミュニティソーシャルワーク基礎③（行政ヒアリング）	関連情報の収集
	11	コミュニティソーシャルワーク基礎④（地域エコマップ作成）	関連情報の収集
	12	コミュニティソーシャルワーク基礎⑤（アクションプラン作成）	関連情報の収集
	13	コミュニティソーシャルワーク基礎⑥（地域交流実践）	関連情報の収集
	14	コミュニティメディア発信①（番組企画入門）	関連情報の収集
15	コミュニティメディア発信②（番組制作入門）	関連情報の収集	
16	テスト（新聞記事制作を通じて情報整理力のチェック）	関連情報の収集	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストや資料や随時、配布します。 参考文献は初回講義で提示します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>・社会や地域のできごとに関する好奇心、問題意識を常に持つておいてください。・そのためには、新聞、ニュース番組、ニュースサイト、書店（とくに新書コーナー）に毎日でも目を通す習慣を。・社会課題の現場に入るため、受講生の都合を聞きながら他の時間に振り替えることがあります。その場合、参加できない人はレポートや自分で時間を作ったの取材など課題提出をしていただきます。・また、フィールドワークなど時間が必要な際は、受講生の合意のもとで昼食休憩も使って活動を行うこともあります。・いわゆる「活発な学生」「意識高い系」が高評価になるとは限りません。本講義は、多様な人々が集まってお互いを認め合いながらよりよい社会づくりを実践する人を育てることが目標であり、それぞれの持ち味を受講生同士で生かしあう学びです。障がいのある学生を歓迎します。教員および学生間で支え合うので、気後れせずにとんちんチャレンジしてください。</p>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> 日常的なあいさつ（社会や地域活動の基本中の基本です） グループワークやディスカッションにおけるリーダーシップ、コーディネート力、マネジメント力、他の人を支える力 出席および提出物の内容 講義時間内外の現場フィールドワークや実践に関わった人（講義時間外、不定期）も積極評価します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 本講義で習得するコミュニケーション等のスキルは、他の科目で応用したり、リーダーシップをとることでさらに磨きをかけることができます。他の講義や学外で積極的に活用してください。 講義以外にも、学生のニーズに応じて学内外で自主ゼミを開講することがあります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学生自身の実践的かつ積極的な活動を支援し、地域との連携や地域への貢献について深く考え、実践する力を習得することを旨とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域連携演習Ⅱ	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-砂川 亜紀美	2年	ptt814@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実践を通して体験的に①地域と連携することの意義について理解するとともに、②具体的な地域との連携や社会貢献の方法について学び、③地域のニーズを把握して、地域の福祉向上に貢献する素養を育てることを目的とする。	メッセージ 地域のニーズに目を向け、それに対応する各種の福祉施策・実践等に関心を持って、自分自身で積極的に学ぶ姿勢で受講することを期待する。実際に、地域と連携する場への参加をするため、その状況にふさわしい判断や行動ができるよう心がけてほしい。
	到達目標 福祉の現場では、多様な専門職との連携していくための高い専門性や幅広いネットワークが求められ、さらに、時代や社会の期待に応じていく姿勢が求められている。そこで、本演習では、地域のニーズに対応する連携のあり方について理解し、大学と地域が連携する事業に協力し、具体的に実践していく。その中で自ら課題を見つけ、解決していく方法を考え、実践する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の中で提示する
	2	地域連携、社会貢献とは	同上
	3	地域の資源（行政・民間など）を理解する	同上
	4	地域連携について理解する	同上
	5	社会のネットワーク化の仕組みを理解する	同上
	6	地域のニーズを探る	同上
	7	地域のニーズの整理	同上
	8	地域との連携の方法を考える	同上
	9	大学と地域が連携した活動に向けての準備	同上
	10	大学と地域が連携した活動の実践①	同上
	11	実践の振り返り①	同上
	12	大学と地域が連携した活動の実践②	同上
	13	市民社会とNPO・NGO	同上
	14	市民社会と地域社会	同上
15	最終発表（地域課題解決の提案）	同上	
16		同上	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介する		
	学びの手立て 受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守る。外部講師や地域へのフィールドワーク時に対応いただく方々への敬意を忘れずに受講すること。講義外の講演会やシンポジウム等への積極的な参加や、チームを組んでのディスカッションや発表の機会が多くあるため、積極的な意思表示や参加を期待		
	評価 各講義でのレポート（40%）、中間発表及び最終発表（40%）、授業態度及び参加状況（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義の中で提示する
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名 知覚心理学	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	木 4	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、種々の感覚・知覚刺激の観察や知覚実験におけるさまざまな知覚体験を通して、人間が外界（身の周りの環境）を理解する際の基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みを理解することを目的とする。また、それぞれの知覚体験に関連する知覚心理学の理論や研究法、知覚心理学の知識や技術を理解することが人のこころの理解にどのように結びつくのか、についても学ぶ。	メッセージ 知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため旺盛な好奇心、自発的・積極的な受講態度、実験グループでの協働が重要になる。日頃は意識していない”知覚という心の働き”を意識を向け、興味・関心を持って受講して欲しい。
	到達目標 ①知覚心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる ②知覚心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、知覚心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・実験グループづくり
	2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
	3	実験①盲点の測定・視野測定
	4	実験②五感を意識するワーク
	5	実験③残像と恒常性
	6	実験④色覚①
	7	実験⑤色覚②
	8	実験⑥視野融合
	9	実験⑦注意①
	10	実験⑧注意②
	11	実験⑨重量弁別①
	12	実験⑩重量弁別②
	13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
	14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
	15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	予備日	
		時間外学習の内容 シラバス、実施要項の内容理解 関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 実験関連資料の予習・復習 /期末課題

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。以下の①～④の参考図書を参照するとよい。 ①大山正 (2000) . 新心理学ライブラリ18視覚心理学への招待一見の世界へのアプローチ サイエンス社 ②松田隆夫 (2000) . 知覚心理学の基礎 培風館 ③大山 正他 (編) (1994) . 新編 感覚・知覚ハンドブック 誠信書房 ④宮谷真人・坂田省吾 (代編) (2009) . 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 その他の参考文献については、必要に応じて紹介する。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習での知覚体験が授業理解に重要であるため遅刻・欠席のないよう体調・時間の管理に留意する。 ・実験、実習の成否は授業外での関連資料の予・復習や実験の準備で決まる。学習時間の確保に努めよう。 ・知覚心理学では「自分で体験し、自分で気づいて・発見すること」が重要。授業や実験に自ら積極的に取り組みグループメンバーと協働できる、好奇心と意欲のある受講態度を望みます。実施要項、配布資料等をよく読み、疑問や不明な点など、担当教員やSAに積極的に質問しよう。 ・様々な実験器具や材料を使用した小グループ実験を行うため希望者が多い場合は心理カウンセリング専攻の上級生から優先して登録を行う。クラスの状況や授業の進度により授業計画や実験内容に変更が生じる場合がある。その場合はその都度説明する。
--------	---

評価	出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定 平常点（出席状況、授業・実験実習への参加態度、授業ごとの観察記録票の内容と提出状況）…50% 期末課題レポート…50%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学概論、認知心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、神経心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。 次へのステージ： 知覚心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。 引き続き、知覚心理学で学んだ知識や技術と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	低所得者に対する支援と生活保護制度	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	非常勤	2年	098-880-2459 okiparaspo23@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・「貧困」について・・・経済的貧困、社会からの孤立について考える ・低所得者に対する制度の概要及び生活保護制度の内容を理解する ・相談支援に必要な姿勢と視点を知る ・支援ネットワークについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「低所得者の支援と生活保護制度」を使用する ・福祉五法について基本事項を整理しておくこと
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給者の急増と社会経済の関係から、不安定な雇用、ワーキングプアの現状について掘り下げ、五法の基礎知識の再確認はもとより、支援者としての特にそのあるべき姿勢と相談支援のノウハウを身につける 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学的人間論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	武田 一博	2年	takeda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人間存在を、自然性・社会性・理性性の3側面から、哲学的に考えることを目的とします。そのことを通じて、人間存在の全体像を考えていきます。哲学とはそうした全体知の営みです。	メッセージ
	到達目標 人間とはまったく不可思議で複雑な生き物だとは、よく言われることですが、それが何を意味するのかを、人間を作り上げている3側面、すなわち自然的生命であり動物であるという点、社会集団の中で共同しながら生きている点、自己意識を持ち、自分の自由な考えや意志に基づいて合理的・理性的に行動しようとする点、から考えていきます。これらの側面は、トリアーデ（三位一体）をなすと同時に、トリレンマ（三すくみの矛盾関係）をもなします。その総体が人間なのです。この人間存在の全体像に迫ります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	哲学の問題として人間を考えること	
2	レポート作成上の諸注意点		
3	人間とは何か：トリアーデとトリレンマ		
4	人間の自然性		
5	「利己的遺伝子の乗り物」		
6	本能の暴力性＝悪		
7	無意識・超自我について		
8	人間の社会性		
9	感情や情動は何のためにあるのか		
10	道徳・規則・法が存在		
11	社会契約説について		
12	人間の理性性		
13	自己意識や自我の存在		
14	自由とは何か		
15	理性的に生きるとはどういうことか		
16	まとめ、レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しません。授業で紹介する本をできるだけたくさん呼んで、自分の頭で考えることが大切です。		
	学びの手立て 授業で出席は取りません。積極的に授業に参加したい人のみ、出席してください。私語している場合、必ず発言してもらいます。発言しない人は、退出してもらいます。居眠りも、外で行なってもらいます。		
	評価 成績の評価は、レポートのみで行ないます。レポート採点の基準は、A4用紙2枚以上にわたり、自分なりにテーマ設定し（テーマを表題にすること）、テーマに関連した文献（紙媒体）を2つ以上使用し、自分の意見・考えを論理的に説得力をもって展開したもの、とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「哲学Ⅰ」、「哲学Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する上で、映画作品や音楽作品も取り入れます。
到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間を捉える視点等の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待 ～近代都市から現代都市へ	欧州「近代都市」の特徴を調べる
	2	アメリカ合衆国の膨張と多人種・多民族国家	身近なグローバル資本を調べる
	3	シカゴ学派古典的都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	都市社会学の基礎理論を考える
	4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	空間と生活様式の関係学ぶ
	5	現代都市を解説する課題Ⅰ ～アメリカ都市の空間構造について	課題レポートの資料収集と作成
	6	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の問題について考える
	7	Black Sociologyの可能性と今後の課題	文化論的アプローチの視点の習得
	8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代から現代までの理解
	9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	鈴木栄太郎と磯村英一の違いの理解
	10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	グローバル化とコミュニティの関係
	11	現代都市を解説する課題Ⅱ ～都市社会学の基礎概念を応用した課題	課題レポートの資料収集と作成
	12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
	13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
	14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える
15	都市社会学のまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	

テキスト・参考文献・資料など
 テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て
 リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価
 受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代都市を解説する学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目：専門演習、卒業演習
 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市社会学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する上で、映画作品や音楽作品も取り入れます。
到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間を捉える視点等の習得。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	都市社会学への招待 ～近代都市から現代都市へ	欧州「近代都市」の特徴を調べる
	2	アメリカ合衆国の膨張と多人種・多民族国家	身近なグローバル資本を調べる
	3	シカゴ学派古典的都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	都市社会学の基礎理論を考える
	4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	空間と生活様式の間を学ぶ
	5	現代都市を解説する課題Ⅰ ～アメリカ都市の空間構造について	課題レポートの資料収集と作成
	6	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の問題について考える
	7	Black Sociologyの可能性と今後の課題	文化論的アプローチの視点の習得
8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代から現代までの理解	
9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	鈴木栄太郎と磯村英一の違いの理解	
10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	グローバル化とコミュニティの関係	
11	現代都市を解説する課題Ⅱ ～都市社会学の基礎概念を応用した課題	課題レポートの資料収集と作成	
12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える	
13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる	
14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える	
15	都市社会学のまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て		
	リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価		
	受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代都市を解説する学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点(計30点)、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー1. および、3. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ専門科目

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	動作法	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>動作法は、自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させる心理療法である。姿勢や動作の改善、ストレスマネジメントなど様々な対象者の心身の支援に有効である。講義では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法を身につけることをねらいとする。</p>	<p>実技の実習の多い講義です。体を通してこころに働きかける心理療法ですので、受講者がベアになり、援助者役-被援助者役に分かれて実技の実習を進めていきます。学びながら自身の心身のメンテナンスを行えることがこの講義の魅力です。</p>
到達目標	<p>①対人援助の基本的姿勢が身につく。 ②動作法の基礎的な知識・技術を使って支援のかかわりができる。 ③動作法を利用した自身のストレスマネジメントができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション —こころとからだのつながりと実習に関する諸注意—	配布資料の復習
	2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～	配布資料の復習
	3	動作法による援助の基礎	リフレクションシート作成
	4	動作法の援助の考え方と基本	リフレクションシート作成
	5	リラクゼーションの見方、考え方	リフレクションシート・実技復習
	6	リラクゼーションの実技 軀幹1	リフレクションシート・実技復習
	7	リラクゼーションの実技 軀幹2	リフレクションシート・実技復習
	8	リラクゼーションの実技 肩を中心としたリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	9	リラクゼーションの実技 股関節を中心としたリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	10	リラクゼーションの実技 総合	リフレクションシート・実技復習
	11	動作法の臨床事例	配布資料の予習・復習
	12	タテ系動作課題について	リフレクションシート・実技復習
	13	座位姿勢の実技	リフレクションシート・実技復習
	14	立位姿勢の実技	リフレクションシート・実技復習
15	まとめ	リフレクションシート・実技復習	
16		レポート作成	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは講義の中で適宜、資料を配布する。 参考図書「動作法ハンドブック 基礎編」慶応大学出版</p>
----	--

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本授業では、身体を通してこころに働きかける心理療法を実習を通して学ぶ。相手のからだを扱うこと＝こころを扱うことである。実技では相手を思いやり、真摯な態度で実習に臨むこと。 ●実習時の講義は体育館地下の武道場で行う。 ●実習の時には、激しい運動はしないが、床にあぐら姿勢、横になる姿勢を取ることがある。そのため、からだを動かしやすい格好をしてくる。スカートは不可。
--------	--

評価	<p>講義・実習への参加状況、実技実習への取り組み、毎回のリフレクションシート…70% 最終レポート…30%</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ストレスマネジメント」も併せて受講することで理解が深まる。 動作法を用いた心理支援の実践に関心がある学生は、障害児者を対象とした支援活動のボランティアに参加し、実践を通しながら学びを深めることができる（受講料無料の研修あり）。興味のある学生は担当教員まで申し出て下さい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知心理学	後期	木4	2
	担当者 前堂 志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講の目的は、認知心理学の主要なテーマ（知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識）に関する認知心理学の知識について、文献を読みワークを行うことで理解することである。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、対話し、考える。認知心理学の知識を日常生活に結びつけ、ひとの認知過程を具体的に理解し、認知心理学的に物事を捉え考える視点を持つことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>①認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、認知心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	<p>授業内・外で、「ものごとを認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（認知過程・認知活動）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験してほしい。日頃から自分や人々のこころの動きや働き、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してみよう。目に見えない認知について「観察し、読み、話し、考える」ことを楽しみ、自分のこころの理解に繋げていこう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバス等の内容理解/観察課題
	2	認知とは・認知心理学とは/日常における認知過程	関連資料の復習/1章の予習
	3	私たちは世界をどのように見ているのか：1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
	4	私たちはどうやって言葉や音楽を聴き取っているのか：2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
	5	時間の経過はどのようにわかるのか：3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
	6	意識とはなんだろうか：4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
	7	記憶はどのように知識になるのか：5章	5章の復習/6章の予習/観察課題
	8	私たちはどのように会話しているのか：6章	6章の復習/7章の予習/観察課題
	9	私たちはどのように文章を読み、書くのか：7章	7章の復習/8章の予習/観察課題
	10	私たちはどのように考えるのか：8章	8章の復習/9章の予習/観察課題
	11	モノのデザインは心理学とどのように関わっているのか：9章	9章の復習/10章の予習/観察課題
	12	私たちは自分の心をどのように認知しているのか：10章	10章の復習/11章の予習/観察課題
	13	感情は知的活動にどのような影響をおよぼすのか：11章	11章の復習/12章の予習/観察課題
	14	動物は世界をどのように認識しているのか：12章	12章の復習/観察課題/全体の復習
15	もう一度、認知とは/まとめ	全体の復習と振り返り/期末課題	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：仲真紀子（編著）（2010）． いちばんはじめに読む心理学の本④認知心理学—心のメカニズムを解き明かす— ミネルバ書房 *テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し、持参すること。 参考文献：必要に応じて資料を配布する。以下の①～③の参考図書を参照するとよい。 ①道又爾 他（2011）． 新版認知心理学—知のアーキテクチャを探る— 有斐閣アルマ 有斐閣 ②森敏昭・井上毅・松井孝雄（2009）． グラフィック認知心理学 サイエンス社 ③森敏昭・中條和光（2007）． 認知心理学キーワード 有斐閣叢書 有斐閣</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容をもとに授業内での小グループワーク（課題について対話をしながら考える）を行います。「ひとの認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。 他学科、他専攻学生を受講に際しては、共有科目の心理学Ⅰ、Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。
--------	---

評価	<p>平常点（出席状況、授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50%</p> <p>期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、知覚心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、学習心理学Ⅰ・Ⅱ、神経心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。 次へのステージ：認知心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、認知心理学で学んだ知識と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい 発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいとします。発達心理学 I (前期) では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。	メッセージ 積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。
	到達目標 人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～1章
	2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史を概説する	テキスト序章～1章
	3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する	テキスト序章～1章
	4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）	テキスト序章～1章、資料
	5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）	テキスト序章～1章、資料
	6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）	テキスト序章～1章、資料
	7	発達理論④：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	8	胎児期：胎児期の発達の様子	テキスト2章
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子	テキスト2章	
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①	テキスト3章	
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②	テキスト3章	
12	児童期：児童期の発達の様子	テキスト4章	
13	青年期①：青年期の課題①	テキスト5章	
14	青年期②： // ②	テキスト5章	
15	まとめ	テキスト1～5章	
16	試験日		
	テキスト・参考文献・資料など 前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 その他の資料は、講義中に適宜紹介する		
	学びの手立て 積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。		
	評価 毎回、所定のワークシートを課す。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいとします。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。
到達目標	人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～1章
	2	発達理論①：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章
	3	発達理論②：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	4	発達理論③：主要な理論について紹介する	テキスト序章～1章、資料
	5	胎児期から青年期①：概観①	テキスト1～5章
	6	胎児期から青年期②：概観②	テキスト1～5章
	7	青年期：青年期の課題	テキスト5章
	8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題	テキスト6章
	9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応	テキスト6章
	10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題	テキスト6章
	11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応	テキスト6章
	12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題	テキスト7章
	13	発達課題について：まとめ	テキスト序、5～7章
14	発達研究：展望と課題	テキスト序～7章	
15	まとめ	テキスト序～7章	
16	試験日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版 その他の資料は、講義中に適宜紹介する		
学びの手立て	積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいとします。		
評価	毎回、所定のワークシートを課す。 レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達臨床心理学	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	3年	研究室：9号館618 r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 発達のプロセスの中で生じる様々な心理的葛藤や発達課題について、発達段階ごとに解説する。「発達」の視点を踏まえた心理的援助において理解を深める。	メッセージ 人は日々発達・成長しています。そのプロセスの中で発達課題や様々な心理的課題が生じます。この講義では、発達のプロセスの中で臨床心理学がどのように活かされているかを学びます。
	到達目標 ①成長発達のプロセスの中で生じる心理的葛藤や発達課題について理解する。 ②それぞれの段階でみられる葛藤や課題への心理的援助について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	発達段階を知る
	2	乳幼児の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
	3	児童期の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
	4	思春期の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
	5	成人期の心理臨床	ミニレポート1
	6	自閉スペクトラム症の乳幼児期・児童期の特徴と心理的支援	リフレクションシートの作成
	7	自閉スペクトラム症の青年期・成人期の特徴と心理的支援	リフレクションシートの作成
	8	ADHDの発達段階ごとの特徴と心理的支援	ミニレポート2
9	小児期の病気と心理的支援	リフレクションシートの作成	
10	「がん」と心理的支援	リフレクションシートの作成	
11	「精神疾患」と心理的支援	リフレクションシートの作成	
12	「老い」と心理臨床	リフレクションシートの作成	
13	発達段階に応じた心理的支援①	リフレクションシートの作成	
14	発達段階に応じた心理的支援②	リフレクションシートの作成	
15	まとめ	最終レポート	
16			
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。			
学びの手立て 「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましいです。適宜グループディスカッションを取り入れ、グループの意見を発表してもらいます。積極的に意見を交換して下さい。			
評価 リフレクションシート…50% ミニレポート…20% 最終レポート…30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「学校臨床心理学」、「臨床面接法Ⅰ・Ⅱ」で支援の実際を学ぶ。「行動療法」「動作法」「ストレスマネジメント」「芸術療法」で各心理療法の理論と実践を学び、発達段階に応じた支援のあり方について考えるとよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「人間のこころと行動」「人と人のつながり」に関する心理学的理解を深めるために、犯罪・非行という社会行動を通して学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	犯罪心理学	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山入端 津由	2年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>非行・犯罪のある者に対する的確な理解、また、犯罪や非行が発生する個人的、社会的、状況的な影響による機序について理解を深める。さらに、わが国では、犯罪や非行を抑止する社会防衛の政策（刑事政策）について、具体的などのような罰の効果、教育の効果が期待されて諸政策が施行・展開されているかについても理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>犯罪や非行等を定義した上で、犯罪や非行を理解する理論（モデル）、特に犯・非行の心理学的メカニズムについて学ぶ。これらを踏まえて、わが国の公的統計資料に現れた犯罪・非行事情の理解や、人々から関心がもたれた重大な非行や犯罪事例についても理解を深める。さらに、犯罪や非行のある人の処遇（教育）はどのように行われているか。また、犯罪や非行のある人々の立ち直り（更生）や死刑についても論じる。以上、討議を行いつつ、理解を深める。</p>	<p>日常的に社会で発生している多様な犯罪・非行について、どうしてこうした事が起こるのか、その発生の機序はどのように理解されているのか、個人内要因、社会関係要因、状況要因などの多面的な観点から考え、討議し、理解を深める。具体的な事例の提示、社会事象として公開された映像、直接刑事政策に関わる人々の講演等を駆使して講義を行う。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要）	犯罪・非行情報記事を読む。
2	社会・文化と犯罪（嬰兒殺）DVD「ヤマノミ」、「瀬戸少年院」視聴	課題レポート作成・提出	
3	少年犯罪の好発年齢と脳科学所見	配布資料、文献等の講読	
4	犯罪の原因（個人・環境原因論）	配布資料、文献等の講読	
5	人が悪魔に変わる時（状況と行動）「史上最悪の心理学実験」（NHK）視聴	配布資料、文献等の講読	
6	ルシファー・エフェクト（模擬刑務所実験他、アブグレイブ刑務所事件）DVD	課題レポート作成・提出提出	
7	暴力犯罪（性暴力を含む）	配布資料、文献等の講読	
8	放火ー弱者の犯罪？（アレキシサイミアと放火）	配布資料、文献等の講読	
9	ホワイトカラー犯罪（社会的地位のある人の犯罪）	配布資料、文献等の講読	
10	凶悪犯罪1（神戸連続殺人 少年Aの犯罪）	配布資料、文献等の講読	
11	凶悪犯罪2（永山則夫 一〇八号連続射殺事件）	配布資料、文献等の講読	
12	凶悪犯罪3（詫間守 大阪教育大付属池田小事件）	配布資料、文献等の講読	
13	凶悪犯罪4（光市母子殺害少年）ー死刑を考える	配布資料、文献等の講読	
14	日本の刑事政策と犯罪のある者の処遇	配布資料、文献等の講読	
15	マスコミと犯罪報道	配布資料、文献等の講読	
16	まとめの討議及び総合評価	レポート課題の作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	参考文献 1 大淵憲一 2010 犯罪心理学 培風館 2 大淵憲一 2016 紛争・暴力・構成の心理学 北大路書房 3 大淵憲一（編）犯罪理論 4 細江達郎 2012 凶解犯罪心理学 ナツメ社 5 精神鑑定		
	学びの手立て		
	評価	「鑑別事例の検討」（5回）については、毎回、「鑑別」レポートの提出を義務づけ、これを評価する。なお、評価得点の配分割合は、レポート70パーセント、討議における発言内容と回数を30パーセントとする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 資質鑑別法に関連して、他の臨床心理学科目も関連させて学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 This course is designed to develop student's ability to talk about topics relating to social welfare.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉英語Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ロビンソン サイモン	2年	simonrobinson10@gmail.com	

学びの準備	ねらい Students will develop their ability to introduce in English an area of study or a problem in social welfare, and answer general questions about it.	メッセージ This will be a fun course that involves lots of talking! They will however be some presentations that you will need to prepare, so please be ready to use powerpoint and to practice your presentation in English!
	到達目標 Students will acquire a basic ability to talk about an area of their interest in social welfare. They will be able to describe the social problem they are addressing, and outline the solutions that social workers aim to provide.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Basic conversation skills - self-introductions and first meetings	prepare short self-intro speech
	2	Presentation basics - self-introduction presentations	Make notes on areas of study
	3	Discussion of social welfare topics, identify areas of interest.	Prepare short summary of topic 1
	4	Topic 1 - teacher-led discussion, preparing a short summary	Prepare discussion points
	5	Topic 1 - pair and group discussion, debate activity	Prepare short summary of topic 2
	6	Topic 2 - teacher-led discussion, identifying areas where more discussion is needed	Prepare questions
	7	Topic 2 - pair and group discussion, asking probing questions	Prepare presentation
	8	Student Presentations	Prepare presentations, reflect
9	Student Presentations continued, discussion of content and presentation style	Prepare materials for topic 3	
10	Topic 3 - teacher-led discussion - examining a topic in more detail	Prepare splash diagram	
11	Topic 3 - pair and group discussion, debate activity	Prepare short summary of topic 4	
12	Topic 4 - teacher-led discussion, brainstorming talking points	Prepare list of 10 defences	
13	Topic 4 - pair and group discussion, defending decisions	Decide exam topic	
14	Exam preparation - identify topic, preliminary discussion practice, brainstorming content	Practice introductory comments	
15	Exam preparation - practice with partners	Practice! Practice! Practice!	
16	Final Exam - interview with teacher on social work topic	Nothing	
	テキスト・参考文献・資料など There will be no textbook set for this course - we will work from your learning in other areas of your social work study.		
	学びの手立て The course will mostly involve short discussions in pairs and groups, and also presentations, both to small groups and to the whole class.		
	評価 Assessment will be based on participation in class activities, presentations, and a final talking exam that will be a short interview with the teacher about a subject relating to social work.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 Students who complete this course will feel able to move on to tackle English-language related materials that relate to their chosen presentation and exam topics. Students who are looking for a challenge might consider writing a graduation thesis in English.
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉行財政と福祉計画	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 鍛	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>従来の福祉実践は、国が立案する社会福祉制度の枠組みに基づき実施されてきたが、1990年以降の市町村を中心とするサービス提供が展開されるなど、実施主体が幅広い参入が促進されてきた。こうした社会福祉基礎構造改革後の動向についてまとめるとともに、社会福祉制度の基盤について学習、財政の動向及びこれらの具体的な実施計画である福祉計画の仕組み、実態について学ぶ。</p>	<p>これまで学習してきた福祉行政について振り返り、国会や地方自治体で取り組まれている福祉の在り方について自分なりに問題、課題を整理しておくこと。</p>
到達目標	<p>上記の学習の入り口において気づいた各論について本科目をとおしてまとめていく各分野の現状の課題について掘り下げていく。将来、社会福祉士や福祉の現場に就いていくとき、時代、個人の課題等への適切な相談・支援のできる資質を獲得していく。また、単に知識を身に着けるだけでなく、クライアント心に寄り添う人としての思いやりや配慮の醸成に努めてもらいたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	福祉とは、社会福祉とは、について考える。	学習予定ページの要点を整理する。
	2	社会福祉制度の展開過程について	以下同
	3	国と地方自治体の関係、行政改革のうごきについて	
	4	社会福祉基礎構造改革について	
	5	福祉財政について(1)	
	6	同(2)	
	7	福祉専門機関とその役割について	
8	相談体制と専門職の役割について		
9	福祉計画の目的・意義について		
10	各福祉計画の概要について		
11	福祉援助の現場と福祉計画の検証(1)		
12	同(2)		
13	福祉計画における住民参加の意義とありかたについて		
14	福祉計画の目的・意義について評価について		
15	まとめ		
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・社会福祉士養成講座10「福祉行財政と福祉計画」 中央法規出版を準備しておくこと。</p>		
学びの手立て	<p>・履修にあたって・・・後段の福祉計画については、福祉行政の実践源流において、社会福祉士の役割が期待される事項である。したがって、高齢者、児童、障がい者、地域の各福祉計画のいずれかを入手し、事前にその概要について閲覧しておくこと。</p>		
評価	<p>・到達目標の判定にすするため、期末テスト70%、レポート及び出席状況30%により評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>・社会に出た際、社会福祉士等としてさまざまなケースの相談・支援に遭遇します。相手が何を聞いてほしいのか、を徹底して聞く態度を培い、地域福祉行政の中核をなす立場にあることを自覚して活動してほしいと思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 福祉サービス組織と経営	期別 後期	曜日・時限 水5	単位 2
	担当者 神谷牧人（8）大城篤志（8）	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			原則、授業終了語に教室で受け付けます。ただし、必要に応じて時間外での相談も可能。	

学びの準備	ねらい 平成18年10月の障害者自立支援法の施行以降、福祉事業が保障よりサービスへと変革され、福祉サービスを提供する事業所は従来型の受け身体制ではなく、市場原理のなか利用者や地域から選ばれるサービス展開を主体的に行っていかなければならない。当科目では、マーケティングや差別化戦略等、ひろく経営の観点から福祉を理解する。	メッセージ 学生自身が福祉サービス事業所を開設（もしくは民間の会社として起業）するための企画書ならびに事業計画書を作成。理念や顧客定義、差別化戦略、予算書等の企画立案の手法の獲得を目指す。一方的な講義はほとんどなく、それぞれの手法の説明をおこない、あとはグループでの企画が主な講義スタイルとなる。講義の中から実際に起業家が生まれることを期待している。
	到達目標 到達目標はズバリ「経営者視点」である。福祉サービス提供者として、各々の法人種別毎の意義や目的を理解し、ソーシャル・ミッションを実現するための手法を学び、実際に福祉サービスを提供している法人の経営者と同じ視点の獲得が当科目の到達目標となる。そのような経営者と同じ視点を獲得することは、単純に当科目の評価基準となるだけではなく、社会人として（福祉サービス従事者のみならず）、「何をやっているのか？」ではなく「何のためにやっているのか？」を理解した上で働くことに通ずる。到達目標に対する評価に関しては、企画立案（起業するための事業計画の作成）に「正しいゴール」はないため、講義内での課題に対して能動的に取り組むことで、広義の意味で「プレゼン力（言語化・可視化する力）」や「考える力」「表現する力」の獲得があげられる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	福祉サービスの制度	
	2	社会市場における経営とは	
	3	福祉サービスにかかわる組織の違い	
	4	事業所見学	事前にグループで事業所を見学
	5	事業所を開設する「サービスの決定」	
	6	事業所を開設する「収入と支出を算出する」	
	7	事業所を開設する「予算書の作成」	
	8	中間発表	
	9	事業所を開設する「マーケティング」	
	10	事業所を開設する「差別化戦略」	
	11	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
	12	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
	13	事業所を開設する「事業計画書作成」	
	14	プレゼン資料の作成	
	15	プレゼン資料の作成	
16	事業計画の発表		

実践	テキスト・参考文献・資料など 使用する教科書「新・社会福祉士養成講座 1 1 福祉サービスの組織と経営 第4版」中央法規 定価2,200円（税別）
----	--

学びの手立て	1、履修の心構え：一方的な講義はほとんどなく、グループ毎に「考える」「議論する」内容がほとんどになります。そのため、他人まかせの受動的な姿勢では望まないように。 2、学びを深めるために：アルバイトでも福祉実習でも、どのようなカタチでも一度、経営者と話す機会を作ると、より一層学びが深まると考える。
--------	---

評価	評価配分：最終プレゼン40点満点 / 事業計画書28点満点 / 出席率32点満点 評価基準：出席率に関しては、16講義×2点の計算となります。最終プレゼンや事業計画における評価基準は、マーケティングや市場分析などにおいて、主観ではなく実際に足を運んで可能な限り客観的なデータ（資料）を集めているのか等が評価の基準となる。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：社会調査の基礎、福祉行財政と福祉計画 (2) ディプロマポリシー：地域福祉の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉と倫理	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	2年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は福祉専門職を志す人を対象に、福祉についてやや広い視野から考えることを目的とします。社会に福祉の制度が必要なのは当たり前に見えますが、社会福祉の必要を本気で考えるにはそれなりの理論的根拠が必要です。本講座ではこれをあらためて考え直すとともに、福祉を人間同士の関係と見て、人間同士が触れ合うことについても哲学的小および倫理的に考察するつもりです。</p>	<p>人間福祉学科の専門科目です。福祉に興味がない受講希望者はいないでしょう。倫理学の方はどうでしょうか。あたりまえに感じられることをあらためて考え直すのが哲学という学で、倫理学はそのなかで特に実践について考える部門です。ですからここでも人間同士の良い触れあいとは何かを、あらためて考える姿勢を求めたいと思います。そのような関心に耐える心構えがさしあたりの準備です。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の倫理的根拠について、これまで考えられた概略が説明できるようになる。 ・福祉の必要について、漠然と良いと思う以上の理論的根拠を自分自身で考えられる。 ・人間の関係についての現代の倫理的考察や議論の一端に触れ、説明できるようになる。 ・人間同士、あるいは他人同士が触れ合うことの意味を、深く考えられるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り	シラバスを読んでくるように。
	2	近代の福祉思想：義務と功利性①。	事典類にあたってみるように。
	3	近代の福祉思想：義務と功利性②。	事典類にあたってみるように。
	4	福祉と善：共同体と徳について考える。	学生同士の議論を勧めたい。
	5	福祉と社会制度：福祉国家のプラン。	事典類にあたってみるように。
	6	あらためて福祉とは何かを考える。	講義後の復習をするように。
	7	近代の人間観①：人格と目的。	講義後の復習をするように。
	8	近代の人間観②：「私・たち」と他者。	講義後の復習をするように。
	9	共同体・人間・社会。	講義後の復習をするように。
	10	福祉と社会的分業：職業としての福祉。	学生同士の議論を勧めたい。
	11	福祉の現場の倫理①：ケアの倫理と公正。	学生同士の議論を勧めたい。
	12	福祉の現場の倫理②：ケアの技術と共感。	学生同士の議論を勧めたい。
	13	福祉の現場の倫理③：感情労働について。	学生同士の議論を勧めたい。
14	批判にどう答えるか。	学生同士の議論を勧めたい。	
15	あらためて福祉と社会。	自分の理解を再検討する。	
16	期末考査。	自分の理解を再検討する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典を引く習慣を身につけるように。</p>		
学びの手立て	<p>受講者の人数にもよりますが、こちらから皆さんにも質問します。活発な議論となることを望みます（皆さんの専門分野なので、すでに皆さん自身にも何か自分の意見があることでしょう）。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。</p>		
評価	<p>最終回にテストをし、同時に小レポートも提出してもらって、その両方によって評価します。配点はテスト85点、小レポート15点の予定です（多少ズレるかもしれませんが）。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります（大人数だと全員の様子を把握できないため）が、積極的に参加してほしいと思います。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので、出席それ自体を取りたてて高く評価することはありません。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>物事の背景思想を学ぶことはすぐに役立つわけではありませんが、その物事を深く考えるためにはぜひとも必要ことです。福祉について漠然と興味があった人が、なぜ社会福祉が必要なのか、あるいはどの程度の規模が適切なのかを、自分で探求するためのヒントとなれたら幸いです。そのような探求ができるようになれば、あとは諸君ひとりひとりが自分の問題を見つけて進んでいけば良いのです。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義修了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	科目「福祉レクリエーション理論」での学びと平行しながら、レクリエーションの技法を基礎を修得する 受講生同士が協力して、それぞれのレクリエーション技術を磨き、将来実践かとしての素養を磨く	講義の全体が身体的な活動を中心とすることから、服装やレクリエーション技法に必要とされる道具等の事前準備が必要である。 受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めること
到達目標	① レクリエーション技術の全体像を理解する ② 基礎的なレクリエーション技法を実践できるレベルまで修得する ③ 自らの計画に基づくレクリエーション実践ができる素養を修得する ④ 場を盛り上げ、参加者の雰囲気・気持ちを読み取る基礎を修得する ⑤ レクリエーション技術の基礎について十分な理解を深める	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、自己紹介	指示された事項について事前学習
	2	アイスブレイクの実践	同上
	3	場面に応じたレクリエーション支援	同上
	4	レクリエーションプログラムの組み立て	同上
	5	グループ運営の技法	同上
	6	グループ活動の応用	同上
	7	手作りイベントの作り方	同上
8	レクリエーション活動とリスクマネジメント	中間のまとめ	
9	児童を対象としたレクリエーション	同上	
10	高齢者を対象としたレクリエーション	同上	
11	グループを対象としたレクリエーション例	同上	
12	様々な道具を使用するレクリエーションの例	同上	
13	レクリエーションとコミュニケーション能力	同上	
14	レクリエーションリーダーの相互支援	同上	
15	まとめ、受講生による学習成果の報告、評価	報告レジメ・PP等の作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など	① 必要に応じて資料を配布する。 ② 参考分件等も必要に応じて提示する。		
学びの手立て	① これまでの国内外の大災害時の状況や公私の対応の状況などについて調べておくこと ② 社会福祉関連法をはじめ災害関連の法規について事前に目を通しておくこと ③ 特に、社会的弱者に対する対応のあり方・現状の施策等について調べておくこと ④ 沖縄県における災害時のあり方について政策提言(案)を作成できることを目指すこと ⑤ その他、積極的・自主的取り組みを期待する		
評価	以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。 ①出欠状況10%、②参加態度10%、③情報収集能力20%、④洞察力20%、⑤まとめる力20%、⑥プレゼン能力20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義内容をもとに、国内外の規則・制度・施策の状況把握につとね、公私の災害時対応のあり方についての政策提言ができるレベルまで考察を深めこと、また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	メッセージ 履修学生は、夏期休暇中に障害児通所施設で1週間のボランティア実習に参加します。
	到達目標 大学教育の中で必要とされるディスカッションやディベート力、レポートやプレゼンテーションの作成能力を高めていきます。ボランティア実習を通して、現場で働くことを体験的に学ぶ機会にもしていきます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。
	テキスト・参考文献・資料など それぞれの授業のなかで紹介していく。
	学びの手立て
	評価 ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に、大学で学ぶことの意義、大学機能の理解、大学生活の特徴を学びます。演習形式の特徴を活かし、ゼミ生が共に切磋琢磨しながら教養を深め視野を広げることを目的とします。	高校までの学びと大学での学びは大きく異なります。そこで、大学で学ぶことの意義、学ぶためにどのように大学の機能を活用するか、大学で学ぶ上で身につけたい技術（主にレポート作成）について共に学びましょう。
到達目標	①大学で学ぶことの意義を理解することができる ②大学の機能を理解することができる ③レポートの書き方を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要説明、レポート課題①大学生活の抱負	
	2	自己紹介①	
	3	自己紹介②	
	4	大学で学ぶことの意義①大学の歴史から考える	
	5	図書館オリエンテーション	
	6	大学で学ぶことの意義②高校までの学びとの相違	
	7	1日研修のオリエンテーション	
	8	大学の機能を理解する①キャリアセンター	
	9	大学の機能を理解する②グローバル教育支援センター	
	10	大学の機能を理解する③福祉・ボランティア支援室	
	11	大学の機能を理解する④キャンパス相談室	
	12	大学の機能を理解する⑤トレーニング室/グラウンド	
	13	社会福祉専攻専門科目の特徴を理解する～海外社会福祉演習、ボランティア関連科目等～	
14	レポートの書き方：レポート作成のポイントと心得、 レポート課題②社会福祉の今日的課題		
15	レポートの書き方：レポート作成時の疑問を解決する		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。		
学びの手立て	①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。 ②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、大学サービスを活用しましょう。		
評価	演習への主体的参加状況（50%）、レポート（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきましょう。 ②関連科目：1年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目
-------	--

※ポリシーとの関連性 コミュニケーションの技能の修得と実戦的学習を重視し、豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。	大学生生活初年次は、とにかく緊張感を伴います。この講義はその緊張感を少しでもほぐし、後期のグループ学習や討論に向けた人間関係の基礎づくりを行います。大学生活をお互いに支えていく仲間づくりをしましょう。
到達目標	福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。自己覚知と他者覚知を目指す。ゼミの枠を超えた専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。
	テキスト・参考文献・資料など
実践	テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。適宜紹介する。
学びの手立て	<p><履修上の心構え></p> <p>ゼミは学籍番号順を原則にクラス分けが行われる。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。5月中旬ごろに行われる新入生一日合同研修には必ず参加すること。（研修は出席回数3回分に相当する）個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること。必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
評価	全体を100点満点とした場合、そのうち平常点（受講姿勢等）が20点、提出物の提出状況が20点、グループでのディスカッションやプレゼンテーションへの取り組み姿勢が60点という配点で評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：基礎演習（1年次後期）</p> <p>次のステージ：同ゼミではコミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につけることを目標にしており、1年次後期の「基礎演習」で目標とする社会福祉に関する基礎的な課題やグループ学習・討論へと取り組めるように準備すること。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・福祉レクリエーションの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。	メッセージ この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グループ発表の準備	配付資料の確認
	3	グループ発表の準備	
	4	図書館オリエンテーション（予定）	
	5	一日研修のための合同ゼミ（予定）	
	6	合同研修の感想等を作成	
	7	合同ゼミ（ボランティア支援室概要等の説明予定）	
	8	パワーポイントを利用した発表の方法など	配付資料の確認
	9	グループ発表	配付資料の確認
	10	グループ発表	配付資料の確認
	11	グループ発表	配付資料の確認
	12	社会人講師による講話（予定）	
	13	その他	
14	その他		
15	前期のまとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。			
学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。			
評価 出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。 日々の講義態度も評価します			

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド クレイグ ウィルコックス	1年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・福祉レクリエーションの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。	メッセージ この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。
	到達目標 この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。この演習の目標として図書館の利用法、一日研修において他学生との仲間意識の向上、障害者スポーツなどを理解するなどがあげられる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	グループ発表の準備	配付資料の精読
	3	グループ発表の準備	
	4	図書館オリエンテーション (予定)	
	5	一日研修のための合同ゼミ (予定)	
	6	合同研修の感想等を作成	
	7	合同ゼミ (ボランティア支援室概要等の説明予定)	
	8	パワーポイントを利用した発表の方法など	配付資料の精読
	9	グループ発表	配付資料の精読
	10	グループ発表	配付資料の精読
	11	グループ発表	配付資料の精読
	12	社会人講師による講話 (予定)	
	13	その他	
14	その他		
15	前期のまとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。 必要に応じて、資料を紹介・配付する。			
学びの手立て 演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。 グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。			
評価 出席の状況 (50%)、発表・提出物の状況 (40%)、その他 (10%) として評価を行う。 日々の講義態度も評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分ごとの福祉分野に興味があるかを認識してください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

医療・保健・福祉の連携が今後重要となる中、福祉領域の知識の他にも保健・医療に関する知識が重要となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療サービス	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	わが国における保健医療サービスの現状を知り、また、今後の動向について学ぶ。また、高齢社会を背景として、今後さらに進展する保健・医療・福祉の連携のもとで展開される地域包括ケアシステムについて学ぶ。	保健・医療に関する社会的出来事に常に関心をもつことをこころがける。また、わからない医療用語等はすぐに調べるようにする。
到達目標	到達目標は以下2点である。①我が国の保健医療サービスの現状を知り、他者に説明することができる。②今後の我が国の保健医療サービスのあり方を理解し、他者に説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・保健医療サービスとは	保健医療とは
	2	保健医療サービスとその構成要素	人・もの・財と保健医療サービス
	3	医療資源①	医療従事者の種類
	4	医療資源②	
	5	医療資源③	医療施設の種類の
	6	医療資源④	医療法という法律
	7	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療ソーシャルワーカー	MSWの役割を調べる
8	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカー		
9	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス①	クリティカルパスとは	
10	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス②		
11	緩和ケア①	悪性新生物ステージ・末期	
12	緩和ケア②	緩和ケアとホスピス	
13	保健・医療・福祉の連携	地域包括ケアシステムとは	
14	医療の出口に福祉有り		
15	講義の振り返り		
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>新・社会福祉養成講座17「保健医療サービス」(中央法規)</p> <p>*「国民衛生の動向」「厚生労働白書」等を参照することが望ましい。図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができます。</p>		
学びの手立て	<p>人間福祉学科では、保健学・医療学・医学を学ぶ科目は少ないため、日頃からマスコミなどで話題となる用語などには関心をもつこと。</p>		
評価	<p>評価については、出席回数が16回の3分の2以上であり、かつ、客観試験が60点以上であった場合を評価の対象とする。講義への出席が3分の2以下であるか、客観試験が60点以下であった場合には、「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>保健・医療に関する科目は本科目のみであるため、履修後は、マスメディアで騒がれる保健・医療問題に関心をもつ必要があろう。なお、関連科目としては、「人体の構造及び機能と疾病」がある。将来、医療ソーシャルワーカーを目指す学生は履修することが望ましい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健福祉政策論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	2年	オフィスアワーあるいはメール (i.ashitomi@okiu.ac.jp)で確認してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	健康課題に対する国の施策を理解する。なお、健康課題を考える上で基礎となる人体の構造と機能及び疾病についても同時に学ぶ。	我が国における健康課題に関心をもち、また、不健康状態を惹起する生活習慣などに関心を示してもらいたい。

到達目標	一般目標：我が国における保健福祉政策について理解する。行動目標：①主たる保健福祉政策について説明できる②健康課題の基礎となる疾病について説明できる③基本的な人体の構造について説明できる
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・政策とは・我が国における健康課題・生活習慣病	
	2	悪性新生物（がん）：死因上位の大腸・肺・胃・乳房・膵臓・肝臓各臓器がん	消化器系臓器を調べる①
	3	消化器系臓器（大腸・胃・膵臓・肝臓）・呼吸器系臓器（肺）・生殖器系臓器（乳房）を知る	呼吸器系臓器を調べる②
	4	がん対策の今：分野別（治療・予防（タバコ対策・検診・普及啓発）等）	がん対策を調べる
	5	たばこ対策：たばこの害を知る	タバコの害について調べる
	6	心疾患と脳血管障害：虚血性心疾患と脳梗塞という病気あなたは知っていますか/心臓と脳を知る	心臓と脳について調べる
	7	心筋梗塞・脳血管障害と動脈硬化：動脈硬化って血管が硬くなること???	心筋梗塞について調べる
	8	生活習慣病対策からみた心筋梗塞及び脳血管障害対策	脳梗塞について調べる
	9	中間試験	
	10	生活習慣病対策：特定健診・特定保健指導・・・まずはメタボを知る	メタボについて調べる
	11	特定健診・特定保健指導の概要	メタボ健診について調べる
	12	腎疾患対策：泌尿器系臓器・・・腎臓について知ろう。どこにある？どんな働き？	腎臓の位置は？
	13	腎疾患患者は毎年増えている。慢性腎臓病（CKD）、人工透析療法、腎移植	人工透析について調べる
	14	腎疾患対策	医療費の公費負担制度について
15	健康増進対策：第一次国民健康づくり～	国民健康づくり	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：特にテキストは指定しない。参考文献：国民衛生の動向、厚生労働白書を随時参考にする。資料：講義資料については毎講義時に配付する。

学びの手立て	我が国における健康課題について、新聞・テレビ等マスコミ情報につねに関心をもち、不明な用語等については医学辞書等で確認することが望ましい。また、健康課題を考える上で基礎となる人体の構造や疾病についても関心を示してほしい。
--------	---

評価	評価については、中間・期末試験点数をもって決定する。但し、6回以上の欠席者については試験の点数にかかわらず「不可」とする。なお、毎回提出する出席票について不正（代筆等）が発覚した場合には代筆を依頼した者、受けた者共に「不可」とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目については、保健福祉政策のうち、健康課題に関する政策を中心とした講義内容とする。また、健康課題を考える上で基礎となる人体の構造や機能及び疾病についても同時に学習することとなる。関連科目として、保健医療サービス、ケアマネジメント論、人体の構造と機能及び疾病（今年度は開講しない）がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性 人間福祉学科の生徒を主な対象とし、実践的活動を重視した教育として、幅広い視野を持つための講義と位置付けます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア・NPO論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。ptt514@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。	これから社会へ飛び出す学生諸君一人ひとりが自らを見つめ直すきっかけづくりにしていただきたい。そこから市民社会を考え、ボランティア・NPOへの見識を深めて、実際、何らかのアクションを起こせるようになってほしい。
到達目標	自らの役割を認識しつつ、ボランティア、NPO、市民社会等についての見識を深められるようになります。また、オルタナティブな社会を垣間見ながら、実社会のあり方を考えられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	NPO、ボランティアとは	レジュメをよく読むこと
	3	社会の発展	同上
	4	自己とは	同上
	5	社会のしくみ	同上
	6	市民社会とは	同上
	7	メディアリテラシー	PCの操作を把握しておくこと
	8	リサーチリテラシー	同上
	9	地域を知る方法	同上
	10	地域を変える方法①	同上
	11	地域を変える方法②	同上
	12	地域を支える経済的しくみ①	同上
	13	地域を支える経済的しくみ②	同上
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①	同上	
15	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②	同上	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。		
学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、ボランティア・NPO活動を行っている学生、行いたい学生の履修が望まれる。		
評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「ボランティア論」、「協働社会論」があるが、併せて履修するのが望ましい。 実際、ボランティア、NPO活動に取り組みながら、肌でボランティア、NPOを感じていただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	2年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい 臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。	メッセージ 講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。
	到達目標 ・臨床心理学の、歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの基礎的な知識を広範囲に学ぶことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
	2	臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準	同上
	4	臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）	同上
	5	臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティ障害など）	同上
	6	臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）	同上
	7	臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）	同上
	8	臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）	同上
9	臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）	同上	
10	臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティの評価）	同上	
11	臨床心理学的方法：心理療法1（来談者中心療法・認知療法など）	同上	
12	臨床心理学的方法：心理療法2（箱庭療法・芸術療法など）	同上	
13	臨床心理学的方法：心理療法3（家族療法・短期療法）	同上	
14	臨床心理学的方法：心理療法4（家族療法・短期療法）	同上	
15	臨床心理学的方法：まとめ	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
	テキスト・参考文献・資料など 各講義毎に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。 講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。		
	学びの手立て 履修の心構え： ・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。 ・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。		
	評価 基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・臨床心理学 I の内容は、臨床心理学 II で知見を深めていくための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	2年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>・「臨床心理学Ⅰ」で学んだ、臨床心理学の歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの広範囲な基礎的な知識の中から、いくつかのテーマを取り上げ、少し理解を深めていくことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる</p>	<p>講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
	2	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について	配布資料の確認と別途文献での確認
	3	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について	同上
	4	臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割	同上
	5	臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析	同上
	6	臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー	同上
	7	臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト	同上
	8	臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）	同上
	9	臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論	同上
	10	臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語	同上
	11	臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）	同上
	12	臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）	同上
	13	臨床心理学的トピック3：心と現代の脳科学	同上
14	臨床心理学的トピック4：虐待（性被害）の臨床	同上	
15	全体のまとめ	全ての配布資料の再確認	
16	試験	総合評価60点未満で不可	
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義のなかで適宜資料を配布する。 講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。		
	学びの手立て		
	履修の心構え： ・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。 ・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多数になることがあります。出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。		
	評価		
	基本的に試験の結果を重視します（90%）。その他レポート、授業への参加姿勢など（10%）を加味し総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	・臨床心理学Ⅱではより臨床心理学の知見を深め、より実践的な学習を進めるための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー1、および3. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床面接法Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村 れいか	3年	研究室：9号館618 r.nomura@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>各発達段階における心理臨床的援助の特徴、平時の支援とは異なる災害における心理支援について理解する。発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。受講者が心理臨床的支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取ってほしい。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばす。</p>	<p>講義を一方的に聞くだけでなく、学生が相互に意見を交換できる講義です。知識の吸収だけでなく、心理学を通して自分を成長させるという意欲をもって臨んで下さい。</p>
到達目標	<p>①各発達段階における心理的支援の基本的な留意点、特徴について理解できる。 ②平時の心理的支援と災害時における心理的支援の違いについて理解できる。 ③心理療法（カウンセリング）の事例についてグループディスカッションを通し、他者の意見を聴き、自分で考え、意見を述べることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理臨床的援助のモデル①	リフレクションシートの作成
	2	心理臨床的援助のモデル②	リフレクションシートの作成
	3	心理臨床的援助の過程	リフレクションシートの作成
	4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）	リフレクションシートの作成
	5	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期の事例）	リフレクションシートの作成
	6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）	リフレクションシートの作成
	7	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期の事例）	リフレクションシートの作成
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期）	リフレクションシートの作成	
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期の事例）	リフレクションシートの作成	
10	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）	リフレクションシートの作成	
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期の事例）	リフレクションシートの作成	
12	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）	リフレクションシートの作成	
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期の事例）	リフレクションシートの作成	
14	心理臨床的援助の基本的留意点（災害時）	リフレクションシートの作成	
15	まとめ	最終レポート	
16			
テキスト・参考文献・資料など	講義の中で適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。①心理臨床的援助の基本事項→②事例についてディスカッションという流れで講義を展開します。また、毎回の講義で学んだことを自分の日常体験や社会的事象と結びつけてリフレクションシートにまとめて提出してもらいます。講義ではそれをいくつかピックアップし、匿名で紹介し、他の受講生の考えを知ることができる講義であるため、様々なもの見方が広がります。そのため積極的に考え・意見を述べて（記述して）ほしいです。</p>		
評価	リフレクションシート…50% 最終レポート…50%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「臨床面接法Ⅱ」で基本的な関わり技法について実践的に学ぶ。「行動療法」「動作法」「ストレスマネジメント」「芸術療法」で各心理療法の理論と実践を学ぶ。「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」で各領域での支援の実際を学ぶ。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床面接法Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	5号館424-2研究室 (098-893-3710) h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。	メッセージ カウンセリング技法を身につけるための講義。毎回少しずつステップアップしながら、実践的なスキルの修得を目指していく。
	到達目標 臨床面接技法の理論を学ぶ。 実践的な臨床面接技法を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに（臨床面接の技法）	
	2	クライアントの話	配布資料の復習
	3	感情の反射	配布資料の復習
	4	焦点づけ	配布資料の復習
	5	クライアントの質問	配布資料の復習
	6	カウンセラーの質問（1）	配布資料の復習
	7	話し手と聞き手	応答練習（ロールプレイ）
	8	対話分析	配布資料の復習
	9	クライアントへの応答	応答練習（ロールプレイ）
	10	カウンセラーの質問（2）	配布資料の復習
	11	カウンセラーの質問（3）	配布資料の復習
	12	ケース理解（グループディスカッション）	
	13	カウンセリングの実際	課題レポート作成・提出
	14	援助的応答（1）	配布資料の復習
	15	援助的応答（2）	学期末試験に向けた総復習
	16	学期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、資料とワークシートを配布する。 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 面接技法を身につけるため、段階的に講義を積み重ねていくので、遅刻・欠席厳禁。 やむなく欠席した場合は、必ず前回資料を受け取り、次週までに自学自習をして臨むこと。		
	評価 毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。 関連科目は「臨床面接法Ⅰ」である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	レクリエーション理論	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良昌徳（2回） 細田奈々（13回）	2年	講義修了後に教室で。又は保良研究室	

学びの準備	ねらい 講義を通して、レクリエーションの歴史・概念、生活におけるレクリエーションの意義とその内容、さらに福祉現場におけるレクの有用性等について理解する	メッセージ 自分を見つめ、自分のコミュニケーション能力、他人との交流のあり方、グループ活動におけるリーダーシップ等について考え、社会活動におけるレクリエーションの意義や効用、可能性等について整理しておくこと
	到達目標 ① レクリエーションの定義・概念等について理解する ② 社会におけるレクリエーションの歴史・変遷について理解する ③ 社会生活におけるレクリエーションの意義・効用について理解する ④ レクリエーションの種類・分離・内容等について理解する ⑤ レクリエーションと福祉的支援について理解する ⑥ その他	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義の趣旨の理解
	2	これからの社会とレジャー・レクリエーション	指示された課題・内容の準備
	3	レクリエーションとは何か	指示された課題・内容の準備
	4	レクリエーション運動の歴史とその背景	指示された課題・内容の準備
	5	レクリエーション支援の考え方	指示された課題・内容の準備
	6	ライフスタイルとレクリエーション	指示された課題・内容の準備
	7	高齢社会と課題とレクリエーション	指示された課題・内容の準備
	8	福祉レクリエーションの内容	指示された課題・内容の準備
	9	コミュニケーションの基本	指示された課題・内容の準備
	10	レクリエーション事業	指示された課題・内容の準備
	11	レクリエーション活動の安全管理	指示された課題・内容の準備
	12	ホスピタリティの考え方	指示された課題・内容の準備
	13	アイスブレイキングの意義及びプログラミング	指示された課題・内容の準備
	14	レジャー・レクの国際比較・余暇能力	指示された課題・内容の準備
	15	まとめ、成果の発表	指示された課題・内容の準備
	16		
	テキスト・参考文献・資料など ① 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』 ② その他、必要に応じて資料を配付する		
	学びの手立て ① いろいろな生活場面でのレクリエーション技術の活用を考える ② 様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める ③ 自分の特技や趣味を活かした独自のレクリエーション技術を見つけること ④ 学校や職場など様々な生活場面で、どのようなレクリエーション技術が活かせるかを常に考える ⑤ 講義の内容から、レクリエーション支援の意味を十分理解し、将来に備えること ⑥ その他、積極的・自主的取り組みを期待する		
	評価 以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。 ①出欠状況20%、②参加態度20%、③課題レポート20%、④レク運営能力30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ① 本科目は、レクリエーション技術Ⅰ・Ⅱの修得をもって完結するものであり、受講生はⅠ・Ⅱも受講すること ② 本科目においてレクリエーションの意味や意義、その概要等について理解し、技術Ⅰ及びⅡの受講に備えること
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年学概論Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	2年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こる様々な問題を解決するための学問である。高齢者の取り巻く現状、加齢に関する身体的・心理的な諸問題などについて学んでいきます。</p>	<p>本講義は、老年学の概論を説明するものとなります。高齢社会の現状、加齢とは何かなどを学んでいきます。</p>

到達目標	<p>心身の加齢変化を追うには成長期から見て行く必要があります、社会的な側面では高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び問題解決のためのスキルを身につける。</p>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	世界の高齢化の現状と課題	テキスト、資料の精読
	3	日本の高齢社会	テキスト、資料の精読
	4	高齢社会の歴史と老化のイメージ	テキスト、資料の精読
	5	加齢の生物学的理論1	テキスト、資料の精読
	6	加齢の生物学的理論2	テキスト、資料の精読
	7	加齢の生物学的理論3	テキスト、資料の精読
	8	加齢と障害の理解1	テキスト、資料の精読
	9	加齢と障害の理解2	テキスト、資料の精読
	10	健康長寿：国際的な展望1	テキスト、資料の精読
	11	健康長寿：国際的な展望2	テキスト、資料の精読
	12	加齢の心理的側面1	テキスト、資料の精読
	13	加齢の心理的側面2	テキスト、資料の精読
	14	認知症の理解1	テキスト、資料の精読
15	認知症の理解2	テキスト、資料の精読	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005)『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。 必要に応じて、参考文献・資料などを紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>テキストや配付資料は事前に読み込んでから受講すること。グループワークや各学生の意見記述課題等も予定しているので必要な情報については積極的に収集はこなうこと。 また、期末試験を行うのでテキスト、配付資料は紛失せず管理をすること。</p>
--------	--

評価	<p>出席状況(20%)、課題レポートの内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は「老年学概論Ⅱ」へとつながる。また、講義受講後や平行して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講してもらいたい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保険についての専門的な知識を習得し、高齢社会において活躍できる人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	老年学概論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス(2) 他オムニバス	2年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 老年学についての各種専門分野について学び、理解をする。	メッセージ この講義は、オムニバス形式で進める。老年学に関連する分野に関する専門的な知識を持つ方々に講義を行っていただく。受講前に事前資料がある場合はきちんと読んでから講義に臨むこと。
	到達目標 老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追いには成長期から見ていく必要があり、社会的側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む公衆衛生学・予防医学的な視点を学び、批判的思考と問題解決のためのスキルを身につけることを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	沖縄の食と栄養・健康転換 ー戦後から現在までー
3	沖縄の食から長寿再生を考える ー地域・学校・家族の視点からー	
4	高齢者のうつ	
5	高齢者の自殺	
6	高齢者のニーズと地域包括ケア	
7	健康の社会的決定要因について	
8	老化による変化について	
9	身体的な老化による変化について	
10	老年期の特徴と地域貢献	
11	認知症について	
12	若年性認知症について	
13	沖縄のシャーマニズムについて	
14	家族、友人とソーシャルサポート（ソーシャルキャピタル）	
15	後期のまとめ	
16	期末試験	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, 宮内康二 編訳 (2005) 『ジェロントロジー ー加齢の価値と社会の力学ー』 きんざい その他必要に応じて、資料・参考文献などを紹介する。	
	学びの手立て 事前に読んでおく資料は、授業前には読んでおくこと。	
	評価 出席状況(30%)・課題等の内容、提出状況(30%)・期末試験の結果(30%)・講義中の議論など授業への参加意欲(10%)を総合的に判断して評価します。 期末試験については、講義の内容・配付資料内から問題を出題予定です。各講義の資料等ははなから保管しておくこと。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義受講後や平行して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講してもらいたい。
-------	---